

三 対ソ交渉とソ連の参戦

1 日ソ中立条約廃棄問題と対ソ交渉

967

昭和19年9月8日

在ハルビン宮川(船夫)総領事より
重光外務大臣宛(電報)

小磯内閣成立後の日本の動向についてのマリ

ク大使発言振りに関する情報

ハルビン 9月8日 前10時00分発

本省 9月9日 前11時10分着

第八八號(館長符號扱)

往電第八三號ニ關シ

「マリク」大使ハ歸任ノ途次九月二日當地總領事館員等ニ對シ我方ニ關スル談話ヲ爲セル旨當館諜報者ハ連絡者ヨリ聞込ミタルカ右ニ於テ「マ」ハ先ツ我方内閣更迭前後ノ國內情勢ヲ述ヘタル後小磯新内閣ノ特色ハ「ファツシヨ」の色彩拂拭セラレタル點、蘇聯ニ對シ益々接近セントスル點、米英ト外交折衝ヲ行ハントスル點等ニアリ日本ニ於テハ從

來ノ對外政策上ノ一大轉機期待セラレサル處同内閣トシテハ此ノ上戰爭ヲ繼續スルコトハ諸般ノ情勢ヨリ徒勞ニ過キス左リトテ降伏スルヲ得ス畢竟敵ノ日本本土上陸ニ先シシ和平ノ途ヲ講セントシ居レリト云ヒ次イテ同内閣ニ依リ提議セラルルコトアルヘキ日蘇軍事政治經濟條約ハ現下ノ歐洲情勢ニ鑑ミ又蘇聯國境方面ヨリ日本軍撤退シ居ラサル事實ニ徴シ締結ノ望薄シト述ヘ支那ニ付テハ蔣モ汪モ蘇聯ノ對日滿支政策上好マシカラス蘇政府トシテハ北支、内蒙、滿洲方面ニ勢力ヲ伸張セントスル中共ノ請求ヲ支持スヘシト爲シ更ニ大東亞戰ニ言及シ米英ノ對日總攻撃ハ「タイ」上陸及緬甸占領ニ依リ開始セラルヘク「タイ」上陸ハ本年十二月ナルヘク豫想セラル云々ト語りタル趣ナリ

~~~~~

968

昭和19年9月17日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

重慶政権と中国共産党の接近に関しソ連関与

## の有無等につきモロトフより聴取について

モスクワ 9月17日午後5時00分発

本 省 9月18日午前10時40分着

第一九一一號(緊急、館長符號)

本使ヨリ此ノ機會ヲ利シニ、三ノ問題ニ付意見ヲ交換シタ  
シト前置シ左ノ如キ會談ヲ爲セリ

### 一、支那問題

佐藤、前回會談ノ折(六月二十四日)本使ヨリ支那問題ニ  
付話出テタル處今回更ニ貴委員ノ確認ヲ得タク希望ス  
當日貴委員ハ重慶支那ト日本トノ戰爭ニ付蘇聯ハ中立  
ヲ守ルヘシトノ意見ヲ述ヘラレ日本政府モ満足シ本使  
モ亦本國政府ニ貴見ヲ報告シ得タルヲ幸トセリ本日此  
ノ點ニ付再確認ヲ求ムルニ及ハサル如キモ最近ノ事態  
ハ之ヲ徒爾ナラストスルモノナリ又本使モ之ヲ多トス  
ヘシ近頃種々噂セラルル所ニ依レハ米國側ハ重慶及中  
共間ノ接近ヲ希望シ此ノ目的ニテ策動シ居ルカ如ク又  
蘇聯内ニテモ中共ニ對スル重慶ノ態度ニ付種々批判ヲ  
加フルモノアリ若シ重慶ト中共トカ合同シテ單一戰線  
ヲ設クル事トナラハ右ハ日本ニ對スル抵抗ヲ増大セシ

ムル結果ヲ齎スヘク而シテ右カ蘇聯ノ「インフルエン  
ス」ノ下ニ實現セラルトセハ蘇聯ノ態度ニ付自然懸念  
ヲ生スル譯ニテ即チ蘇聯ノ中立態度ニ鑑ミ右ハ一種奇  
態ナル事態ヲ招來スルコトナルヘシ

「モ」<sup>(2)</sup>、自分ハ支那ノ問題ニ付テハ充分ノ報告ヲ有セス主  
トシテ新聞報ニ依リ承知シ居ルニ過ス尤モ本問題ニ付  
テハ斷片的ナルモ多少ハ承知シ居レリ蘇聯政府ハ支那  
ノ内部問題ニ對シ干涉ヲ欲セス又最近ニ於テモ重慶ニ  
對スル蘇聯ノ關係ニ於テ何等變化ナク從前通ノ關係ニ  
アリ「モ」ノ答ヘハ文字通り以上ノ如キモノニシテ本  
使ノ問ニ對シ直接ノ回答トナリ居ラス但シ本使ハ執拗  
ニ追求スルヲ避ケ態ト此ノ邊ニ止メ且ツ次ノ如ク念ヲ  
押シ置キタリ)

佐藤、本問題ハ日本ノ重要視スル所ニシテ本使ハ蘇聯政  
府カ依然中立ヲ維持スルコトヲ切望スルモノナリ

「モ」、從來ト何等變化ナシ近頃汪精衛ノ消息ヲ聞サル處  
右ハ如何ナル事情ニ依ルモノナリヤ

佐藤、(汪ノ手術及經過良好ナル事情ニ付適宜説明ヲ與  
フ)

## 二、戦後安全保障問題

佐藤、「ダンバルトン、オックス」ノ會議ニ付テハ二個ノ會議豫想セラレアリ而シテ諸種ノ報道ニ依レハ第一會議ハ現ニ米英蘇三國間ニ繼續セラレ獨逸沒落後ノ平和維持及安全保障問題ニ付審議中ノ由ナル處

次テ開催セラルヘキ第二ノ會議ニ於テハ日本沒落後ノ之等ノ問題ニ付討議セラルヘシトノコトニテ同會議ニハ英米支ノ三國参加スルニ止マリ蘇聯ハ参加ヲ欲セサルヤニ聞キ居レリ然ルニ本使ノ考ニテハ問題ノ平和機構ハ世界的ニ見テ單一ノ問題ヲ爲スヘキモノト思ハレ又今ヨリ論議スルハ第二會議ノ結果不明ノ今日假想ノ嫌アルモ第一及第二會議ノ結果ハ單一問題トシテ綜合セラルヘキモノト思ハル貴見如何

「モ」、(笑ヒ乍ラ)夫レ等ノ點ハ自分ニモ不明ナリ英米蘇支ニ取リテモ會議カ如何ナル結果ニ到達スルヤ未タ明カナラス何等カノ好結果ニ到達スヘシト期待セラルルモ判斷ヲ下スニハ時期尙早シ貴大使ノ所謂第一會議モ未了ニテ或ハ第二會議ノ後第三會議アルヤモ知レス豫言ハ困難ナリ

佐藤、第一會議ハ近々終了スル御見込ナリヤ  
「モ」、既ニ終了スヘキ時ナリ然シ終了期ノ如何ハ蘇聯ノミノ問題ニ非レハ其ノ結果ト共ニ自分ニモ不明ナリ  
三、<sup>(4)</sup>在「バルカン」我方公使動靜ニ關スル件

佐藤、最後ニ御話シタキハ最近ノ「バルカン」情勢激變ニ關聯シ日本トシテハ困難ナル事態ニ直面シ居リ即チ該方面及勃牙利日本公使ノ問題ナル處右ニ國カ日本ニ對シ如何ナル態度ニ出ツルヤ今尙不明ニシテ或ハ我方公使ノ駐劄ヲ希望セス引揚ヲ必要トスルニ致ルヤモ計リ難シ此ノ場合ニハ地利的關係ヨリ蘇聯邦領土ヲ經由シテ之等公使竝ニ館員家族等ノ引揚許可ヲ御依頼セサルヲ得スト考フル次第ナリ尤モ本件ハ具體の申出ヲ爲ス迄ニハ至リ居ラス本日ハ豫備のニ御話シ御了知ヲ煩ハサントスル次第ニシテ或ハ右ニ國ニ於テ公使ノ滞在ニ同意スルヤモ知レス

「モ」、(貴大使ハ蘇聯羅馬尼間ノ休戰協定ヲ一讀セラレタルヤト質問シツツ)御申出ノ件ハ考慮スヘシ休戰協定ハ全部發表ノ通ニテ其ノ他ニ何等祕密條項存在セス從テ御話ノ件ニ付テハ全然話合ヒタルコトナキ次第ナリ

リ勃牙利トノ間ニハ未タ休戰問題ニ關シ交渉ヲ開始シ  
居ラス

(以上會談五十分ニシテ辭居ス)  
(去カ)

~~~~~

969 昭和19年9月20日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

重慶政權と中国共産党の接近に關シソ連関与
の可能性について

モスクワ 9月20日後3時40分發
本省 9月21日後7時30分着

第一九二九號(館長符號)

(編注)

往電第一九一二號ノニニ關シ

國共和平問題ニ關スル本使感想ハ右ニ記載ノ通りナル處一
方「モロトフ」ハ支那問題ニ關シテハ餘リ情報ヲ有セスト
語り如何ニモ興味ヲ感シ居ラサルヤノ態ニ見受ケラルルモ
右ハ蘇聯ノ重慶ニ對スル態度確定ニ至ラサル爲態ト言葉ヲ
濁シ居ルモノナルヤモ知ラス尤モ彼ハ支那ノ内政ニ干渉ヲ
欲セストカ蘇聯重慶間關係ニ變化無シトカノ言ヲ爲シ居ル
モ國共合作ニ對シ蘇聯ハ干與スル所無シトハ一度モ明言セ

ルコト無キ點ヨリ考エレハ本問題ハ或ハ米側ノ對重慶壓迫
ト關係シ他日ノ發展性無キニアラスト思考セラレ我方ニ於
テモ依然注意ヲ要スル儀ト認メラルル右ニ付谷大使發閣下宛
電報K第一八七號(貴電第一二二六〇號)「スターリン」ト在
莫斯科中央代表者連ノ會合ナルモノモ或ハ眞實ニ近キヤモ
知レスト考ヘラル

編注 本書第430文書。

~~~~~

970 昭和19年9月28日 最高戦争指導會議報告

「對「ソ」施策ニ關スル件」

對「ソ」施策ニ關スル件

方針

日「ソ」ノ中立的態度ヲ維持シ進ンテ日「ソ」國交ノ好轉  
ヲ圖ル。獨逸ノ崩壞又ハ單獨和平ノ場合ニ對處スル爲メ  
「ソ」ヲ利用シテ情勢ノ好轉ニ努ム。

要領

「ソ」ヲシテ對日提携ヲ中心トスル東亞ノ安定ヲ理解セ



シメ帝國ノ世界政策ニ同調セシムルニ努ム。

之カ爲帝國ノ公正ナル戰爭目的ヲ解明シ帝國ノ對「ソ」提携ノ意圖ヲ徹底セシメ東亞國家トシテノ「ソ」ノ東亞建設及安定ニ對スル理解ヲ促進シ我世界政策ノ基本理念ニ同調セシムルニ努ム。

二、「ソ」カ帝國ニ對シ結局如何ナル意向ヲ有スルヤヲ打診シツツ獨ノ崩壞又ハ單獨和平ノ場合ハ「ソ」ノ對日好意的態度ヲ確保スルニ努ム。

三、日「ソ」間諸懸案ノ積極的解決ヲ圖リ兩國間ノ不必要ナル軋轢ヲ除去スルニ努ム。

四、折衝ニ當リ「ソ」側ヨリ提起スルコトアルヘキ對日要求ニ對シテハ請訓ヲ俟チ積極的ニ考慮ス。

971

昭和19年9月28日 在ハルビン宮川総領事より  
重光外務大臣宛(電報)

ヒトラー政権崩壊の場合に日本がとるべき対

ソ施策につき意見具申

ハルビン 9月28日午後3時00分発

本省 9月28日午前9時00分着

第一〇六號(館長符號扱)

日々難題化スル國際政局ニ對處スル方途ニ付テハ帝國政府ニ於テ常ニ御考慮ノコトト拜察スルモ本官任ヲ日蘇ノ接合點タル北滿ニ受ケテ五ヶ月研究未タ足ラサルモノアルモ最近ノ歐洲戦局緊迫化ニ鑑ミ甚タ僭越乍ラ左ノ通卑見開陳ス(尙本官浦潮在任中昭和十四年九月本省宛電報第三六三號及十五年八月第三二六號御參照アリ度)

熟々歐洲ノ戦局ヲ案スルニ盟邦獨逸ノ形勢ハ遺憾乍ラ日ニ非ニシテ樂觀ヲ許サス「ヒットラー」政權ノ崩壞スルナキヤサヘ憂慮セラルル現狀ナリ

「ヒットラー」ハ曾テハ我カ武者小路大使ニ對シ歐洲獨裁者ノ機微ナル立場ヲ述懷シ一回ノ失敗過失モ愼マサルヘカラス權威ヲ失墜スルニ充分ナレハナリト言ヒタルコトアリシト聞ク然ルニ「ヒ」ノ失敗タルヤ今日一再ニシテ止マサルナリ

翻ツテ東亞ノ情勢ヲ見ルニ米英ノ我ニ對スル反抗ハ日ニ熾烈ヲ加ヘツツアリ獨逸ニシテ崩壞センカ彼等ノ在歐兵力ハ東亞ニ移送セラレ大舉吾ヲ粉碎セント企ツルコト必定ナリ一部ニ歐米ノ人心既ニ戦争ニ倦メリ一旦獨逸崩壞ノ如キ事

態發生センカ歐米人ハ即平和ト安堵シ一服ツケタル氣分ニ  
浸リ最早ヤ對日戰ノ爲新ニ腰ヲ上クル戰意消滅スヘシト爲  
ス說アル處斯克ノ如キハ我方ニ採リ勿怪ノ幸ナルヲ以テ吾  
ハ多少ナリトモ斯ル雰圍氣ノ釀成セラルル様米英ニ對シ宣  
傳ニ努ムヘキハ勿論ナルモ飽迄モ兎ノ緒ヲ弛ムルコトナク  
米英力大舉進攻シ來ルモノト覺悟ヲ決メ

一ニハ豫想サルル米英ノ大進攻迄ニ出來得ル限り戰力ヲ増  
設スルト共ニニハ擧ゲ得ヘキ最初ノ機會ヲ捕捉シ對蘇外  
交ヲ展開シ獨逸沒落後ノ蘇聯ノ吾ニ對スル眞意ヲ突止ムル  
ト共ニ彼ト協定ヲ遂ケ背後ノ安全ヲ確保スルノ策ニ出テサ  
ルヘカラス

帝國外交ハ獨蘇開戰後一大「ヂレンマ」ニ遭過セリ即チ我  
國トノ間ニ中立條約ヲ有スル蘇聯ハ獨逸ヲ以テ勁敵ト爲シ  
獨逸又蘇聯ヲ以テ不俱戴天ノ敵ト爲スニ至リ又蘇聯ノ同盟  
國米英ハ我國最大ノ敵トナル等之ナリ而シテ日蘇間ノ中立  
關係ハ我ニ於テ日獨同盟ヲ米英擊滅ノ目的ニ限り蘇聯ニ於  
テモ米英トノ同盟ヲ獨逸及歐洲ニ於ケル獨逸ノ與國ニ對ス  
ル戰爭ノ目的ニ限定セルカ故ニ幸ニ維持セラレツツアルモ  
獨蘇和平ヲ斡旋シ以テ日獨兩國ノ總力ヲ米英擊滅ニ集中セ

ントスル我カ外交施策ハ此ノ「ヂレンマ」ノ爲ニ結實スル  
ニ至ラス昨年春蘇聯ノ反攻以來後退ヲ續ケ今ヤ腹背ニ敵ヲ  
受クル獨逸ノ運命ハ實ニ危殆ニ瀕ス

今「ヒットラー」政權ノ崩壞スル場合ヲ考フルニ大體次ノ  
三ツニ歸スヘシ

一ハ蘇聯内ニ於テ組織ニ依リ或ル自由獨逸委員會等(蘇聯  
ハ獨軍俘虜ヲ以テ軍隊ヲ組織シアリ)カ蘇聯政府ノ支援ヲ  
得テ親蘇政權ヲ樹立スル場合

二ハ一ト反對ニ米英二國ノ支援ヲ受クル親米英政權ノ樹立  
ヲ見ル場合

三ハ米英蘇三國合作ニ依ル獨逸政權ノ組織セラルル場合  
之ナリ而シテ右何レノ場合モ等シク獨逸ノ沒落ニシテ戰爭  
ハ茲ニ新局面ニ入り帝國ハ最も有力ナル盟邦ヲ失ヒ孤軍克  
ク米英ノ總力ヲ相手トシテ戰ハサルヘカラサルニ至ルヲ以  
テ蘇聯ノ向背ヲ極ムルト共ニ背後ノ安全ヲ確保スル目的ヲ  
以テ蘇聯ト協定ヲ遂クルコト絶體必要トナル次第ナリ抑々  
帝國ト獨逸トノ同盟關係ハ「ヒ」政權沒落セハ自然消滅ト  
ナリ帝國ハ之ニ依テ何等ノ拘束ヲ受クルコトナキ自由ノ立  
場ニ立ツモノナルヲ以テ今後「ヒ」政權崩壞ノ報ニ接スル

トキハ機ヲ逸セス即座ニ蘇聯政府ニ對シ左ノ提議ヲ爲スコト肝要ナリト思考ス

即チ前記「ヒ」政權崩壞一ノ場合(此ノ場合最モ有リ得ヘキヤニ考ヘラル)ハ早速獨逸ノ新政權ヲ承認シ獨蘇開戰前一時實現シカケタル構想ニ基キ日獨蘇「ブロック」結成ヲ蘇獨ニ提議ス

二及三ノ場合ハ獨逸ノ新政權ニ對シ

傍觀ノ態度ヲ執リツツ蘇政府ニ對シ日蘇中立條約ノ延長乃至強化ヲ即チ不可侵條約ノ締結ヲ提議ス

而シテ以上ノ提議タルヤ實ニ帝國ノ運命ニモ係ル重大交渉ナルヲ以テ直接「スターリン」ニ申入ルルコト適切ナルヘク從テ我方使節ハ總理自身莫斯科ニ乘込ム位ノ覺悟無カルヘカラス

抑我方提議ニ對スル蘇聯政府ノ態度ヲ按スルニ蘇側ニシテ「ヒ」政權崩壞ノ機會ニ乘シ米英ト提携帝國ヲ地球上ヨリ抹殺セントスルカ如キ不逞ノ野望ヲ抱カサル限り大小ノ問題ハアルヘキモ無下ニ拒絕スルコトナカルヘシト思考ス殊ニ獨逸ノ崩壞ニ依リ歐洲ノ戰局大詰ニ入り蘇聯ノ米英トノ間ニ最後ノ取引行ハルル段階ニ於テ前記一ノ如キ場合發生

シ蘇聯對米英關係ノ矛盾撞著表面化シタルカ如キ場合アラハ尙更ナルヘシ之ニ反シ蘇聯カ不逞ノ野望ヲ有スル場合モ帝國トシテハ一刻モ早ク其ノ意圖ヲ暴露スルコト對策考究上緊要ナルヲ以テ其ノ爲ニモ前記ノ如キ提議ヲスルコト有利ナルヘシ

而シテ「スターリン」カ果シテ如何ナル代償ヲ要求スルヤハ交渉ノ上ナラテハ判明セサルコト乍ラ少クトモ南樺太、「カムチャツカ」寄リノ北千島ノ數島漁業權等ノ如キ失地失權ノ回復ヲ考ヘ居ルコト丈ケハ中立條約締結ニ關スル莫斯科交渉ノ際ニ於ケル「スターリン」ノ口吻ニ依テ見ルモ確實ナリト思考ス(本官作成松岡「スターリン」「モロトフ」會談錄參照)

以上ニ對シ右ハ却テ數蛇ナラスヤトノ非(難)アリ得ヘキ處蘇聯カ不逞ノ野望ヲ有スルコトヲ知ラスニ行動シ我方カ對米英戰ニ於テ更ニ萬一重大局面ニ當面スル様ナ場合斯ル野望ヲ新タニサルルコトコソ危險千萬ナラスヤ從テ先方ノ野望ニ對シ對策ノ餘地ヲ存スル意味ニ於テモ獨逸崩壞ト共ニ直ニ前記提議ヲスルコト有利ナルヘシ尙右我方提議ニ基ク交渉ノ過程ニ於テ萬一「スターリン」ヨリ米英トノ和平幹

旋ヲ提議シ來タルカ如キ場合我方トシテ之ニ應スルコト然ルヘシト存ス從テ我トシテハ斯ル場合ノ爲豫メ對策ヲ考究シ置クコト必要ナルヘク又「スターリン」カスル斡旋ヲ爲ス動機奈邊ニアリヤ若シ「イグナーチエフ」ノ故智ニ倣ハントスルモノトセハ其代償モ亦鮮カラサルヘシ  
最後ニ何ト云ツテモ以上ハ戰爭中ノ外交交渉ナレハ背後ノ戰力カモノヲ云フコト多言ヲ要セス依テ我戰力カ此ノ交渉中ニ最モ強力ニ表ハルル様施策スルコト肝要ナリ  
在滿大使ヘ轉電セリ

~~~~~

972 昭和19年9月28日 在スウェーデン岡本公使より
重光外務大臣宛(電報)

ソ連の対日観及び対日参戦の可能性に関する
情報について

ストックホルム 9月28日 発
本 省 10月2日前10時25分着

第五〇六號
往電第四六八號ニ關シ
諜報者ノ追加報告(二十六日)左ノ通

一、蘇聯消息通ハ自分ニ對シ最近蘇聯共產黨集會ニ於テ行ハレタル演説ニ付語リタルカ其ノ内容ハ大體共產黨「テーゼ」ノ趣旨ト一致シ居タルニ付自分ハ之ヲ敷衍シ「テーゼ」ノ内容ヲ説明セル處同人ハ「テーゼ」ハ全體トシテ蘇聯ノ方針ニ合致シ居ルモ蘇聯ハ常ニ他國ヲ侵略セスト稱シ居リ未タ曾テ自ラ進テ他國ヲ攻撃スヘシト謂ヒタルコトナシ故ニ對日戰參加ニ關スル部分ハ稍腑ニ落チスト述ヘタリ

此ノ點ハ同感ニシテ自分ハ「テーゼ」ノ拔粹ヲ入手セル次第ニ付原文ニハ或ハ日本ヲ侵略者ト看做ス意味ノ表現法ヲ用ヒ居ルニ非スヤトモ想像セラル

二、同消息通ハ左ノ如キ興味アル見解ヲ述ヘタルニ付御參考迄

英米ノ攻撃ニ依リ日本本土「アジア」大陸トノ連絡絶タレ日本ノ軍事的地位弱化スル場合ト雖蘇聯ニ取リ對日戰ハ容易ニ非ス日本ハ大陸ニ比較的強力ナル兵力ト發達セル軍需工場ノ基礎ヲ有スルヲ以テ本土トノ連絡遮斷セラルルモ其ノ地位ハ絶望ニ陥ルトハ謂ヒ難ク且蘇聯ノ弱化ヲ欲シ居ル英米カ本氣ニ連絡遮斷ヲ試ルヤモ疑問ナリ

對日戰ノ場合蘇聯ハ交通ノ困難ヲ排シ遠隔ノ地ヨリ軍隊ヲ輸送セサルヘカラス「シベリア」工業ハ著シク發達セルモ猶武器資材ノ一部及食糧ヲ西方ヨリ補給スル必要アリ

蘇聯ノ軍隊國民共戰爭ニ疲勞シ居リ其ノ程度ハ恐ラク日本ヨリ大ナルヘク蘇聯國民ハ對獨戰ノ場合ト異ナリ對日戰ノ意味ヲ理解セサルヘシ豐富ナル支那ノ人的資源ヲ利用スル可能性アルモ其ノ意義ハ過大視スヘカラス故ニ對日戰參加ハ日本カ對英米戰ノ結果完全ニ疲勞セル最後ノ瞬間ニ於テノミ問題トナルヘシ

次ニ對日戰ハ不可避ナリヤニ付檢討スルニ世界革命世界征服ニ關スル「コミンテルン」ノ思想ハ除外シテ觀察スヘキナリ

世界革命思想ハ遠大ナル目的トシテ掲ケラレ居ルモ常ニ現實政策ノ背後ニ隠サレ直接表面ニ現ハレ來ラス「スターリニズム」ハ世界革命理想ノ爲國家的利益ヲ犠牲トスルノ危險ヲ冒サス蘇聯ハ歐洲政策ニ於テ帝政時代ノ計畫ヲ踏襲シ居ル處東亞ニ於テモ同様ニ西比利亞ノ安全ヲ期スル爲ノ領土ノ保全ト大洋ヘノ出口ノ獲保ヲ目的トシ居ル

モノト思ハル此ノ點ニ於テ日本ノ滿洲支配ハ蘇聯ニ對スル脅威ヲ意味スルヲ以テ理論上日蘇戰ハ不可避ナリト言ハサルヲ得ス

然レトモ蘇聯ハ今次戰爭ニ到ル迄歐洲ニ對スル計畫實現ノ好機ヲ窺ヒタルト同様東方ニ於テモ徐ニ時機ノ到ルヲ待チ居リ若シ好機ヲ擲ミ得サレハ十年ノ將來ヲ貸シ其ノ間經濟軍事ノ再建ニ努力スヘシ而シテ蘇聯ハ寧ロスル休息期間ヲ欲シ居ルカ如シ他方日本モ亦英米トノ妥協和平ニ依リ休息期間ヲ得ル可能性アル處蘇聯首腦部ノ見解ニ依レハ妥協和平セハ日本ハ占領地域ノ大部分ヲ喪失シ經濟的ニ弱化シ將來ノ戰爭準備ニ對スル物質的基礎ヲ奪ハルルヲ以テ假ニ日蘇共ニ休息期間ヲ得ルトセハ右ハ蘇聯ニ取リ極メテ有利ナリト爲シ居ル模様ナリ

三、蘇聯ノ對日觀ニ關シ蘇聯要人ノ言説ヲ綜合スルニ左ノ如シ

蘇聯ノ見地ヨリスルニ日本ノ「ファツシヨ」國トシテノ程度ハ獨逸程強カラス日本ハ「ファツシヨ」ノ「イデオロギー」ヨリモ歷史的傳統ト民族的特質ニ依リ結束シ居リ近代的发展ニ於テ殆ト獨占資本主義的高度ノ發達ヲ遂

ケタリ此ノ點ハ「イデオロギー」ヲ基礎トスル純「ファツシヨ」ヘノ發達ヲ阻害シ居レリ現ニ日本ニハ獨逸ト異ナリ資本主義ノ支持ト擁護ヲ受クル舊時代ノ政黨及社會層存續シ居リ徹底的社會改革ノ實行ハ極メテ困難ナル狀態ニアリ斯ル弱點ニ付込ミ日本ノ協同體ヲ破壊スルコトハ獨逸ノ如キ純「ファツシヨ」國ニ比シ比較的容易ナルヘシ(註蘇聯ハ民族の基礎ニ立ツ日本國民ノ結束ヲ過小評價スル傾向アリ)

獨へ轉電セリ

973

昭和19年10月17日
在トルコ栗原大使より
重光外務大臣宛(電報)

モスクワ會談におけるソ連への対日戦協力依
頼に関するトルコ外務省からの情報について

アンカラ 10月17日午後3時06分発
本省 10月19日午後1時20分着

第四七九號(館長符號扱)

B情報五(十七日)

十五日發在蘇土耳其大使電報要領

「スターリン」「チャーチル」會談ニ米大使ノ参加殆トナカリシハ注目スヘク米ハ單ニ「プラトニツク」ナ聯絡ヲ執リ居ルニ過キスト認メラレ「チャ」ハ「ス」ニ對シ米側意嚮ヲモ代表シ蘇聯ノ戰後ニ於ケル一般動向ニ關シ確定的保障ヲ欲スル旨竝ニ對日戰短期終結ノ爲蘇聯ノ協力ヲ絶對ニ必要トスル旨表明シ右カ容レラレサル場合ニハ今後三國間ノ協力ハ至難トナルヘキ旨申入レタリ

「ス」ハ蘇側ニ重大ナル利害關係ナキ限り英側要求ヲ容ルルコトトセル模様ナルカ右ハ「ス」カ英獨和平ノ可能性ヲ恐レ居ル爲ト思考セラル即チ波蘭問題ニ關シテハ米側ノ故障ヲ容レ或ル程度ノ讓歩ヲセルモノノ如キモ對日戰協力ニ關シテハ獨逸完全敗退迄ハ絶對ニ之ヲ爲ササル旨確言セル趣ナリ然ルニ米側ハ蘇聯カ若シ對日戰協力ヲ肯ンセサルニ於テハ武器貸與法ノ利用ヲ停止スルト共ニ今後ノ戰争遂行ニ關シ英米ノミニテ方針ヲ決定スルコトスルモ已ムナシトノ強硬意見ヲ有シ居ル趣ニテ「チャ」ハ米蘇關係惡化ヲ恐レ何トカ英蘇協力關係補強ヲ圖ラント腐心シ居ルモノノ如シ

獨へ轉電セリ

974

昭和19年10月18日

在トルコ栗原大使より
重光外務大臣宛(電報)

モスクワ会談における各議題討議結果に関する情報について

アンカラ 10月18日後2時39分発
本省 10月20日後1時25分着

第四八二號(館長符號扱)

I情報第六號(十七日)

一、莫斯科會談カ「ケベック」會談ノ繼續ナルハ周知ノ通りナルカ今日迄右ニ上程サレシ主要ナル議題ハ(イ)波蘭問題(ロ)「バルカン」問題及(ハ)對日協力問題ナリ

(イ)波蘭問題ハ最近大統領ノ選舉ヲ控ヘ米國輿論著シク強硬トナリタル爲(單ニ波蘭系選舉民ノミナラス各種思想及慈善團體等モ動キ出シ往年ノ「ナチ」ノ「ユダヤ」排撃ニ對スル米國輿論ノ傾向ヲ彷彿セシメ居ル由)米側ノ強キ要求ニ基キ第一ニ取上ケラレタル次第ナリ今次英蘇間ニ到達セル妥結ノ要旨ハ(一)倫敦「ルブリン」兩政權ヲ合體假政府ヲ樹立(二)將來政府及政體等ノ改訂ハ獨軍波蘭領撤退後ノ國民投票迄留保スルコトニアル

處^(ロ)ハ倫敦亡命政權ノ解消ヲ意味シ(二)ハ赤軍占領下ノ國民投票ヲ意味スルヲ以テ「バルト」三國ノ例モアリ其ノ決定ハ今日ヨリ既ニ明瞭ト言フヘク從テ本件ニ關シテハ英米ハ面子ノミヲ保持シ實質的ニハ完全ニ蘇側ニ屈伏セルモノナリ

(ロ)「バルカン」問題ニ關シテハ英側ノ強硬ナル態度ニ鑑ミ蘇側讓歩シタルモノニシテ妥結ノ要點ハ(一)土耳其及希臘カ英國ノ勢力範圍ナルコトヲ再確認ス(二)南「スラブ」聯合ノ結成ハ承認スヘキモ(三)勃牙利「ユーゴスラビヤ」及「マケドニヤ」國民兵等ノ「トラキヤ」駐屯ハ許サス等ナリ

(ハ)對日戰爭協同問題ハ從來ノ蘇側ノ態度ニモ顧ミ最後迄殘サレタルモノニシテ目下討議中ト想像セララルル處未タ確實ナル情報ナシ

二、莫斯科會談ニ於テ曲リナリニモ英蘇間ニ妥協成立シ蘇聯ノ東地中海方面進出ヲ一應阻止スル形トナリタルハ土耳其政府ニ取リ此ノ上モナキ吉報ナルモ蘇聯從來ノ遣口ニ鑑ミ右ハ對獨戰爭遂行上止ムナク生レタル數ヶ月ノ Modus Vivendi ナルハ明カニシテ(希臘 Eam 黨ニ對スル

潛行工作ハ勿論）他方英側ニ取りテハ米國大統領選舉ヲ控ヘ宣傳上ノ成功ハ收ムヘキモ對蘇問題ノ根本ニハ觸レサリシ次第ナルヘシ英及蘇聯ノ關係ハ今後共種々曲折アルヘシト判斷シ居レリ

獨ヘ轉電セリ

975 昭和19年10月22日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛（電報）

モスクワ會談の終了とその評価について

モスクワ 10月22日後6時10分發
本省 10月25日前11時00分着

第二一八〇號（館長符號）

十八日終了セル莫斯科會談ノ影響ニ付テハ今少シク時日ヲ經過セサレハ詳細ノ觀測ヲ下スコト困難乍ラ會談ノ重點タリシ波蘭問題ハ遂ニ満足ナル解決ヲ見ルニ至ラスシテ今後ノ折衝ニ俟ツコトトナレルニ拘ラス會談ヲ不首尾ニ終ラスコトナク却テ英蘇兩國首腦者間ノ了解提携ヲ深メタル次第ナリ當國ハ素ヨリ英國側ノ論評モ満足シ居ルカ如シ波蘭問題ニ關シテハ「リュブリン」ノ自由波蘭解放委員會

ヲ通シテ体ヨキ赤化政策ヲ行ハントスルニ對シ倫敦亡命政府カ二回ニ亘リ妥協ヲ試ミテ成ラサリシ次第ニテ親獨派タリシ故「ピルスツドスキー」ノ殘黨タル亡命政府ト赤色解放委員會トノ妥協ハ今後ノ交渉ヲ俟ツ迄モナク餘程困難ト思ハレ英蘇間誤解ノ種トシテ今後モ熾フルコトトナルヘシ共同聲明ノ表面ハ總ヘテ歐洲問題ニ限ラレアルモ「ケベツク」會議ノ後ヲ受ケタルコトナレハ對日問題モ當然議題トナリタルヘシト思ハルモ本件後日「モロトフ」ト會見スルトシテモ真相ヲ擱ムコト困難ナルヘシ但シ萬一獨逸力全面的ニ敗退シタリト假定シ此ノ場合ニハ全世界ハ平和克復ノ津波ニ襲ハレ一大變化ヲ招來スヘシト豫想セラレ其ノ際ニ於ケル當國ノ態度モ甚大ナル影響ヲ受クヘキハ想像セラルル所ナリ右ニ關シテハ我方ニ於テ今ヨリ慎重考慮ヲ要スル儀ト存セラル

本件ニ付テハ後日改メテ卑見申進スヘキモ以上差當り感想閣下ノ御參考迄ニ供ス

976

昭和19年10月28日 重光外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

対ソ施策方針の決定について

本省 10月28日後6時発

第一五二三號(極秘、館長符號、至急)

九月十六日貴大使「モロトフ」委員會談ニヨリ特派派遣問題ニ對スルソ側ノ意向明白トナリタル後政府ハ今後ノ對ソ施策方針ニ關シ慎重研究中ナリシ處九月二十八日最高戰爭指導會議ニ於テ別電第一五二四號「對ソ施策ニ關スル件」ニ付審議了解ヲ與ヘタリ委細守島公使ヲシテ貴使ニ傳達セシムルコトセルモ貴任國政府トノ接觸上右御含アリタシ

編注 本書第970文書。

977

昭和19年10月28日 重光外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

対ソ施策方針作成の意図について

本省 10月28日後6時発

第一五二三號(極秘、館長符號、至急)

往電第一五二四號ノ方針ハ要スルニ此際種々ノ具體的提案

(例ヘハ國境ニ於ケル相互防備撤廢案、不可侵條約案、日支ソ間ノ安全保障條約案又ハ日蘇同盟條約案等)ヲ提出スルモ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルハ明カナルカ日蘇兩國ノ世界政局上ノ立場ヨリ相互ノ立場ヲ理解スルノ努力ニ依リ漸次共通ノ利害關係ヲ見出し更ニ東亞ノ安定確保ニ資スル具體的考案ニ進ミ度キ意嚮ナリ

右ハ帝國興廢ノ岐路ニ立チテ最善ヲ盡ス爲メ有ラユル方面ニ積極的努力ヲ傾倒スルノ趣旨ニ出ツルモノナルニ付御含ノ上此上共御健闘ヲ請フ

尙本件對蘇施策方針ハ群議ヲ排シテ取纏メタルモノナルカ其ノ内情ハ守島ヨリ御聴取アリタシ

978

昭和19年10月29日 在トルコ栗原大使より
重光外務大臣宛(電報)

モスクワ會談におけるソ連への対日戦協力要

諸問題等に関する情報について

アンカラ 10月29日後6時06分発

本省 10月31日前8時40分着

第五〇八號

I 情報第八號(二十八日)

一、莫斯科會談ニ關シ其ノ後判明セル所大要左ノ通り

(イ)波蘭問題ニ關シ英蘇間ニ一應了解成立セルハ既報ノ通りナル處右妥協案ニ不滿ナル在倫敦波蘭政府ハ大統領選舉前ノ「ルーズベルト」ノ機微ナル立場ニ付ケ込ミ米國輿論ニ訴フルト共ニ右承諾ヲ溢リツツアル次第ニテ二十六日「チャーチル」カ議會ニ於テ波蘭側ニ對シ多少不滿ノ意ヲ洩ラシタルハ此ノ邊ノ事情ヲ物語ルモノナリ

(ロ)「バルカン」ニ關シテハ其ノ後希臘側ヨリ戰略的考量即チ舊勃牙利ノ休戰協定ノ成立モ延々トナリタル次第ナルカ英蘇ノ間ニ一九三二年ノ舊國境線ヲ維持スルコトニ話合ナリ且下「イーデン」カ「アテナ」ニ赴キ希臘政府ヲ説得中ナル趣ナリ其ノ後ノ情報ニ依レハ英側ハ「ユーゴースラビヤ」洪牙利ニ關シテモ既得經濟權益ノミ留保シ原則的ニ蘇側ニ讓リタル趣傳ヘラレ居ルモ未タ確メ得ス

(ハ)對日戰協力問題ニ關シ其ノ後土耳其側ノ得タル情報ニ

依レハ「チャーチル」ヲ米國ノ代辯者トシテ「スターリン」ニ對シ「カムチャツカ」ニ海空軍基地二ヶ所ノ供與方要求セルモ「ス」ハ明答ヲ避ケ之ニ承諾ヲ與ヘサリシ趣ナルカ「ス」ハ決定的ニ之ヲ拒否セサリシハ援蘇物資ノ供給繼續ヲ希望セル爲ト信セラル尙右基地ノ一ツハ「ペトロパウロフスク」カ既ニ貸與法ニ基ク米國援蘇物資ニ依リ最近相當改良セラレタル趣ナリ尙「ハリマン」大使カ本會談ニ於テ終始消極的ノ態度ヲ持シタルハ「ル」大統領カ本會談ノ積極的成果ニ期待シ居ラサリシト選舉前ノ自己ノ立場ヲ「コミット」スルヲ欲セサリシニ依ルモノナリ

三、土耳其ニ關シテハ其ノ後特別ノ發展ナク巷間傳ヘラルルカ如ク先般「チャーチル」カ歸途「アンカラ」ニ立寄レリトカ(往電第四九〇號)援蘇物資ノ輸送ノ爲海峽制度ノ變更又ハ海峽國際化ノ爲近ク「イーデン」來土スヘシトカノ報道ハ誤報ナリ但シ戰後ノ平和會議ニ於テ海峽制度ノ根本的改變アルヘキハ土耳其政府モ覺悟シ居レリ

三、土側ノ得居ル情報ニ依レハ莫斯科ニ於テハ近中東(十語脫)

979

ハ最近ノ蘇側ノ露骨ナル進出ノ爲問題カ餘リニモ機微ナ
リシニ依ルモノト想像セラル即チ蘇側ハ例ノ「クルド」
「アルメニヤ」工作ヲ着々ト進メツツアリ殊ニ「アレツ
ポ」ニ於ケル蘇聯領事(「アルメニヤ」人)ノ活動及「ス
エズ」運河ニ對スル蘇側ノ野望ハ痛ク英側ヲ刺戟シツツ
アリ又「イラン」ニ於テハ從來蘇側カ貸與法ニ依リ「ア
ングロ、イラニア」石油ノ約三分ノ一ヲ取得シ居リタ
ルカ最近ハ右會社ヘノ割込及採掘權スラ要求シ始メタル
モノニシテ曩ニ「イラン」政府カ戰爭中利權讓渡ヲ爲サ
サル旨發表セルモ右ニ對應シタルモノナリ(往電第四八
五號後段)



昭和19年11月6日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

革命記念日祝典におけるスターリン演説について

別 電 昭和十九年十一月七日發在ソ連邦佐藤大使よ

り重光外務大臣宛第二二七一號

スターリン演説における對日侵略国批判

第二二七〇號

莫第一三九號

六日夜莫斯科「ソビエツト」主催革命記念日祝典ニ於ケル
「スターリン」演説要旨左ノ通り

「兩戰線間ニ壓縮セラレタル獨逸

赤軍ハ一月「レーニングラード」ノ包圍突破ニ始マリ本
年中引續キ各方面ニ於テ獨軍ニ大打撃ヲ與ヘ獨逸國境ニ
迫リタル他八月ニハ羅馬馬尼十月ニ入り洪牙利ニ侵入同月
末遂ニ諾威ニ進駐スルニ至レリ右作戰ニ依リ獨逸及其ノ
與國ノ百二十箇師ヲ擊破シタルカ客年我軍ニ對峙セル軍
隊ハ二五七箇師(内獨軍二〇七)ナリシモ今ヤ右ハ二〇四
(内獨軍一八〇)師團トナリ居レリ

本年中赤軍ノ作戰カ聯合軍ト協同ニ行ハレタルハ新タナ
ル契機ト稱スヘク「テヘラン」會議ノ結果赤軍ノ夏季作
戰ニ呼應シ聯合軍ノ佛國上陸トナリ獨逸ヲシテ二方面作
戰ヲ餘儀無クセシメタリ獨軍七十五箇師ヲ引付ケタル第
二戰線無クシテハ赤軍ノ迅速ナル蘇聯領外獨軍驅逐不可

モスクワ 11月6日後7時55分發
本 省 11月12日前10時50分着

能ナリシナルヘク同時ニ二百ノ獨逸師團ヲ引付ケ得タル赤軍ノ夏季作戰無クシテハ聯合軍ハ斯クモ急速ニ獨軍ヲ中部伊太利佛白ヨリ驅逐スルコト能ハサリシハ評ナキ所ナリ

二、祖國戰ニ於ケル蘇聯國民ノ偉大ナル功績

斯カル赤軍ノ勝利ハ銃後ニ於ケル勞働者農民「インテリゲンチヤ」竝ニ國家黨各機關ノ獻身の努力ノ賜ト言ヒ得ヘク戰爭第四年目ニ於テ我カ工場ハ開戰當時ノ數倍ニ及フ飛行機各種砲彈藥ヲ生産シツツアルト共ニ我カ農業モ亦急速ニ恢復シツツアリ斯克テ蘇聯ノ財の基礎ハ鞏固ナルモノアリ

「ソビエト」愛國主義ノ力ノ根源ハ各民族ノ友好團結ニ存スル處獨逸ノ民族理論カ與國サヘモ對獨戰線ニ驅ラシメタルニ反シ他國民ノ權利獨立ヲ尊重シ友好的共存ヲ念トスル蘇聯國民ノ自由愛好國民トノ關係ハ益々緊密化シツツアリ人種民族ノ平等竝ニ親善ノ思想ハ獨逸ノ野獸的國家主義ニ打克チ歐洲諸民族ヲ獨ノ桎梏ヨリ解放セルカ右ハ蘇聯國民ノ人類史上ニ於ケル偉大ナル功績ナリ

三、對獨聯合ノ強化竝ニ平和及安全保障問題

過去一ケ年間ハ對獨聯合國ノ勝利ノ年ニシテ「テヘラン」會議決定及右實行竝ニ「ダンバートン」、オークス」ノ決定ハ對獨聯合陣ノ鞏固ナルヲ示スモノナリ

勿論安全保障會議ニ於テ意見ノ相違アリ今後モ亦幾多ノ問題ニ付意見ノ相違ハアルヘシヨリ大ナル相違ハ現ニ第二戰線開設ノ問題ニ付テモ存在シタリ

然レ共右ハ結局協調的態度ニ於テ解決セラレタリ同様ノコトハ「ダンバートン」會議ニ付テモ謂ヒ得ヘク同會議ノ特徵トシテ舉クヘキハ若干ノ意見相異カ露出セル點ニ非スシテ安全保障ニ關スル問題ノ十分ノ九カ完全ナル一致ニヨリ解決セラレタルコトニ在リ「チャーチル」「イーデン」トノ莫斯科會談ハ更ニ一層明瞭ニ聯合國戰線ノ鞏固ナルヲ示スモノナリ

獨逸ハ戰爭中英米蘇三國離間ノ爲絶望的努力ヲ爲シタルカ戰爭三年間以上ノ試練ニ耐エ得タル三國ノ同盟關係ハ戰爭完了段階ニ於テモ更ニ試練ニ耐エ得ヘキハ疑無キトコロナリ(以下別電第二二七一號)

而シテ安全保障機構ハ國際聯盟ノ悲劇ノ再現ニ非ス對獨戰ニ於テ其ノ重荷ヲ荷ヘル諸大國カ一致協調ノ精神ヲ以

テ行動スルニ於テハ右機構ハ有動ニ活動スヘシ
 蘇聯國民竝ニ赤軍ハ祖國戰ニ於テ自己ノ任務ヲ良ク果シ
 ツツアリ而シテ吾カ土地ハ今後永久ニ「ヒットラー」獨
 逸ヨリ解放セラレタリ赤軍ハ聯合軍ト共ニ最終的任務ノ
 完遂ニ當ラサルヘカラス

(別電)

モスクワ 11月7日午後5時39分発
 本省 11月10日前10時10分着

第二二七一號

聯合國ノ大勝利ハ何等疑ヒ無キ所ナルモ對獨戰ノ勝利ハ尙
 將來ノ鞏固ナル平和及安全保障ノ確保ヲ意味セス吾人ノ任
 務ハ永遠ト迄ハ行カサルモ少クトモ長期間ニ於テ新ナル侵
 略行為及戰爭發生ヲ不可能ナラシムルニ在リ獨逸ノ敗北後
 獨逸カ經濟的政治的ニ無力化セラルヘキハ當然ナルモ之ニ
 テ獨逸カ再ヒ侵略ヲナサスト考フルハ幼稚ナリ獨逸ノ首魁
 連カ既ニ新ナル戰爭ヲ準備シ居ルハ周知ノ事實ナリ歴史ハ
 二十年乃至三十年ノ短期間ニ於テ獨逸カ敗戦ヨリ自己ノ力
 ヲ恢復スルニ充分ナリキ侵略阻止ノ爲或ハ尙且侵略カ發生

スルトセハ大戰爭ニ發展セサル爲其ノ當初ニ於テ鎮壓セン
 カ爲ニハ如何ナル手段ヲ採ルヘキヤ

侵略國ハ戰爭ニ興味ヲ有セサル平和愛好國ヨリ戰爭ニ對シ
 ヨリ良ク準備スルハ歴史ノ示ス所ニシテ今次戰爭開始前侵
 略國ハ「侵略軍」ヲ準備セルニ對シ平和愛好國ハ「動員ヲ
 擁護スル爲ト軍隊」サヘモ有セサリキ侵略國タル日本カ平
 和政策ヲ固執セル英米ヨリ良ク戰爭準備ヲナシ居リタルト
 キ眞珠灣ノ事件、比島其ノ他太平洋諸島ノ喪失、香港、新
 嘉坡ノ喪失ノ如キ不愉快ナル事實ハ偶然トハ思考シ得ス
 獨逸カ侵略國トシテ平和愛好國タル蘇聯ヨリヨリ良ク準備
 シ居リタル時對獨戰第一年ノ「ウクライナ」白露沿「バル
 ト」ノ喪失ノ如キ不愉快ナル事實モ亦偶然ニアラス之ヲ日
 本人或ハ獨逸人固有ノ性質ニ依リ又ハ英米蘇人ニ對スル彼
 等ノ優越性或ハ先見ノ明ニ依リ説明スルハ幼稚ナルヘシ
 問題ハ人間トシテノ固有ノ性質ニアラスシテ新ナル戰爭ニ
 興味ヲ有スル侵略國ハ平和愛好國ニ比シヨリ良ク準備シ其
 ノ爲ニ力ヲ集結サレ居ルモノナリ右ハ歷史上ノ法則ニシテ
 之ヲ考慮ニ容レサレハ危險ナルヘシ從テ若シ侵略阻止ノ特
 別手段ヲ今ニシテ講セサレハ將來平和愛好國カ再ヒ突如侵

略ニ遭遇スヘキハ否定シ得ス獨逸側ヨリノ新ナル侵略ヲ防
止センカ爲而シテ尙且侵略發生ノ場合ニハ之ヲ初期ニ於テ
鎮壓シ大戦争ニ發展セシメサルカ如キ如何ナル手段アルヘ
キヤ之カ爲ニハ侵略諸國ノ完全武装解除ノ外唯一ツノ手段
アリ即チ平和維持及安全保障ノ特別機構ノ設置竝ニ右機構
ノ指導機關ノ設置ニ最少限度必要量ノ武力ヲ有セシムルニ
アリ



980 昭和19年11月7日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

スターリン演説における対日侵略国批判の影

響について

モスクワ 11月7日後5時40分発
本省 11月9日後0時00分着

第二二七二號(館長符號抜、大至急)

往電第二二七一號ニ關シ

右ハ「スターリン」ノ演説中ノ日本ニ關スル部分ナル處大
東亞戦開始以來初メテ斯クノ如キ表現ヲ用ヒタル次第ニテ
一般ニ多大ノ注目ヲ惹キ居レリ彼ハ長年準備セル侵略國ニ

對シ平和愛好國ノ準備ハ常ニ不充分ナリトテ眞珠灣ノ攻撃
及香港新嘉坡等ノ攻略ヲ例證トシ之ヲ以テ不幸ナル出來事
ト言ヒ又日本ヲ侵略國ト言フヘシト爲シ眞珠灣攻撃等ヲ獨
逸ノ白露「ウクライナ」侵入ト一併侵略ノ顯著ナル事實ト
シ英米ニ對シ斯クノ如キ侵略ヲ完封スル必要ヲ強調シタル
モノニシテ獨逸ノ電撃作戰ヲ攻撃セントスレハ勢ヒ日本ヲ
モ槍玉ニ擧ケサルヲ得サリシモノト想ハルルモ今迄ニ無ク
日本ノ行爲ヲ誹謗スルコトナリタルハ明カニシテ此ノ部
分ハ敵國側ニ大ナル歡喜ヲ與ヘタルヘクBBCノ如キモ特
ニ此ノ部分ヲ原演説ノ翻譯ノ儘放送シ居レリ總シテ今回ノ
演説ハ聽衆ニ大ナル迫力ヲ感セシメタルハ爭フヘカラス對
獨戰爭遂行上英米蘇三國ノ強固ナル結束ヲ誓ヒ
且戰後ノ安全保障ニ關シテモ三國ノ堅キ決意ヲ要スル旨ヲ
強調シ樞軸國側ヲシテ三國ノ間隙ニ乗セシムル隙ナカラシ
メタリ聯合國側ニ於テモ本演説ハ一點非難ノ打所ナク全部
満足ヲ以テ受入レタルヘシト思ハルルモ唯戰勝ニ伴フ蘇聯
ノ強大ナル迫力ハ聯合側ノ歡迎スル所ナルト同時ニ之ニ依
リ甚大ノ脅威ヲ感セサルヲ得サルヘク「スターリン」ハ強
固ナル結束ヲ標榜シツツ事實巧妙ナル手段ヲ以テ赤化勢力

ヲ扶殖セントスルモノナルヘシ

日本ニ關スル限り今回ノ演説カ直チニ好マシカラヌ結果トナリテ現ハルヘシトハ考ヘラレサルモ戦局ノ發展ニ伴ヒ我方ノ困難増大スルニ從ヒ蘇聯ノ態度我ニ對シ強化シ來ルヘキハ豫期セサルヲ得サル所ニシテ最近「イラン」瑞西等ニ對スル蘇聯ノ傍若無人ノ態度ニモ顧ミ我方ニ對シテモ或ハ言論ニ或ハ諸懸案解決上ニ種々不愉快ナル出來事ヲ露呈スルニ至ルヤモ知レス我方トシテハ慎重考慮ヲ要スル所ト思考セラル

以上「ス」ノ演説ニ對シ本使一應ノ感想部分的乍ラ不取敢閣下ノ御參考ニ供ス



981 昭和19年11月7日 重光外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

ソ連側に対し日本が侵略国にあらざる旨を説
明の上中国の取扱いに関して意見交換方訓令

本省 11月7日後7時発

第一六〇一號(緊急、館長符號)

一、大東亞戰爭ノ狀況ハ益々緊迫ヲ加エ來リ殊ニ太平洋戦局

ノ鍵トモ云フベキ比島方面ノ戦況ハ御承知ノ如ク樂觀ヲ許サザルモノアリ他方國際政局及支那ニ於ケル事態ハ屢次ノ往電其他ニヨリ御承知ノ通りニシテ外交方面ニ於テモ最モ苦心努力ヲ傾クベキ事態ニ在リト認メラル就テハ此上共ソ側トノ間ニ充分意見ノ交換ヲ行ハレ我方施策ノ餘地ナキヤニ付引續キ打診セラルルヨウ御努力相煩ハシタシ

ニ、右意見交換ノ内容トシテハ

(一)「スターリン」ノ今回ノ演説中我方ヲ侵略國家ナリトセル部分ニ關聯シ大東亞戰爭勃發前ニ於ケル御承知ノ通りノ米英側ノ我方ニ對スル壓迫及挑發竝ニ我方ノ平和維持ノ爲メノ努力ニ關シ充分説明ヲ行ハルコトト致度シ

(二)更ニ進ムテ東亞ノ現状特ニ支那問題ニ付キ意見ノ交換ヲ試ミラルルコトト致度ク其際ハ支那ヲ繞ル軍事上、政治上ノ大局ト米英ノ支那支配ノ意圖及我方ノ政策(米英軍撤退ノ場合ハ日本軍モ撤退スルコトナリ居レリ)ヲ蘇側ニ説明セラルト共ニ我方トシテ支那問題ニ付蘇側トノ間ニ何等カノ地方的了解(例ヘバ民主

主義ヲ基礎トスル國共妥協ノ下ニ日ソ支間ニ安全保障
條約ヲ締結スルコト等）ニ達セムトスル希望ヲモ場合
ニヨリテハ暗示セラレ先方ノ應答振ヲ見ルコトト致度
シ

(三)其他事態ノ推移ニ應シ適當ナル題目ヲ捉へ彼我ノ意思
ノ疏通ニ資セシムルコトト致度シ

~~~~~

982

昭和19年11月11日 在スウェーデン岡本公使より  
重光外務大臣宛(電報)

スターリン演説における対日侵略国批判の意

図について

ストックホルム 11月11日 発  
本 省 11月16日前9時00分着

第五九九號

諜報者報告(十日)

當地方面ニテハ日蘇間ニ祕密協定アリト噂ヲ爲スモノ或ハ  
「スチルウエル」ノ召還ハ米カ蘇聯ノ對日態度ヲ有利ニ導  
ク爲蘇聯ニ讓歩シタルモノナリトノ見方ヲ爲スモノアリ又  
蘇聯ノ地方「ラヂオ」及新聞ハ「フイリツピン」海空戦ノ

前後屢々反日的放送ヲ爲シ居タリ

今回「スターリン」カ日本ヲ侵略者ト呼ビ對日宣戦ニ等シ  
キ言明ヲ爲シタル眞意ニ付情報ヲ入手シ居ラサルカ自分ノ  
感想ヲ申上レハ右ハ原則トシテ對獨戰終結後對日戰ニ參加  
スヘシト「テヘラン」會議ニ於ケル約束及蘇聯共產黨  
「テーゼ」ニ掲ケタル處ト同一ノ趣旨ヲ始メテ公式ニ表明  
セルモノニシテ右言明ハ「ス」從來ノ方針ヨリ見ルニ單ニ  
「ルーズベルト」ノ選舉ヲ支持スルカ如キ一時的ノ意味ニ  
非ス言葉通りニ解釋シテ然ルヘシト思ハル之ヲ公式ニ表明  
セルハ一ハ戰後ニ亘リ物資援助ニ關スル米國トノ關係ヲ考  
慮シ一ハ蘇聯國民ニ漸次心理的準備ヲ爲シ置カントノ考ヘ  
ニ出テタルモノト推測セラル但シ現實ニ對日戰ニ參加スル  
ヤ否ヤハ別個ノ問題ナルヘシ

~~~~~

983

昭和19年11月13日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

對ソ施策方針に基づく交渉により日ソ關係の
改善を図ることは困難との見通しについて

モスクワ 11月13日後11時50分発
本 省 11月15日後9時15分着

第二三二八號(緊急、館長符號)

一、守島歸任ニ付内地情勢逐一傳承本使ニ對シ一方ナラス御心付ヲ賜ハリ感謝ニ堪ヘスト同時ニ閣下力苦心ノ程恐察申上ク然ルニ莫斯科會談終了一箇月ニ垂ントスル今日九月七日以來ノ内地ノ動キヲ回顧シ貴電第一五二二號ノ所謂群議カ如何ニ時勢ニ背馳シタルモノナリシヤヲ確認スルニ於テ啞然タラサルヲ得サル次第ナリ

二、特使派遣カ蘇聯ノ力ヲ頼リ「サイパン」以來ノ頽勢喰止ニ資セントスルニ在リタリトセハ形勢ノ誤認モ甚タシト謂ハサルヘカラス頼リ得サル力ニ頼ラントスル如キ考ヲ抱キタル方面ノ弱腰驚クニ絶エタリ

三、莫斯科會議ノ結果ハ今日ニ至リ各方面ヨリノ情勢ニ依リ漸ク判明シ來レリト雖モ英米蘇三國ノ結束力大體右ノ方向ニ進ミ居リタルハ疾ヨリ推知シ得タル所ニシテ何モ莫斯科會談ヲ俟ツ迄モ無カリシ次第ナリ三國ノ結束スラ我方ニ於テ楔ヲ打込ム隙無シトハヨク本使ヨリ申進シタル所ナリ(往電第一八五三號三參照)

然ルニ東京ニテハ戰局ノ重大サニ驅ラレ特使派遣ヲ提議スルニ至リ九月十六日「モロトフ」ノ拒絕トナリタル處當時蘇英間ニハ既ニ「チャーチル」滯莫ノ下打合行ハレ居リタルヘク「モ」カ率直ニ斷ハリタルモ當然ノコトト言フヘシ

四、元來蘇ハ日本ヨリ攻撃ヲ受ケサル丈ケニテ満足スルモノニシテ夫レ以上ノモノハ求メ居ラス又日本モ今日迄ハ蘇ヲ敵方ニ廻ササル様努メ來レルモノナレハ此ノ點ニ於テ日蘇兩國ノ利害一致シ幸ヒニ無事タルヲ得タリ然ルニ今日本カ中立以上ノモノヲ望ムトセハ右ハ蘇聯ニ執リテハ米英ニ背ク結果トナルニ他ナラサルハ如何ニ利ヲ以テ誘フトモ彼ノ態度ヲ逆轉セシメントスルカ如キハ問題トナラス利益ヲ提供スレハスル程彼ハ我ヲ見縊リ態度一層強硬トナルヘク結局我ハ敵ニ侮ラレ世界ノ物笑トナル丈ケニテ何等目的ヲ達シ得サルヘシ

右ハ現下ノ情勢ニ於テハ火ヲ賭ルヨリ明カニシテ本使ニ於テモ贊意ヲ表シ兼ヌル所ナリ
五、「ストーリー」ノ六日ノ演說「ルーズベルト」ノ四選及一般投票ノ結果等ヲ考ヘレハ蘇米英三國關係ノ現狀ヲ付

度スルニ難カラス又三國ノ對獨戰爭遂行ノ決意モ明カリ獨逸ニ對スル三國ノ結束固ケレハ固キ程日蘇間ニハ何等手ヲ打ツヘキ餘地ヲ殘ササルコトナルモ當然ノ結果ナリ

然ルヲ今猶日蘇間ニ日本ノ安心ノ行ク如キ協定ヲ遂ケ得ヘキヤニ思惟シ望ヲ繫カントスル如キハ著シキ見當違ニシテ本使ハ日蘇間關係力寧ロ現狀ノ維持サヘモ次第二困難トナラサルヤヲ惧ルル次第ナリ「ス」ノ演說中ノ日本ニ關スル部分ハ或ハ米大統領選舉ノ前日ニ當リ應援ノ意味ヲモ含マセタルモノナルヤモ知レサレ共戰後安全保障機構ニ於テ獨ノ侵略行爲ヲ完封セントセハ勢ヒ日本ヲ同列ニ取扱ハサルヲ得サルコトモ當然ノ理ナリ

六、茲ニ本使ノ最モ惧ルル所ハ萬一「ナチ」獨逸敗北ノ曉侵略國ニ對スル世界ノ輿論澎湃トシテ舉リ唯一ノ侵略國トシテ殘レル日本ニ對シ全世界ノ非難攻撃集中セラルルコトニシテ其ノ場合往年ノ十三對一若クハ四十五對一當時ノ形勢カ今回ハ實戰ノ上ニ出現セラルヘシ日本ノ輿論ハ果シテ此ノ新タナル攻勢ニ耐ヘ得ヘキヤ又其ノ際「スターリン」ハ此ノ風潮ニ便乗シ日本ニ對シ勸告ヲ試ミルコト

無カルヘキヤ即チ彼ハ我ニ對シ無益ノ戰爭續行ヲ斷念スヘキコトヲ勸告シ同時ニ敗戰獨逸ニ對スルト同様ノ措置ヲ加ヘ日本ノ武裝解除責任者處罰等ヲ申込來ルヘク日本カ之ニ應セサル場合實力ヲ以テ臨マントスル態度ヲ執ルナルヘシ「サイパン」以來日本ノ實力低下ニ伴ヒ以上ノ如キ危險迫リツツアル際我方ニ於テ代償ヲ拂ヒ蘇ヲ米英ヨリ引離サント試ムルモ無益ニシテ蘇ハ日本崩壞ノ曉ニハ斯クノ如キ代償ノ幾倍カノモノヲ分前トシテ獲得スルコト容易ナルヲ熟知シ居ルヘシ内地ニハ出先ノ無爲無能ヲ叫フ者多々アルコト想像ニ難カラス然シ外交ニハ相手アリ實力ヲ以テ相手ト戰フ戰爭ニ於テスラ我ニ不利ナル形勢ヲ招キタリ況ンヤ實力ヲ用ヒス利害關係ノミヲ以テ連衡スル國際關係ニ於テ戰爭以上ノ成果ヲ收ムルコト難キハ已ムヲ得サル所ナリ

（マ）要スルニ大東亞戰モ大國同志ノ角逐ナル以上我モ亦強大國トシテ終リヲ全フスヘシ南方地方ヲ戰禍ノ巷トシ我ハ蘇聯ニ對シ見苦シキ讓歩ヲ敢テシ我ノミ生キ伸ントスル如キ態度ハ大國トシテ恥サルヲ得ス緬甸、「タイ」等ヨリモ失望ト嘲リヲ以テ迎ヘラルルハ到底忍ヒ得サル所ナリ

九「ロ」大統領四選確實トナリタル今日莫斯科會談ニ引續
キ年内ニモ三巨頭會議開催セラルルヤモ知レサル情勢ト
ナレリ之等ハ皆責任ノ地位ニ在ル權力者ノ會合ナリ之ニ
對スル我方特使案ノ如キ今日ニテハ既ニ問題トナラサル
モ如何ニモ眞劍味ヲ缺ク憾アリ今後ノコトモアレハ申添
フ

一〇以上往電第二一八〇號追報トシテ申進ス本電軍部ニ提
示セラルルコト本使ニ於テ異議無ク本使ハ寧ロ之ヲ希望
シ居レリ

984 昭和19年11月19日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

對日侵略国批判問題等の日ソ間諸懸案に關し
モロトフとの意見交換について

モスクワ 11月19日前4時16分發
本省 11月20日後4時20分着

第三三五四號(緊急、館長符號)
往電第二三四七號ニ關シ

十七日「モロトフ」トノ會談詳細左ノ通

先ツ本使ヨリ本日ハ種々ノ問題ニ付貴人民委員ト共ニ意見
交換ノ爲參リタリト前置シ左ノ如キ應答ヲ重ネタリ

「莫斯科會談

佐藤、第一ニ御話シ度キハ引續キ開催セラレタル二ツノ
會議ニ就テノ事ナリ去ル九月ノ「ケベツク」會談ニ於
テハ諸種ノ情報ニ依リ米英ノ對日軍事行動ニ關シ論議
サレタリト承知シ居レリ之ニ引續キ開催セラレタル莫
斯科會談ニ於テモ當然對日軍事上ノ手段カ話題ニ上リ
タルヘク特ニ「カムチャツカ」、「シベリヤ」等ノ基地
問題竝ニ蘇聯ノ米軍ニ對スル援助若クハ便宜供與問題
等カ上提サレタリト推定スルハ寧ロ自然ト思ハルル處
斯クノ如キ推定カ日本ニ取り種々疑問ヲ生スルコトト
ナル譯ナリ然シ本使ハ右ニ拘ラス蘇聯ノ對日態度ニ何
等變化無シトノ貴委員ヨリノ確認ヲ期待セントスルモ
ノニシテ何等御意見ヲ承知シ得レハ幸ナリ

「モ」貴大使ニ於テ其ノ點ニ付關心ヲ有セラルル限り本
委員ハ悅シテ御答スヘシ第一、二ツノ會議ハ各別個ノ
モノナリ「ケベツク」ニハ蘇聯ヨリハ何人モ出席シ居

ラス尤モ同會談ニ於テ太平洋ニ關スル問題議セラレタルハ大イニ有リ得ルコトニシテ又略確實ナラン而シ莫斯科會議ハ「ケベツク」會談トハ何等ノ關係ヲ有セス第一米國ハ莫斯科會談ニ代表者ヲ出シ居ラス「ハリマン」カ出席シタルハ事實ナルモ正式代表者ニアラス寧ロ午餐會議禮向代表者タリシニ過キス又貴大使ハ軍事基地問題ニ付言及セラレタル處之ハ今開始メテ問題トナリタルモノニアラス又新シキ問題ニモアラス既ニ一九四三年ニモ四二年ニモ話題ニ上リ又確カ四一年ニモ問題トナリタルヤニ記憶ス此ノ問題ニ付テハ何等カ豫期（ブレドボラガーフツアー）スル向モアリ又何カヲ爲サントシタルモノモアリ但シ自分ハ此ノ點ニ就キ「ストーリー」人民委員會議長ノ演說ヲ茲ニ引用（「ススイラツツア」）シ得ヘシ同議長ノ言葉ノ中ニハ何等日本ニ就キ言及セル所無シ蘇聯ノ政策ハ夫レニ依ルモ明カナリ議長ノ演說中ニハ過去及將來ノコトニ就キ述ヘアルモ現在ノ「モーメント」ニ就テハ何等言及シアラス

貴大使ハ容易ニ此ノ事ヲ見出サルヘシ彼處ニハ何等變

更無シ演說ノ「テキスト」ヲ熟讀セラルレハ其ノ點御了解セラルヘシ（註、以上「モ」ノ言ハ露語ニテ述ヘタル所ヲ其ノ儘譯出セルモノニシテ言葉ノ足ラサル所多々アル様ナルモ彼ノ云ハントシタル所ハ略々明カナリ又「彼處ニハ何等變更無シ」ト述ヘタル件モ右演說中ニテ政策ノ變更ヲ表明セル箇所無シトノ意味ニ了解シ誤リ無シト思考ス）

佐藤、御説明深謝ス只今御話ノ次第ハ我方ニ満足ヲ與ヘ且機微ナル問題ニ關シ安心ヲ與フト考フ併シ只今貴委員ヨリ「ストーリー」元帥カ日本ニ對スル政策ノ變更無シト云ハレタルヤニ承リタルモ或ハ本使ニ於テ讀違或ハ讀落シ居ルヤモ知レサレトモ貴委員ノ云ハレタル如キ文句ハ「ス」元帥ノ演說中ニハ無カリシモノノ如ク思ハル（註、實ハ本使ニ於テ前項ノ「モ」ノ説明ヲ聞キ誤リ「モ」カ演說中何等日本ニ就キ言及スル所無シト云ヘルヲ聞キ落シ反對ニ「モ」カ右演說ヲ援用スル以上明確ニ演說中ニ對日政策不變更ヲ述ヘタル件アリト云ヘルモノナリト了解シ以上ノ如ク念ヲ押シタル次第ノ處本使ノ誤解ハ誤解トシテ次ノ應答ニ依リ問題

ハ明瞭トナリタリ)

「モ」⁽⁴⁾、該演説中ニハ日本ニ對スル政策ニ付述ヘアラス夫ハ納得ニ難カラサル所ナリ(「エツト、ネ、ツルードノ、ウベダイイツツア」)

佐藤、何レニスルモ重要ナル點ハ政策ニ變リ無キコトナリ

「モ」、蘇側ニハ何等其ノコト無シ

二、侵略國問題

佐藤、次ニ御話シタキハ去ル十一月六日ノ「スターリン」

元帥演説中明カニ日本ニ關シタル部分ニ就テノコトナリ同演説中ニハ日本ヲ目シテ侵略國ト爲セリ從來ノ數アル蘇側發表ニハ蘇側ハ慎重ノ注意ヲ拂ヒ總テ歐洲問題ニ限定セラレタリ「テヘラン」會議ノ發表ノ如キ正ニ然リ然ルニ今回ハ前例ノ範圍ヲ越エ日本ニ關シ明確ニ言及スル所アリタル爲各方面ノ注目ヲ惹ケリ殊ニ去ル九月十六日貴委員ト御面談ノ際日蘇關係ハ正常狀態ニアリ且良キ方向ニ向ヒ居レリト謂ハレタル處其ノ後一箇月半ニシテ今回ノ演説トナリ本使ニ於テモ聊カ奇異ニ感シタル次第ナリ尤モ演説中ノ此ノ部分ハ戦後安

全保障機構問題ニ關聯シテ爲サレタルモノニシテ

事實⁽⁵⁾ヲ事實トシテ舉ケントシタル(「コンスタタシオン、ド、フェー」)考ヘノ範圍ヲ出スルモノニアラスト思考ス即チ演説ノ目的トスル所ハ日本ヲ非議シ(「アキューズ」)若クハ日本ヲ侵略國トシテ取扱ヒ(「トレーテ」)又ハ侵略國呼ハリ(「コンダンネー」)セントスルモノニアラスト考ヘラルル處此ノ見解ニシテ誤リ無クハ日本モ満足シ得ヘシ貴委員ヨリ何分ノ御説明ヲ得ハ幸ナリ

「モ」、貴大使ノ解釋ニ對シ全然同感ナリ「ス」元帥ノ批判ハ理論的見地ヨリ爲シタルモノニシテ過去ノ歴史ニ關スルニ過キス即チ過去ニ於ケル諸種ノ事實ノ據證(「コンスタチーロヴァーニエ」)ヲ爲シタルニ過キス右ハ三年前ノ事實ニシテ其ノ後多ク出來事アリ戰爭ハ急速ニ進展シツツアリ右ニ付戰爭ノ過去ノ段階ニ付理論的見地ヨリ引證シタルモノト見ルヘキナリ

佐藤、御答ヲ多トス貴委員ノ御説明ハ本件ヲ以テ實際上今後何等政治的影響(「シユーイツト、ポリチアク」)ヲ及ホスモノニアラストスル貴委員ノ保障ヲ與ヘラレタルモノトシテ了解シ得レハ幸ナリ

「モ」⁽⁶⁾、其ノ通りナリ演說中ニ書キアルコトハ書キアル以上ニ解セラルヘキモノニ非ス

「佐藤」、問題ハ頗ル機微ニ亘ル性質ノモノニ付日本ヲ侵略國ノ例トシテ舉クル様ナラハ日本ノ立場ニ付一言說明ヲ加フルコトヲ許サレ度シ

人若シ眞珠灣事件ノミヲ取上ケ之ヨリ論法ヲ下スニ於テハ大ナル誤謬ニ陥ルヲ免レス日米戰爭ハ其レ以前ニ不可避ノモノトナリ居リシモノナリ之ノ故ニ劣勢ノ海軍力ヲ有シタル日本トシテハ眞珠灣ノ方法以外ニ出ツル途無カリシナリ日米戰爭ハ一九四一年十一月二十六日ノ「ハル」國務卿「ノート」ニ依リ不可避ノモノトナリタルモノニシテ骰子ハ振ラレタリ此ノ點ハ其ノ後ニ至リ眞珠灣ノ米國側防備責任者カ特別裁判ニ附セラレタル事實ニ依リ明カナル所ナリ即チ眞珠灣事件ハ十二月七日ノコトナルモ實ハ其ノ前十一月二十六日ノ米國側「ノート」カ最後通牒ノ性質ヲ具備シタルナリ斯クシテ戰爭ハ始マリタリ若シ日本側ノミカ戰爭開始ノ責任者ナリトスレハ米側防備當局者カ裁判ニ附セララル理由ナキ譯ナリ此ノ事實ニ依リテモ實際戰爭ハ眞珠

灣以前ニ不可避ノモノトナリ居タルコト明カナリ而シテ日本ト英米トノ衝突ハ久シキ以前ヨリノコトナリ第一ハ一九三一年ノ滿洲事變ヲ舉クヘク第二ハ翌年ノ「オツタワ」英帝國會議ニシテ此ノ會議ノ結果日本ノ製品ハ全部英帝國市場ヨリ驅逐セラレタリ第三ハ日本ニ對スル蘭印石油資源開發ノ拒否ニシテ斯クシテ日本ハ鐵、石油等ノ天然資源ナキ島國ニ封鎖サルニ至レリ而シテ斯クノ如キ日本人ヲ窒息セシムル政策ヲ甘受シ得サリシコト亦當然ナリ一九三四年日支事變以來英米トノ衝突激化シ殊ニ米國ヨリノ壓迫甚シク鐵、石油等ノ「エンバーク」トナリ遂ニ經濟斷交ニ至レリ「モ」ハ經濟斷交ハ何年ノコトナリヤト問ヒ本使ハ一九四〇年ト答フ此ノ間日本ハ最後迄平和的解決ヲ希望シ平和維持ノ見地ヨリ米國トノ交渉ヲ續ケタルモ遂ニ十一月二十六日附「ハル」「ノート」ヲ受領スルニ至レルモノナリ本使ハ蘇聯ニ於テ以上ノ經緯ヲ看過スルコトナク戰爭勃發ノ原因ヲ探究サレンコトヲ希望ス左モナクシテ單ニ眞珠灣ノ出來事ノミヨリ判斷セラルルニ於テハ大ナル誤謬ニ陥ルヲ免レサルヘシ

「モ」、御説明ヲ多トス
三、支那問題⁽⁸⁾

佐藤、次ニ支那問題ニ入ルヲ許サレ度シ前二回ノ會見ニ於テ本使ヨリ支那問題ニ言及シタルニ際シ貴委員ハ日支間ノ紛爭ニ對シ蘇聯ノ中立ヲ言明セラレタリ最近米國ハ種々支那ノ内政ニ干涉シ殊ニ重慶ト西北支那共產黨トノ妥協問題ニ付深入リシ遂ニ「スチルウエル」ニ於テ辭職セサルヲ得サル羽目ニ陷レリ本使ハ此ノ機會ニ日本ノ對支政策ニ付一言説明致シ置キ度シ

「モ」、貴大使ノ御説明ヲ多謝スヘシ

佐藤、日本ノ對支政策ノ眼目トシテハ第一ニ日本カ支那ニ對シ何等領土的野心ヲ有セサルコトヲ強調シタシ又第二ニハ日本ハ東亞ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了ト共ニ日本軍隊ノ撤退ヲ約シ居レリ右ハ一九四三年十月十日調印ノ議定書ノ規定スル所ナリ

尙本年七月五日帝國政府ノ發シタル聲明ノ中ニ帝國軍事行動ノ目的ハ一ニ敵米英ノ侵攻制覇ノ企圖ヲ破摧スルニ存シ支那ノ民衆ハ素ヨリ我カ友ニシテ苟モ米英トノ協力ヲ排スルモノハ重慶側軍隊ト雖モ我敵ニアラス

トノ一句アリ

「モ」ハ右聲明後半ノ露譯ヲ兩度繰返シ譯者ヨリ聴取セリ⁽⁹⁾

即チ日本ハ支那ヲ殖民地化シ完全ニ支配セントスル米英ト戰爭シ居ルモノニシテ重慶軍ト雖米英ト協力セサル限り我敵トセサルヘシ同様ノコトハ共產軍ニ付テモ言ヒ得ヘク若シ米英ノ前衛トシテ日本ニ對抗スルコトナクハ我亦彼等ヲ敵トスルヲ要セサル次第ナリ右ハ正ニ日本人ノ心理狀態ナリ尙日本國民ノ心理ニ付一言シタル序テヲ以テ註ヲ許サルレハ日本ハ米國ニ依リ征服セラレ彼等ノ奴隸トナルコトヲ欲セス(此ノ時「モ」

言ヲ挾ミ日本ノ如キ強大國ニ左様ノコトアリ得ヘカラスト言フ)本使ハ假ニ日本カ敗戦シタル場合ヲ想像シテ御話シタルモノニテ米ハ民族人種問題ニ付何等ノ理解ヲ有セス日本ニシテ敗北センカ東亞ノ解放獨立ハ絶望トナルヘシ

蘇聯ハ聯邦内民族問題ニ付有效且驚歎ニ値スル政策ヲ執リ其ノ結果亦顯著ナルモノアルモ米國ニ理解アル國民政策ヲ望ムハ不可能ノコトナリ日本トシテハ飽迄血

歸ヲ續ケサルヲ得ス但シ日本ハ東亞ヲ征服セントスル

モノニアラス戦争終了ノ曉ニハ東亞ハ全世界ニ解放セラルヘク殊ニ日本ノ與國ニ對シテ然リトスヘシ

日本ハ支那問題ニ關シ日蘇兩國間ニ何等衝突ナクシテ賢明ナル政策ヲ維持シ得ンコトヲ希望スルモノニシテ若シ蘇側ニ於テ日本ニ對シ此ノ點ニ付何等カノ希望ヲ有セラルルナラハ本使ハ喜ンテ貴委員ノ要請ニ應シ胸襟ヲ開キテ御相談ニ應スヘク斯クシテ有效ナル結果ニ到達スヘク努力ヲ辭セサルヘシ

(以上本使ノ説明ニ對シ「モ」ハ別段ノ見解ヲ述フルニ至ラサリシモ終始熱心ニ之ヲ聽取シ且首肯シ居タリ會談所要時間一時間十五分)



985 昭和19年11月19日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

日独関係の見通しに関するモロトフとの応酬

振りについて

モスクワ 11月19日前3時15分発
本省 11月20日前8時45分着

第二三五六號(館長符號、緊急)

往電第二三五四號ニ關シ

同電三ノ支那問題ニ關スル本使ノ説明ヲ終リタル直後「モロトフ」ハ奇妙ナル質問ヲ發シ之ニ關聯シ左ノ如キ□答ヲ爲セリ

「モ」、日本ノ獨逸ニ對スル將來ノ關係如何

佐藤、獨逸ハ日本ノ同盟國タル點ヲ先ツ明カニセサルヘカラス然シ實際的ニハ日獨兩國ハ離レ離レノ戰場ニ就キ戦争シ居リ交通モ切斷セラレ居レハ相互的ノ援助ハ行ハレ居ラス此ノ故ニ獨逸ノ運命ニ付日本カ援助ヲ與フルコト事實不可能ナリ歐洲戦争ノ運命ハ日本ノ關與シ得サル所ナリ貴問ニ對スル本使ノ差當リノ御答ヘハ以上ヲ出テサルモ右ハ貴委員ノ聞カレントスル趣旨ニ副ヒ居ラサルヤモ知レス更メテ要點指示セラレタシ

「モ」、自分ノ話シタキハ現在ノコトニアラス今次戦争ニ於ケル獨トノ將來ノ關係ニ付御尋ネスル次第ナリ

佐藤、日本トシテハ獨逸カ如何ナル狀態ニ於テ存續スヘキヤ判明ナラス右ハ戦争ノ結果ニ依ルコトナレハ其ノ結果ヲ見サレハ分ラヌ譯ナリ

986

昭和19年11月19日

在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

「モ」、勿論獨逸ハ敗戰國トシテノ外考ヘラレス
佐藤、將來ノコトヲ見透スハ頗ル困難ナリ戰爭ノ將來ヲ豫
見スルコト亦同シ
「モ」、此ノ點正ニ貴見ノ通り將來ノ見透シ困難ナルコト貴
使ノ言ノ如シ
佐藤、日本ヨリスレハ獨力依然英米ニ對シ強キ敵トシテ存
在スルコト望マシ蘇聯邦ニ對シテハ同様ニ獨力強カルヘ
キコトヲ希望スル譯ニ行カス但シ實際的ニハ區別シテ考
ヘ得サルコトナリ
「モ」、獨逸ハ今猶善戰シ居レリ(ズドプロ、デリヨウツツ
ア)問題ハ頗ル錯綜ス(スロージヌイ)
佐藤、問題錯綜シ居ルト同時ニ獨逸ノ敵ノ力亦強大ナルヲ
認メサルヲ得ス
「モ」、貴大使ノ値踏ニ同感ナリ
以上「モ」ノ質問カ如何ナル眞意ニ出テ居ルカ判斷シカヌ
ルモノアルモ有リノ儘ヲ電報シ御參考ニ供ス

~~~~~

対日侵略国批判問題が日ソ關係に与えた影響  
等について

モスクワ 11月19日午後5時31分発

本省 11月21日前6時30分着

第二三六〇號(館長符號、至急)

往電第二三五四號ニ關シ

「スターリン」演説ハ同電記載ノ「モロトフ」説明ニ依リ  
蘇側ニ於テ左シテ重要ナル意味ヲ附シ居ラス又後日之ヲ惡  
用シテ對日攻撃ノ足掛リトセントスル模様モ見受ケラレス  
當國ニ關スル限リ本問題ハ之ニテ一應落着クニアラスヤト  
思考セラルルノミナラス本使トノ應對ニテ「モ」モ日本側  
ノ關心ヲ充分知リ得タルヘケレハ眞ノ惡性ノ對日宣傳ニ乘  
出ス底意ナキ限リ蘇側ニテモ本問題ノ運用ニハ充分注意ス  
ヘシト思ハル(而シテ目下ノ所蘇側ニ於テ斯ク迄我方ニ對  
シ惡意ヲ藏シ居ルトハ見受ケ難キコト豫テ御承知ノ通りナ  
リ)

他方貴電第一六三三號ノ内地ニ於ケル衝撃ニ付テハ當方ニ  
テモ略想像シ居ル次第ノ處元來無責任ナル所謂右翼輩ハ本  
使ト水炭相容レサル連中ニテ之等ハ總ユル機會ヲ捉ヘ本使

ノ攻撃ヲ爲スヘケレハ今回ノ問題ノ如キモ或ハ彼等ニ取リ  
一好機會ナルヤモ計リ難シ但シ本使ノ臆測ニテハ豫テ強カ  
リヲ以テ表看板ト爲シ居リタル彼等ニ取リテハ此ノ問題ヲ  
捉ヘテノ本使攻撃ハ可成リ困難ナルヘシト思ハル

即チ彼等ノ攻撃スル本使ノ軟弱外交ヲ以テシテ猶且今次ノ  
演説トナリタルモノトスレハ若シ彼等一流ノ强硬態度ヲ以  
テ臨ミタリシナランニハ今頃ハ疾ニ日蘇國交斷絶シ居リタ  
ルヘシトノ力強キ反駁モ出テ得ル譯ト思考セラル

他方一部ノ反外務省的策動ノ如キモ多分外務省殊ニ本使ノ  
無用無能ヲ非難セントスルモノナルヘキ處是トテ彼等ノ夢  
見ル獨蘇和平ノ如キモ肝心ノ兩當事國力欲シ居ラサレハ實  
現不可能ナルハ明カニシテ又日蘇間關係ヲ今一段増進スヘ  
カリシト爲ス論モ現在ノ樞軸對反樞軸陣營ノ關係ヨリ見テ  
簡單ニ行ハルヘキニ非ス結局彼等ノ攻撃ノ根據モ實現出來  
サル空中樓閣ヲ畫キ居ルニ過キサレハ極メテ薄弱ト言ハサ  
ルヘカラス從テ其ノ中ニハ右翼輩モ反外務省輩モ自然窒息  
セサルヲ得サル羽目ニ陥ルヘシト認メラル右ニ付究極ニ於  
テ今回ノコトハ是等無責任者流ニ對シテハ頂門ノ一針タリ  
シナラントノ感深キモノアリ

987

昭和19年11月20日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

モロトフの友好的態度に鑑みソ連の対日態度  
に変更なしとの観測について

モスクワ 11月20日後3時16分発

本省 11月21日後3時15分着

第二三六五號(大至急、館長符號)  
往電第二三五四號ニ關シ

十七日「モロトフ」トノ會見ヲ通シ本使ノ得タル感想左ニ  
御參考ニ供ス

「今次會見ハ六日「スターリン」演説ノ直後ノコトニ付本  
使ニ於テモ多少ノ不安ト興味ヲ感シ居リタル次第ノ處  
「モ」ハ會談ノ初メヨリ極メテ打解ケタル有ノ儘ノ態度  
ヲ示シタルト同時ニ言動慇懃懇切ニテ本使ハ何時ニモ増  
シテ好感ヲ得タリ右ハ演説後ノ日本向感情融和ノ爲モア  
リシナランモ左リトテ態トラシカラス又「モ」ニ於テ我  
方感情ヲ考慮シテ斯クノ如キ細心ノ注意ヲ拂ヒタルモノ  
ナリトセハ夫レ丈我方ヲ高く評價シ居ル證左ト觀ルヲ得  
ヘク此ノ際トシテハ我方ニ取り多少トモ意味アルコトト

存セラル

二、莫斯科會談後ノ蘇側對日態度ニ何等變更ナキハ「モ」ノ口吻態度ヨリ推シ間違ヒナシト認ム若シ蘇側ニ於テ英米側ト對日方策ニ付何等カノ協定ヲ遂ケ居リタリトセハ今回ノ彼ノ如キ打解ケタル態度ヲ示スコト至難ナリシナルヘシ

十七日ノ會談中「モ」ハ態度不變更ヲ證明スル爲ニ「スターリン」ノ演說ヲ援用セリ

彼ノ意味ハ該演說中ニ對日態度變更ニ付言及シアラサルコトカ何ヨリノ證據ナリト云フニアリタルカ如シ本使ハ初メ彼ノ説明ヲ誤解シタルモ結局其ノ爲説明ノ要點ヲ繰返スコトトナリ事態ハ一層明確トナルヲ得タリ

三、唯基地問題ニ付テハ彼ノ答辯ニ依リ御想像相叶フヘキ通リ今回ノ莫斯科會談中英(即チ米)側ヨリ其ノ話出テタルコト丈ハ先ツ確カニシテ英ハ寧ロ相當粘リタルニアラスヤト想像セラルル節アリ總シテ基地問題ニ關スル見解ノ「モ」ノ説明振リハ昨年モ一昨年モ其ノ話アリ今回カ初メテニアラスト云ヒ従前ノ本問題ニ關スル彼ノ説明振リトハ可成り趣ヲ異ニスル所アルヤニ認メラル(例ヘハ客

年七月三日ノ會談ニ於テハ「モ」ハ米英側ヨリ基地提供ノ申出アリタル事實ヲ思ハシムル言辭ヲ避ケ唯蘇聯ノ中立態度ニ變更無シトノ説明一點張りニテ通シタルニ反シ今回ハ英米側ヨリ申出アリタルヲ想像セシムルニ足ル口吻アリ「客年七月三日會談録御參照」但シ蘇側カ英米側ノ要請ニ應セサリシコト丈ハ大體確實ト認メ誤リ無カルヘク

然ラサレハ對日態度ニ變化無シトノ彼ノ言明ニ悖リ從テ今回ノ如キ虛心坦懷ノ態度ニ出ツルコト困難ナルノミナラス會談中何レカノ場合ニテ後目タキ感シヲ表ハササルヲ得サリシナルヘシ尤モ本件ハ今後ノ注意事項ナルコト勿論ナリ

四、「スターリン」演說中ノ侵略國云々ノ部分ハ「モ」トノ應答ニ依リ蘇側ノ意嚮明瞭トナレリ本件ニ關シテハ往電第二三六〇號ヲ以テ別途卑見申進シタリ尙此ノ機會ヲ捉ヘ簡單乍ラ眞珠灣以前ノ日本壓迫ノ經緯ニ付本使ヨリ説明ヲ加ヘ「モ」モ傾聽セル模様ナリ

五、今回ハ支那問題ニ可成リノ力ヲ入レ又共產軍モ場合ニ依リ我カ敵ニアラサル次第ヲ述ヘタリ共產軍ニ關シテハ帝

國政府ノ七月五日ノ聲明中ニハ言及シアラサルモ本使ノ言ハ理ノ當然ナルノミナラス又斯ク云ハサレハ蘇側ノ意ヲ迎ヘ得スト考ヘタルニ依リ右ノ如ク述ヘ置キタリ但シ本使ノ所説カ「モ」ニ幾何ノ印象ヲ與ヘ得タルヤ明カナラス概シテ支那問題ニ付テハ餘リ興味ヲ惹カサルヤニ見受ケラルルヲ常トス右カ眞實歐洲方面ニ没頭シ居ル爲ナリヤ

<sup>(4)</sup>將又支那ニ興味ヲ有スルモ當分ノ間「コンミット」スルヲ避ケテノコトナリヤ目下ノ處見當ヲツケ兼ね居リ(貴電第一六〇一號)括弧内日蘇支間安全保障條約締結ノ構想ハ凡ソ現下ノ情勢ニ副ヒ居ラサルコト往電第二三三八號四ニ述ヘタル所ニ依リ御承知ノコトト存ス

本使ハ米ノ人種の偏見ヲ貶シ蘇ノ民族政策ヲ賞揚シタルハ多少下心アリテノコトナリシモ眼前ニハ何等ノ反響ヲ齎サス唯日本カ敗北セハ米ノ奴隸トナル他無シトノ意味ヲ述ヘタルニ際シ「モ」ハ直ニ言ヲ挾ミ日本ノ如キ強ク大ナル國ニ左様ノコトアリ得スト言ヒ如何ニモ日本ノ眞ノ力ヲ認メ居ルカ如キ口吻ヲ漏セリ皇軍比島方面敢闘ノ戦果モ彼ニ此ノ感想ヲ與フルニ資シ居ルコト疑無シト認

メラレ欣快ノ念禁シ難シ(冒頭往電三御參照)反之萬一皇軍ニ於テ必死ノ反攻ヲ爲サス外交方面ニ於テモ又蘇ニ對シ利益ヲ以テ彼ヲ誘ヒ其ノ力ニ依リテ苦境ヲ切抜ケントスル如キ弱腰ヲ示スニ於テハ啻ニ彼ノ輕侮ヲ負フノミナラス我ノ期待スル所ト正反對ノ結果ヲ齎シタルヘキヲ痛感セシメラル

<sup>(5)</sup>六、支那問題ニ關スル本使ノ説明終ルヤ否ヤ彼ハ突然日獨間ノ將來ノ關係ニ付質問ヲ發シタル次第ハ往電第二三五六號ニ詳述セル通りニテ右ノ質問ヲ發シタル「モ」ノ眞意如何ハ之ヲ捕捉スルコト困難ナル處或ハ本使ノ支那問題ニ關スル説明ノ腰ヲ折リ自己ノ答辯ヲ外ラサントシタルモノナルヤモ知レサレトモ本使ハ別ニ彼ニ對シ支那問題ニ付答辯ヲ求ムル態度ヲ執リタル譯ニアラサレハ急遽話頭ヲ轉スル必要ナカリシモノナリ或ハ又彼ハ獨ノ敗戦ヲ必至ナリトシテ日本ヲ裏切ラシメントスル豫備工作トシテノ下心ヲ以テ爲シタルヤモ知レストスル觀方モアリ得ヘキ處右ニ付テハ彼自ラ獨逸ノ抵抗力カ今尙強大ナルモノアルヲ認メタル點ニ於テ矛盾ヲ感セサルヲ得ス尤モ本使ハ日本ノ對獨關係ノ程度打診ノコトモアルト思ヒ本使

説明ノ第一義トシテ兩國ノ同盟關係ヲ強調シ置キタリ彼ノ言ハ又彼ノ突嗟ノ思付ヲ語リタルニ過キサルヤモ知レサル處何レニスルモ本件ハ一ノ謎タルヲ失ハス

~~~~~

988

昭和19年11月24日

重光外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

日ソ關係強化はソ連の対アジア政策等に鑑み
可能であるとの見解について

本省 11月24日後7時発

第一六九五號(極秘、館長符號)

日蘇ノ利害關係ヲ考察スルニ左ノ通り

一帝國ハ三國同盟條約ニヨリテ獨逸ト連繫シ蘇聯ハ米英ト同盟シ戰後ノ國際機構ニ關スル協力ニ付テモ意見ノ一致ヲ見ントシツツアリ而シテ日蘇ノ間ハ中立關係ニ在リテ十七日ノ貴使「モロトフ」會談ニ依ルモ蘇側ハ日蘇關係維持ニ關心ヲ示シ居レリ

先ツ蘇聯カ今日有スル英米トノ同盟條約ヲ維持シツツ日蘇關係ヲ此ノ上積極的ニ打開ノ途アリヤヲ考フルニ米英蘇ノ三國協力ノ輪廓ノ中ニ於テ蘇聯トシテモ日本トノ中

立關係ヲ發達セシムルコトハ必スシモ不可能ニハアラス又蘇聯ノ東亞ニ於ケル權益ノ擁護カ米英ニ依ルヨリモ日本トノ妥協ニ依リテ成シ遂ケ得ト思フニ至レハ蘇聯ノ意必スシモ動カサルニ非サルヘシ

二、蘇聯ノ東方ニ於ケル地位ニ付テ觀察スルニ

(イ)蘇聯ノ東方ニ於テ望ム所ハ將來若シ日本ニシテ蘇聯ノ敵ニアラサルコトヲ了解スルニ於テハ米(英)ノ勢力ヲ東ニ於テモ防止シ得ル如キ國際態勢ヲ整フルコトニ努ムヘク勿論日米永ク相戰フコトヲ好ムヘキモ必スシモ日本ノ勢力ノ消滅ヲ希望スルコトナキ地位ニ在ルヘク東亞戰局ノ歸趨如何ニ拘ラス蘇聯ハ共產黨ニ依ル勢力ノ進出ヲ計リ事實支那(及ヒ東亞)ヲ共產勢力ノ下ニ置クコトニ努ムヘシ

(ロ)米英ハ今日世界的ニ蘇聯ト妥協スル爲「テヘラン」會談以來共產黨ヲ容認スル民主主義ヲ承認シ歐洲ニ於ケル共產勢力ノ進出ヲ默認シ居リ又支那ニ於テハ國共妥協ヲ促進シテ其ノ結合ニ依ル反日勢力ノ結果ヲ計ラントシツツアリ

今日支那ニ於ケル共產軍(八路軍、新四軍)ノ全支の勢

力ニ顧ミ(共產軍ハ米國ニ代表ヲ有スルヤノ情報アリ)日蘇關係ノ調整ノ爲ニハ支那ニ於テ民主主義ヲ認ムルコト當然ナリ日蘇妥協ノ一要項ハ日本カ支那ニ於テ防共ノ看板ヲ下シ民主主義ヲ容認スルコトニアリ此形勢ハ既ニ昨年半頃ヨリ看取セラレ我ニ於テハ支那ニ於ケル對共產軍態度ヲ變更シタリ(一例ヲ舉クレハ共產政權ト呼ハスシテ延安政權ト呼フカ如ク又支那問題ニ付テ防共ノ字句ヲ漸次削除セルカ如シ(往電合第三六九號)而シテ支那ニ於ケル我作戦目標ヲ米軍ニ置キ重慶迄モ之ヲ包容スル方式ヲ採用シ間接ニ共產軍ニ對スル態度ヲ表示シタルハ貴大使カ「モロトフ」ニ說示セラレタル通りナリ

尙又民主主義ノ採用ハ無條件ニ何レノ國ニ對シテモ之ヲ承認スヘキモノニ非サルコトモトヨリナルニ依リ我方方針トシテハ常ニ内政不干渉ノ原則ヲ表示スルコトトセリ(議會ニ於テ聲明セル我外交五原則參照)

支那問題ニ付テハ御承知ノ通り日支事變前ニ於テモ「チチエリン」時代ハ勿論蘇聯ハ多大ノ關心ヲ示シ居リ今日歐洲方面ニ没頭セサルヲ得サル事情ニアルモ

現在支那問題ニ關スル蘇聯ノ有利ナル立場ハ決シテ見通スモノニアラスト觀察セラル

(イ)蘇聯ヲシテ日蘇ノ諒解ヲ進ムルコトニ考慮ヲ拂ハシムヘキ第二ノ要素ハ我政策(特ニ東亞地域ニ對スル)ノ眞髓ヲ充分ニ了解セシムルコトニアリ蘇側カヤヤモスレハ持チ出ス所謂「田中大將覺書」ナルモノト今日ノ我政策トハ全然方向ヲ異ニスルモノナルコトヲ了解セシメ而シテ東亞民族ノ解放ト獨立トヲ目的トスル我政策ハ蘇聯ノ民族政策ト一致スルモノナルコトヲ敷衍指摘スルニ於テハ先方ノ了解ヲ進ムルニ貢獻スヘシ

(ニ)我方政策ハ本大臣議會演說等ニ依リ既ニ明瞭ニセラレ居ルカ左ノ文書ハ特ニ注意セラレ又ハ適宜引用セラレタシ

(イ)御詔勅

(ロ)日華同盟條約(不平等條約一切消滅シアリ)及附屬文

書(及大東亞各國トノ同盟條約)

(ハ)支那ニ於ケル作戦目的ニ關スル我方聲明(往電合第

三七〇號)

(ニ)大東亞宣言

(※外交五原則(第八十五議會ニ於ケル本大臣ノ聲明))

以上我態度ノ説明ハ何等我ノ弱點ヲ示スモノニアラス
シテ却テ我カ正義ニ合スル主張ノ強固ナルコトヲ表示
シ得ルモノト思考セラレ且ツ之ニ依リテ蘇聯ノ了解ヲ
増シ得ルモノト思ハル

三、御承知ノ如ク防共協定ハ既ニ存在ナキト等シキモ同協定
ハ尙獨逸トノ間ニ三國同盟ト相竝ヒテ存在シ居リ此點ニ
關聯シ蘇側カ最近日獨關係ノ將來ニ付キ關心ヲ有シ居ル
カ如ク認メラルルハ興味アリト感セラル

防共協定ハ三國同盟ト共ニ獨蘇和平成立ノ上ハ當然消滅
又ハ變形セラルヘキ性質ノモノニシテ要ハ獨蘇和平ノ成
立如何ノ問題ニ繫ル譯ナルカ獨蘇和平ノ成立ハ日蘇中立
關係強化ノ問題ト異リ蘇聯ノ對米英關係ヨリ大ナル困難
アリ然レトモ往電第一六九四號「スターマー」大使ノ意
見ノ如ク蘇聯トシテハ將來ノ世界政局ニモ鑑ミ米英トノ
關係モ底ヲ突キタル今日戰況ニモ鑑ミ其ノ直接ノ安全保
障ノ見地ヨリ今後條件次第ニテハ之ヲ選フコトアリ得ヘ
ク從テ蘇聯カ獨逸ト和平スル基礎條件例ヘハ東部ニ於テ
ハ獨逸トノ舊國境ヲ承認シ内政不干涉ノ主義ヲ認ムル大

體ノ線ニ沿ヒ即チ蘇聯カ西方ニ於テ安全保障ヲ得テ地中
海方面ニ進出シ得ル諒解ノ下ニ獨逸ト妥協スルノ意志アリ
ヤヲ打診スルコト有益ニシテ右ハ日蘇關係ニ關スル全
面的意見交換ノ際ニ事態ヲ明瞭ニスル意味ヲ以テ試ミ得
ヘキカト思ハル

尙又獨蘇和平問題ヨリ萬一全面的ニ世界平和ノ端緒ヲ見
出シ得ルカ如キコトアリトセハ其ノ形勢ニ付テハ遲滯ナ
ク報告アリタシ

~~~~~

989

昭和19年11月25日

重光外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

日ソ關係強化及び独ソ和平の実現を目的とし

たソ連との交渉促進方訓令

本省 11月25日午後5時20分発

第一六九九號(極秘、館長符號)

米英ハ戰局ニ對スル自信増大ト共ニ蘇聯ニ對シテモ態度硬  
化シ來リタルカ如ク(例ヘバ今次ノ莫斯科會議)之ト共ニ蘇  
聯モ世界全局ニ亘ル政策上米英ト妥協ノ大輪廓ヲ保持スル  
コトニ腐心スルト共ニ蘇聯自身ノ手近ノ安全保障(セキユ

リテー)ノ問題ヲモ考慮スルニ立至リ居ルモノト觀察セラル(特ニ東歐及獨逸處分等々)即チ米英ト蘇聯トノ關係ハ大体底ヲ突キタル感アリ而シテ戰局ハ東西共激化シ居ルモ大体冬期中樞軸ノ防禦力崩壞セサルコト明トナラバ冬期ハ政治期トシテ各方面ヨリ利用セラルベシ

就テハ此ノ機微ナル國際動向ニ應スルニ遺憾ナカラシムルタメ此上更ニ近ク「モロトフ」ト意見交換ヲ進メラレ先ツ日本ノ對外政策(特ニ對支對東亞政策)ヲ解明シ更ニ日蘇兩國ノ大局上ノ利害關係ノ一致アルコトニ先方ノ理解ヲ進メ茲ニ日蘇中立條約ノ強化乃至ハ安全保障ヲ目的トスル日蘇間條約ノ如キモノニ漕キ着クル基礎ヲ作ルコトトシ度ク而シテ更ニ獨ソ和平問題ノ打診ヲナシ時局打開ノ方向ニ進ミタシ

右ハ往電第一五二二號及第一六〇一號訓令ノ續キトシテ申進スル次第ニシテ此上一層御努力ヲ期待スル次第ナリ

~~~~~

990 昭和19年11月27日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

日ソ關係強化は困難であり対策には慎重考究

を要する意見見申

モスクワ 11月27日午後11時52分発
本省 12月1日前10時45分着

第二四一八號(大至急、極秘、館長符號)

往電第二三五四號第二三六〇號及第二三六五號ニ關シ

ハ右拙電中ニモ申述ヘタル通り過般ノ莫斯科會談中「チャーチル」ヨリ「シベリア」基地問題ニテ蘇ノ同意ヲ求メ可成リ執拗ニ蘇ノ再考ヲ促シタルニアラスヤヲ思ハシムル節アリ昨今「レイテ」島方面海空戰熾烈ヲ加ヘ我陸上反攻又實效ヲ奏セントスルニ至レルノミナラス我方廣西作戰ノ成功等ニ依リ米側ハ一層焦燥氣分ニ驅ラレ旁々基地問題ニ付テハ今後蘇側ニ對シ一段重壓ヲ加ヘ來タルニアラスヤト察セラレ

ニ中立遵守ニ關スル蘇聯ノ態度ハ累次電報ノ如ク本使ニ於テハ容易ニ變更ノコト無カルヘシト認メ居リ又蘇カ米英側トノ協調ニ拘ラス獨自ノ政策ヲ維持スヘシトスル態度モ當分ハ堅持セラルヘシト思考スルモ何分東西戰線トモ決戰段階ニ入り敵味方共ニ焦燥ヲ加ヘ殊ニ米國內ニテハ援蘇物資ノ代償トシテノ蘇側對米協力ノ不足ヲ非難スル

聲漸次喧騒ヲ加ヘ來タリ蘇側モ種々ノ行懸リヨリ馬耳東風ナルヲ得サル狀態ニ陥ル無キヲ保セス加フルニ西班牙土耳其ノ對日獨或ハ對日斷交モ切迫シ居ルヤニ見受ケラレ瑞典ニ對スル敵國側ノ壓迫モ其ノ中效ヲ奏スルヤモ知レス斯クナリテハ蘇側ニ取リテモ面白カラサル事態ヲ生シ兩國ハ樞軸側ト斷交ヲ餘儀無クサレタルニ反シ蘇聯ノミハ日本ト中立關係ヲ繼續スル矛盾ニ直面シ彼自ラ安セサルニ至ルヘシ而シテ近ク三巨頭會議ニテモ開催セララル様ナラハ日蘇關係ハ更メテ俎上ニ上リ右ナリ左ナリ事態ハ一段明確トナルヘキコトト想像セラル

三、⁽²⁾右ノ如キ形勢ニ對スル我方對策如何ハ慎重考究ヲ要スル所ナリ往電第二三六〇號ニテ申進シタル如ク我國内ニ於テハ戰爭困難ヲ加フルト共ニ日蘇關係ヲ一層増進シ蘇聯ノ力ニ頼リテ危急ヲ切抜ケント希望スル論モアルニ對シ本使ハ不贊成ヲ極言セル次第ニシテ如斯希望ノ半面ニハ大東亞戰ノ不利ナル發展ニ押サレ外交ノ力ニ頼ラントスル敢闘精神ノ動搖ヲ見出ササルヲ得ス此ノ點ニ於テ本使ハ到底此ノ意見ニ與ミスルヲ得サルモノナリ加之昨今ノ形勢ヲ以テスレハ日蘇關係ノ増進ハ扨テ置キ如何ニシテ

現在ノ中立關係ヲ維持スヘキヤカ現實ノ問題トナリ來リト云フヘク而シテ此ノ中立關係ヲ喪ハハ我方ノ受クル打擊ハ正ニ測リ知ルヘカラス或ハ之カ我方ノ致命傷トモナリ得ヘキ點ニモ想到セサルヲ得ス日蘇關係ノ將來ハ此ノ觀點ニ立チ考究スルヲ要スヘク本使ハ如斯致命傷ヲ避ケンカ爲現状維持ヲ絕對必要ト思考スルモノニシテ即チ後顧ノ憂ヲ除キ決戰ニ臨マントスルモノナリ而シテ之以上ニ我ニ有利ナル日蘇關係ヲ作り出サントスルカ如キハ今日ノ國際情勢ニ於テ到底企圖シ得サル所ナリ

四、然ラハ現状維持ノ方策如何、從來ハ日蘇兩國ノ利害ノ一

致點ヲ見出シ之ヲ基礎トシテドウヤラ中立關係ヲ維持シ來レルモノノ米英ノ外交攻勢愈々激甚ナラントスル今日は迄ノ基礎ニ於テハ今後ノ維持漸次困難トナルニ至ルヘク之カ對策ニ付腐心セサルヲ得ス

我方ノ蘇聯引着ケ策トシテ考ヘ得ラルルモノニ付如何
(一) 若シ我方ニ於テ依然蘇聯ニ對シ加ヘ得ヘキ壓力ヲ保持シ居ルニ於テハ此ノ壓力自體彼ニ對スル脅威トナリ力ヲ勞セスシテ目的ヲ達シ得タランモ滿洲方面ニ於テスラ我方戰力ノ低下著シキヲ感スル今日右ノ如キハ最早

望ミ得サル所ナリ

(二)我方ニ於テ何等讓歩ヲ用意スヘキヤ

右ニ付テハ已ムヲ得サレハ南樺太ノ返還北滿鐵道ノ再讓渡等一應考ヘラルヘキモ情勢漸次逼迫シ來ラハ南樺太ハ問題トナラサルヘク鐵道ノ再讓歩ハ單ニ舊東支線ノ蘇聯經營下ニ復歸スル問題以上ニ哈爾賓以北ノ北滿全體ニ亘ル我方軍勢力ノ撤收ヲ招來スヘキノミナラス更ニ進ンテハ「ポーツマス」條約ノ廢棄ニ迄進展シ漁業條約ハ更ナリ南滿ニ於ケル我方權益全體ニ對シ直接影響ヲ及ホスコトナルヘク到底輕々ニ裁斷スルヲ得ス總シテ斯ノ如キ讓歩ハ頗ル危險ニテ一旦讓歩ノ色ヲ示サハ蘇側ノ要求益々増大シ結極當方ノ言ヒ出シ損トナリ何等得ル所無クシテ終ルコトアルヘキハ覺悟セサルヘカラス

貴電第一六〇一號ノ三ニハ支那問題ニ關スル日蘇間了解ヲ指示シ居ラルルモ英米側ノ壓迫ニ依リ蘇ノ態度ニ變更ヲ來タス場合ヲ豫想スル以上支那ニ於テ蘇カ英米ノ工作ニ反對スルカ如キ態度ヲ執ルヲ期待スルハ自家撞着ノ論ニシテ之亦用フヘカラサルカ如シ

更ニ蘇聯ヲシテ帝國ノ東亞安定策ニ同調セシメ相携ヘテ東亞ノ經營ニ協力セシメントスル我方ノ施策(貴電第一五二二號)ハ所謂背ニ腹ハ代ヘラレストスル案ナルヘキモ必然我ニ於テ容共政策ニ迄進マサレハ蘇聯カ協調シ來ル譯ナカルヘシ我方ハ「ロシア」革命以來共產主義ニ反抗シ來リ國交ノ阻害ヲモ辭セサリシモノナリ

然ルニ今蘇聯ト協力ノ態度ニ變ラントセハ勢ヒ或ル程度容共政策ヲ容認セサルヲ得ス右ハ大戰下ノ日本トシテ容易ナラサル問題ナリ支那ニ於テ共產軍カ米英ノ前衛トシテ我ニ抵抗セサル限り我ハ之ヲ敵トセストスル位ハ末タ主義ノ問題ニアラサルモ一旦蘇聯トノ協力ノ爲容共ノ建前ヲ取ルニ至ラハ長年帝國ノ取り來レル態度ヲ棄ツルコトトナリ次々ト其ノ影響ヲ受クルニ至ルヘシ

(三)防共協定及三國條約ヲ犠牲トシ得ヘキヤ

中立條約存續ノ代償トシテ蘇カ防共協定、三國條約ノ破棄ヲ申出テ來ルコトナカルヘキヤ此ノ點ニ於テ日本カ讓歩スルコトアリトセハ右ハ正ニ蘇聯外交ノ大成功

ニシテ獨ヲ唯一ノ同盟國ヨリ孤立セシメ其ノ没落ヲ早メシムヘク又以テ英米ニ誇示シテ其ノ相對的地位ヲ鞏固ナラシムルニ至ルヘシクスレハ假令日本トノ中立關係今後繼續セラルトスルモ英米ニ對シ充分言譯ケ立ツ次第ニテ蘇聯ニ取りテ多少有利ノ解決策タルヘク從テ蘇側ヨリ是等條約ノ破棄ヲ申出テ來ルコトハ有り得ヘキコトナリ然ルニ我方ニ取りテハ條約ノ破棄ハ大問題タラサルヲ得ス

其ノ第一ノ理由ハ信義ノ問題ニシテ形勢逆轉シタレハトテ同盟國トノ條約ヲ弊履ノ如ク棄テテ顧ミサルハ皇道外交ヲ主張スル手前爲シ得サル所ナリ(三語脱)元來本使ハ防共協定三國條約共ニ其ノ締結ニ反對ノ意見ヲ持シタルモノナルモ一旦締結ノ後ハ飽迄條約ニ忠實ナラサルヲ得ス防共協定ハ「コミンテルン」解消後其ノ存在ノ目的ヲ失ヒタリト言フヲ得ヘキモ本協定ハ共產「インター」ノ策動完封ヲ目的トシタルト同時ニ共產主義其ノモノニ對スル日本ノ態度ヲ明瞭ナラシメタルモノナリ之カ破棄ハ即チ反共ノ主義主張ヲ拒否撤回スルモノニシテ共產主義國タル蘇聯ニ對スル全面的降服

ニ他ナラス或ハ英米モ既ニ必要ニ迫リ容共政策ヲ執レリト云ハンモ彼等ハ曾ツテ防共協定ノ如キ公然タル國際約束ヲ爲シ居ラス政策ノ問題トシテ一時共產主義ヲ容認セントスルモノニシテ而モ表面ハ民主主義ノ擁護トシテ體裁ヲ作り共產主義容認ヲ口ニセス之ヲ防共協定迄締結シテ堂々國際共產主義ニ對抗シ來レル日獨カ今ノ時期ニ於テ之ヲ破棄シテ蘇聯ニ媚態ヲ呈スルトハ同日ノ論ニ非ス況ヤ防共協定ノ破棄ハ夫丈ノ事ニ留マラス必スヤ三國同盟ノ根底ヲ動搖セシメ多分ニ日獨離間ニ役立ツコトトナルニ於テ問題ハ一層重大ナリ即チ之等ノ條約モ容易ニ破棄スルヲ得ス自繩自縛ノ狀態ノ儘之ニ甘ンスルヨリ他ナシト言ハサルヲ得ス

其根本問題トシテ蘇聯ハ今後モ中立條約ヲ必要トスヘキヤノ疑問モ生シ得ヘシ

彼ハ現ニ日本ヲ以テ東ヨリスル脅威トシテ最早恐ルルニ足ラスト考ヘ居ルヤモ知レス日本自身力足ラサルヲ自覺スルニ至リタリトセハコソ國內ニテ近頃頻リニ蘇聯トノ關係打開カ唱ヘラルル譯ニテ此ノ事情ハ疾ク蘇聯ニモ解リ居ルヘシ唯彼カ今以テ中立ヲ守ル所以ハ日米間ノ死闘

繼續ヲ利益トスルコト主タル理由ノ一ナルヘク現ニ比島
沖大戦果ハ露國人ヲ喜ハシメタル形跡アリ(外務部極東
部員等ハ我方ノ電報ヲ快哉ヲ以テ迎フルノ風ヲ示シ海軍
部極東課員モ同様ノ色アリタルカ如シ)然シ獨蘇戰遂行
ノ爲利益アリタル中立條約ノ效果ハ日本ノ脅威減退ト共
ニ薄ラキ今後ハ蘇側ニ於テ強ヒテ其ノ存續ヲ必要トセサ
ルヤモ知レス中立條約ナクトモ日本ハ攻撃シ來ラスト多
寡ヲ括リ居ルヘシ蘇聯ノ眞意果シテ斯ノ如シトセハ既存
ノ中立存續ニハ我方ヨリ代償ヲ持出スノ已ムナキニ至ル
譯合ナリ而シテ我方ヨリ中立關係ノ持續ヲ申出テ先方ヨ
リ防共協定三國條約等ノ破棄ヲ求メラレハ結果ハ却テ
惡化スルナキヤヲ怖ル

六、以上ハ現下ノ戰況ヲ基礎トシテ日蘇關係ノ將來ニ付検討
ヲ加ヘタル卑見ナリ

右ノ如キ觀察ヨリ出發スレハ蘇聯ニ對シ施スヘキ手段ノ
乏シキヲ容認セサルヲ得スシテ輕々ニ手ヲ下シ難シト言
フニ歸着スヘシ以上ノ卑見ニ對シ貴方御意見御回電ヲ得
レハ幸甚ナリ尙貴電第一六九五號ノ大部分ハ二十六日接
到シタルモ未タ完全ニ出揃ハサル爲研究ヲ了スルニ至ラ

ス依テ既ニ起草ヲ終ヘタル本電ハ其ノ儘發電スルコトニ
取計ヒタリ貴電ニ對シテハ追テ何分ノ儀申進スルヤモ計
リ難ク貴方ト充分意見交換ノ上成ルヘク早目ニ「モロト
フ」ト會見シ度キ所存ナリ

~~~~~

991

昭和19年11月28日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日ソ關係の見通しに関する意見具申への本省

側見解回示方要請

モスクワ 11月28日後6時55分發

本省 12月3日前10時35分着

第二四二五號(緊急、館長符號、極秘)

貴電第一六九九號及第一七〇四號ハ二十七日接到第一六九  
五號ハ二十八日全部出揃ヒ拜誦ス十七日ノ會談ニ對シ望外  
ノ御懇示ヲ賜ハリ感謝ニ堪ヘス

日蘇關係ノ將來ニ對スル卑見ハ上記貴電ト行違ニ往電第二  
四一八號ヲ以テ詳細申進シ置キタル處今回ノ御來示ト本使  
ノ見解ト間ニハ兩國關係増進ノ見据ニ付可成リノ隔リアル

(大カ)

様存セラレ右ハ聯合側ノ空氣ニ直接觸レ居ル本使ノ感想カ

自然極東方面ノ雰圍氣ト異ナルモノアル結果ト存セラルル  
モ相互見解ノ相違ニ對シ充分檢討ヲ加ヘ置クコト今後蘇側  
トノ折衝上是非必要ノコトニ付甚タ差出タル申分乍ラ右往  
電所載ノ卑見ニ對シ忌憚ナキ閣下ノ御意見御回示相成様致  
度シ

~~~~~

992

昭和19年12月12日 重光外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

日ソ兩國の中立關係強化及び独ソ和平の実現
に關する本省側見解につき回電

本省 12月12日後8時発

第一七九一號(緊急、館長符號)

貴電第二四二五號ニ關シ

一、今日迄ノ事態ニ於テハ蘇側ヲシテ中立條約ヲ遵守セシム
ルコトヲ以テ兩國關係調整ノ限界ト觀ルヘク又兩國關係
從來ノ基本的背景特ニ防共協定締結以來ノ經緯ヲ顧ミ過
般ノ「ストーリー」演說ニ及フトキハ差當リ現存以上ニ
有利ナル兩國關係ノ招來ヲ豫期スルノ無理ナルコト亦否
定シ得サル所ナリ然レトモ過去一年半ニ亘ル我施策ノ結

果貴大使ノ御努力ニ依リ兩國國交力順調ニ推移シ來レル
コトハ爭フヘカラサル事實ニシテ今後現ニ動キツツアル
國際情勢ノ發展如何ニ依リテハ局面ヲ打開前進シ得サル
限リニモアラサルヘク要スルニ絶エス動キツツアル國際
政局ニ對應シ一定ノ方向ヲ以テ終始一貫努力ヲ續クルニ
於テハ必スヤ何等前進ヲ企圖シ得ヘキコトニ付テモ御諒
解ヲ得ヘシト信ス

二、貴使ノ「モロトフ」會見ノ模様ニ徴スルモ蘇側カ支那問
題ニ對シテ關心ヲ示シ(莫斯科ニ於テ支那問題ニ關係シ
居ルハ主トシテ黨部ニシテ黨部ハ從來常ニ延安ト連絡ア
リ)我對支政策ニ關スル貴大使ノ説明ヲ傾聽スル態度ニ
出テタルコトハ我方トシテモ注意ニ値スル所ナリ
支那ニ於ケル重慶、延安ノ關係延テハ米英ト蘇トノ關係
ニ付テハ屢次詳報セル通りナルカ國共妥協力發展シ若シ
蘇カ反日的立場ニ於テ之ニ介入スルニ至ラハ我ニ對スル
致命的情勢トナルヘク何トシテモ之カ阻止ニ努力セサル
ヘカラス之カ爲ニハ帝國ノ支那及東亞諸國ニ對スル政策
ヲ充分ソ聯ニ諒解セシムルコト緊要ト認メラルルヲ以テ
往電第一六九五號及第一六九九號ノ通り訓令セル次第ナ

リ尙ソ聯ヲシテ諒解セシムヘキ我カ對支政策ノ要點及日蘇妥協ノ伏線の基礎トシテハ左記ヲ考慮シ得ヘシ

(1)帝國ハ支那ニ對シ領土的野心ヲ有セス全面和平成立ノ曉ニハ完全撤兵ノ意向ナルコト日華同盟條約附屬書ノ明示スル通りニシテ又支那ニ於テ政治面ニ付ソ側ニシテ帝國ト何等協定ニ達セントスル意向アラハ(差當リ無シトハ思ハルモ)之ニ應スル用意アリ

(2)支那ニ於テハ現在事實上共產黨跋扈シ居リ帝國トシテハ實際問題トシテハ之ヲ默認(或意味ニ於テ容共的政治)セサルヲ得サル立場ニアルコト御承知ノ通ニテ此點モ亦妥協ノ一要素トシテ利用シ得ヘシ

三、更ニ進ンテ世界情勢ヲ判斷スルニ獨軍ハ國境ニ壓迫セラレ居リ獨ノ脅威減退ト共ニ反樞軸側陣營特ニ蘇ト英米ノ利害相違ハ表面化スル傾向ヲ示シ特ニ蘇ノ支持スル共產黨ト米英ノ支援スル民主派トノ相剋軋轢ハ各地ニ於テ激化シツツアリ右ハ單ニ歐洲、バルカン方面ニ止ラス小亞細亞、「イラン」、「イラク」支那等何レモ然リ蘇ハ目下ノ所努メテ對米關係ヲ良好ニ繋キ以テ英ニ當ラントスル狀況ナルモ英米對蘇ノ關係ハ戰局ノ進展ト共ニ今後益々

紛糾スルコト必至ト觀察セラル

固ヨリ現下ノ戰況ニ於テ我ニ有利ナル國際關係ヲ作り出スハ事至難ナルニ似タルモ前線ニ於ケル執拗ナル喰下リト相俟ツテ外交のニモ全力ヲ舉ケテ環境改善ニ努力セサルヘカサルコト言ヲ俟タス戰局ノ不利ナルニ押サレ敢闘精神ニ動搖ヲ來シタルヤノ憂慮ヲ抱カルルハ一應御尤モナルカ右ハ決シテ國民ノ大勢ニ非ス外政當局トシテハ凜乎トシテ難局ニ立向フ決意ヲ有スルモノニテ此ノ故ニ特ニ對ソ關係ニ費シタル從來ノ努力ヲ延長シ之ヲ發展セシメテ將來ノ道ヲ拓カント欲スル次第ナリ

四、我方ノ目的ハ中立關係ノ維持及強化擴大ニ存スルコト御承知ノ通ニテ併セテ此上共蘇ト英米トノ妥協ヲ^(防)害スル狙ヒヲ以テ進ミ度ク要スルニ第一ニハ日蘇兩國夫々ノ安全保障強化ノ實現ヲ建前トシテ兩國關係ノ前進ヲ圖リ(支那問題ニ付テ我立場ヲ先方ニ了解セシメントスルモ即チ此點ノ考慮ニ出ツ)第二ニハ世界政策的の見地ヨリ獨蘇ノ妥協實現ヲ目指シ(スタマー大使トノ會談參照)^(編注)日獨ノ對蘇態度ヲ成ルヘク歸一セシメ更ニ日獨ソ三國ノ政策ヲ同調の方向ニ誘導セシムル心構ヘヲ以テ蘇當局ノ意向

ヲ適宜探查シツツ此間ニ能フヘクシハ世界平和ノ形勢發展アリヤヲ見極メントスルモノナルコト前電ニ依リ御諒承ノ通りナリ

五、勿論以上ハ貴大使限リニ對スル本大臣ノ腹中ノ考方ナルト共ニ世界情勢ノ現狀ヨリ觀察シ帝國トシテハ當然進ムヘキ大道ニシテ之ニ對シテ最善ノ努力ヲ傾注セサルヘカラサル儀ト思考ス遣リ方トシテハ飽迄貴大使ノ裁量ニ依ル次第ニシテ「モロトフ」會見ノ機會ヲ成ルヘク多ク作り先ツ我カ對外政策ヲ了解セシムル點ヨリ始メ漸次獨ニ對スル妥協條件ノ打診等ニ進ムコト手順トシテ然ルヘシト存ス

尙又斯ノ如キ努力ハ之ヲ試ミルモ帝國ノ威信ヲ害スルコトナク何等ノ不利實害ナキ所ノミナラス我態度ヲ堂々ト表示シ得ル次第ニテ日ソ關係改善ヲ使命トセラレ日蘇兩國政府ノ信賴スル貴大使ニ於テ始メテ適切ニ措置シ得ラルヘキ所ト信スル次第ナリ
以上長文ニ亘リタルモ前後ノ往電ト併セテ御閱讀ノ上最善ヲ盡クサレンコトヲ望ム

編 注 本書第330文書。

993

昭和20年1月5日

在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

トルコの対日断交が日ソ關係に及ぼす影響等
に關シモロトフとの意見交換について

モスクワ 1月5日後11時40分発

本 省 1月8日後2時10分着

第三九號(館長符號、大至急)

往電第三二號ニ關シ

三日ニ至リ豫テ申込ミ置キタル「モロトフ」トノ會見日取儀禮部ヲ通シ催促シタル處四日會見ノコトトナリ依テ例ノ通り油橋帶同「クレムリン」ニ赴キ一時間ニ亘リ會談、先方「ベドツエロブ」在席

「モ」ヨリ新年ノ祝詞ヲ述ヘ會見延引セルヲ謝シ且ツ現在健康全ク回復セリト述ヘ本使ヨリモ新年ノ挨拶ヲナシ貴委員ノ御病氣ハ本使着任以來始メテノコト也トテ全快ヲ祝シ次テ左ノ如キ會談ヲナセリ

佐藤、本日ハ二三ノ問題ニ付貴委員ト意見交換ノ爲メ參上

セルモノノ處其前主タル問題ニ入ルニ先チ申述ヘタキコトアリ實ハ今朝莫士科新聞ニ依リ土國政府ニ於テ對日外交經濟斷交ニ決定シタル趣ノ「アンカラ」「タス」電ヲ一讀セル處同政府ノ決定ハ米英政府ノ要求ニ依リタル旨記載シアリ恐ラク蘇聯政府ニ對シテモ事前協議アリタルコトト推察セラルル處本使トシテハ其點ニ付キ御尋ネスル次第ニ非スシテ土國ノ對日斷交カ日蘇關係ニ何等影響ヲ及ホスモノニ非ストノ點ニ付蘇聯政府ノ確認（「アツシユランス」）ヲ得度シト考フルモノナリ尤モ右ハ本國政府ヨリノ訓令ニ基イテノコトニアラサルモ本使ヨリ御尋ネスル次第ナリ

「モロトフ」貴大使ノ御訊ネニ對シテハ左ノ通報ヲナスノ用意アリ

土國政府ハ本件ニ付キ蘇聯ニ對シ協議シタルコトナシ尤モ土國政府今回ノ決定ニ付テハ數日前通報（インフオーメーション）ニ接シタリ但シ土國ノ對日斷交ニ關スル決定ハ日蘇關係ニ付テハ何等關係スル所ナシ

「佐藤」貴委員ノ御通報ヲ謝ス從前ヨリノ明白且ツ確乎タル蘇聯政府ノ態度ニ鑑ミ貴委員ノ御回答ハ本使ニ於テ正

サニ斯クアルヘシト期待シ居リタル所ナルモ貴委員ノ口ヨリ以上ノ事ヲ聽キ得タルヲ多トス早速本國政府ニ報告スヘク政府モ満足ヲ以テ御回答ヲ聽取スルコトト思考ス次ニ貴委員ノ御病氣中御言附ケモアリシニ依リ去ル十二月二十一日「ロヅフスキー」ニ面會セリ蘇佛同盟及相互援助條約ハ極東ニ關係ナク其適用範圍歐洲ニ限ラルルコト疑ヒノ餘地ナシト考ヘラレタルモ佛國ハ東亞ニ大植民地ヲ有シ大東亞戰爭ニ關係ヲ有スル事態ニ鑑ミ日本政府ニ於テハ本條約ニ關スル蘇聯政府ノ見解ヲ訊ネ前述ノ點ニ關スル蘇聯政府ノ確認「アツシユランス」ヲ得タキ考ニテ其ノ旨本使ヨリ「ロ」ニ申入レタル次第ノ處「ロ」ハ之ニ對シ專ラ對獨戰ヲ目的トスルモノニシテ極東問題ニ關係ナキコトヲ言明セリ右「ロ」ノ説明ハ貴委員ニ於テ當然確認ヲ與ヘラルルコトト期待ス

「モロトフ」本件ハ「ロ」ノ述ヘタル通りニシテ尙自分ヨリハ同條約ノ審議ニ當リ蘇佛兩國側ニ於テ何等極東問題ニ觸レタルコトナキ旨ヲ附言ス

「佐藤」御説明ヲ多トス佛ハ前述ノ如ク東亞ニ大植民地ヲ有シ居ル處「ド、ゴール」政府ハ今日マテ日本ニ對シ宣

戰シタルニ非ス其ノ對日態度明確ヲ欲ク同政府ハ或ハ極東ニ軍艦ヲ派シ大東亞戰ニ参加スト傳ヘラレ或ハ陸上部隊ヲ派遣シ米軍ヲ援助スト噂セラレタリ素ヨリ佛國ノ大東亞戰參加問題ハ直接蘇聯政府ニ關係アル問題ニ非ス又蘇聯政府ヲ通シ佛政府ノ態度ヲ確メントスルモノニ非ルハ勿論乍ラ日本政府トシテハ佛國政府力對日態度ヲ明確ナラシムルニ至ラハ我ニ於テモ之ニ對應スル態度ヲ採ラサルヲ得サル次第ニシテ右貴委員ノ御參考マテ申述フ

「モロトフ」(之ヲ首肯ス)

佐藤 既ニ客年六月二十四日竝ニ十月十七日ノ二回ニ亘リ貴委員ニ對シ支那問題ニ關シ御話シタル所アリ本日又復同問題ニ立返ヘル貴委員ヲシテ厭カシムル惧レアルモ再ヒ之ニ觸レサルヲ得サル羽目ニ陥レリ

「モ」笑ヒ乍ラ「何卒」ト述フ

佐藤、本使カ茲ニ言及ヲ余儀ナクセラレタルハ去ル十二月二日「イスベスチャ」紙ニ「べ、クライノフ」ノ署名アル支那關係論文掲載セラレタルコトニアリ右論文ノ筆者ハ日本カ他ノ何レノ戰場ニ於テモ敗北ヲ喫シ居ルニ拘ラス何故ニ重慶ハ其ノ日本トノ戰爭ニ於テ敗北ヲ續ケ居ル

ヤトノ質問ヲ提起シ之ニ對スル説明トシテ重慶ノ反動派カ中共トノ協力ヲ拒絶シ居ルニアル旨ヲ指摘シ此點ニ關スル英米側ノ刊行物ニ掲載セラレタル記事ヲ引用シテ自說ヲ證明シ居リ而シテ筆者ハ其ノ結論トシテ重慶ニ於ケル反動派及資本家ノ破滅的政策ハ未タ解消セラレス之ニ對シ全支那ノ愛國者進歩的結社其他支那ノ友人タル「デモクラテイク」ノ諸外國人等ハ皆支那ノ國家統一國力ノ統合及自由解放戰爭ノ爲ノ進取的國家建設ヲ叫ヒ居レリト記述セリ右論文ハ「イスベスチャ」ノ社説ニハ非ルモ同紙ノ如キ政府機關紙力之ヲ掲載シタルハ注目ニ値ヒス本使ハ何モ「クライノフ」ノ論文ニ關シ苦情ヲ申立テントスルモノニ非ルモ貴委員ノ御注意ヲ喚起シタキハ萬一蘇聯政府カ「クライノフ」ノ提起スルカ如キ方策ヲ採用スルニ於テハ右ハ將ニ支那ニ於ケル日ソ關係ニ就キ前回ニ亘リ本使ノ述ヘタル危惧ヲ實現スルコトナリ從テ支那ニ於ケル日ソ間ノ衝突ヲ惹起スル危險ヲ多カラシムルニ終ルヘケレハ何トカシテ左様ノコトナクシテ相濟ム様希望セサルヲ得ス日本ハ不幸ニシテ現重慶政府トノ間ニ戰爭勃發ヲ見タル次第ノ處其後幾何モナクシテ眞ノ敵

ハ支那ノ背後ニアル英米ナルコトヲ發見セリ依テ若シ重慶カ米英ノ前衛トシテ日本トノ戰ヲ繼續スルコトナクハ日本モ亦彼ト戰ヲ續クル要ナキ次第也然ルニ中共ハ日支衝突勃發スルヤ之ヲ機會トシテ南京(重慶)トノ合體ヲ圖リ統一抗日戰ヲ主張スルニ至リ茲ニ於テ日本ハ中共トモ衝突スルコトナレル次第ナルカ若シ中共力戰爭ヲ繼續スルコトナクハ日本モ同シク繼續スル必要ナキコトナル譯ナリ現在日本ハ中共トモ敵對シ居ルモ幸ニシテ共產國タリ又共產黨ノ本山タル蘇聯トハ現ニ平和的友好關係ヲ維持シ居ル次第ニ付日本ト中共トノ間ニモ同様ノ結果ヲ齎ラスコト必スシモ不可能ト云フヘカラス貴委員ハ已ニ本使ニ對シ支那問題ニ對スル不干渉主義ヲ言明セラレタリ此ノ考ヘハ日本ニ取リテモ同シコトニテ中共南京重慶三者間ノ關係ハ支那ノ内政問題ニシテ日本ノ關與以外ノ問題トセラレ居レリ仍テハ將來支那ニ於ケル衝突ノ原因ヲ除去スル意味ニ於テ日蘇間ニ何等諒解ヲ遂クルヲ得ハ幸ヒノコトト思考ス右ニ關スル蘇聯政府ノ見解ヲ承リ

タシ

「モ」貴大使ノ指摘セラレタル「クライノフ」ノ論文ハ

「インフォルメーション」ヲ提供スル性質ノモノニ過キス支那問題ニ關スル蘇聯政府ノ見解ヲ再ヒ茲ニ繰返スヘキカ右ハ既ニ貴大使ニ述ヘタル所ニシテ新ナルモノニ非ス蘇聯政府ハ支那問題ニハ不干渉ノ態度ヲ採ルモノニシテ又中共トモ關係ヲ有セス支那ニハ共產黨アリ共產軍アリ又自稱共產黨アリ併シ彼等カ果シテ共產主義ナリヤ本委員ハ之ヲ疑フモノナリ本委員ハ貴使ニ對シ已ニ蘇聯政府ノ態度ヲ説明セルニ依リ貴使ハ右態度ニ付キ疾ク御承知ノコトト思考ス

佐藤、貴委員ノ説明セラレタル所ハ好ク承知シ居レリ尙茲ニ一言スレハ日本ハ支那ニ於テモ米國ト衝突シ居ル處米ハ自己ノ地位ヲ有利ナラシメムカ爲ニ重慶ト延安政權ノ接近ヲ圖ラント努力シアリ右ハ米トシテ當然ノコトナルモ若シ蘇聯政府ニ於テ以上兩者ノ接近ヲ圖ラントスル米ノ策動ニ協力スルカ如キコトアラハ日本政府トシテハ憂慮ヲ禁シ得サル次第ニシテ本使ハ斯ルコトナキ様蘇聯政府ニ希望シ且ツ貴委員ノ證言アシユランスヲ望ム次第ナリ

モロトフ、米カ其ノ戰爭ヲ有利ナラシメンカ爲メニ策動シ

ツツアルコトヲ指摘セラレタル貴使ノ御意見ハ正シ此等米ノ策動ハ新聞ニモ報セラレアリ然シ蘇聯政府ノ態度ニ付テハ本委員ノ已ニ言明セル通ニテ貴大使モ此言明ニ依リ満足セラルルコトト期待ス

佐藤 貴委員ノ言ヲ多謝ス日本政府ニ於テモ満足ヲ以テ了承スヘシト思考ス尙ホ土耳其ノ斷交ニ付再言センニ右ハ英米側ノ策動ニ基クト見受ケラレ又米英ノ同盟國トシテノ蘇聯政府ハ土國ノ對日斷交ニ付必然米英ヨリ協議ヲ受ケラレタルヘシト思考セラルル處右ニ拘ハラス本件斷交ハ日蘇關係ニ何等影響セストノ貴委員ノ御話ニテ又本使ハ斯クアラムコトヲ冀ウモノナリ本使トシテハ蘇聯政府カ日本ヲシテ極東ニ於テ日本自身ノ敵國タル「アングロ、サクソン」トノ戰爭繼續ヲ依然可能ナラシムルヨウ要請シタシ

「モ」蘇聯政府ハ今國^(同)ノ土國決定ニ關係ナキ次第ナルカ土國ノ態度ハ新聞ニモアル通り米英ノ要請ニ基キ執ラレタルモノト認メラル蘇聯カ米國トノ同盟關係ニアルコトニ付テハ日本カ獨逸ト同盟關係ニアルト異ナル所ナシ而シテ蘇聯ハ何レノ國ヨリモ侵略的ニアラサル(メーニー、

アグレスイブヌイ)コトヲ申述ヘタシ

佐藤、貴委員ハ既ニ蘇聯カ獨自ノ政策ヲ執ルモノニシテ他國ヨリノ影響ヲ受クルモノニ非ストノ見解ヲ述ヘラレタルコトアリ此ノ點ハ日本モ亦同様ニシテ日本ハ獨逸ト同盟關係ニアルモ獨自ノ政策ヲ堅持シ居ルコト明白確乎タル事實ナル次第疾ク本使ヨリ御話シタルコトナリ貴委員ヲ「オツフアンス」スルコトヲ欲セサルモ蘇聯モ亦同様ニ獨自ノ政策ヲ執ラルルモノト考フ

「モ」蘇聯政府ハ今次ノ戰爭ニ於テ常ニ獨自ノ政策ヲ執リ居ルモノニシテ他國ノ影響ヲ受クルモノニ非ルハ貴大使ノ已ニ納得シ居ラルル所ナルヘシ

佐藤、誠ニ其ノ通りナリ日本ノ獨自ノ態度ニ付テハ本使ヨリ御話シ置キタルノミナラス重光大臣モ同様ノコトヲ「マリク」大使ニ述ヘラレタリ右大臣ノ言ハ本使ノ所言ヲ裏書キスルモノナリ

「モ」諒解セリ

佐藤、最近ノ報道ニ依レハ英米間ニハ重要問題ニシテ調節セラレサルモノ多々アル如キ處(本使ハ三日ノ蘇聯紙ニ掲載セラレタル「エコノミスト」ノ對米非難記事ヲ示唆

セリ往電第三八號參照）日本ハ從來ヨリ米國トノ間ニ大ナル困難ヲ有シタリ貴委員ハ本使ニ比シヨリ。大ナル經驗ヲ有セラレ從テ米國ニ對シ正鵠ナル見解ヲ有セラルルコトト思考スルモ米國ハ日本ニ取りテハ實ニ厄介ナル國ナリシナリ（中略）日本ハ到底之ニ忍從スルヲ得ス血戰ヲ餘儀ナクセラレ居ルモノナルコト貴委員モ了解セラルルコトト思考ス

「モ」御説明ヲ謝ス日本政府側ノ見解トシテ承リ置クヘシ然シ金持ハ一層富者タランコトヲ希フモノナリ

佐藤、然シ大資本家モ一定ノ制限ヲ受クルヲ要スヘシ

「モ」（笑ヒ乍ラ）富者カ一層富者タラントスルハ自然ノ法則ナリ

佐藤、彼等ニ於テ或程度ノ制限ヲ甘受スルニ非レハ世界ノ平和ハ來ラサルヘシ

（以上ニテ會談ヲ了リ席ヲ立チナカラ）

佐藤、日土斷交トナリタルニ付テハ「アンカラ」ニアル本使ノ同僚引揚問題モ起ルヘク本件ハ未タ本國政府ヨリノ訓令ニ接スルニ至ラサルモ何レノ途ソ聯政府ノ御好意ニ依リ蘇聯領土ヲ通過セシムル他ナカルヘキ處右ニ付貴國

政府ノ好意的考慮ヲ御願シ得ヘキヤ貴委員ノ御考ヲ承ルヲ得ハ幸ナリ

「モ」（瞬間思案ノ後）成程引揚問題起ルヘク右ハ可能ノコトナルヘシト思考ス但シ日本政府側ニ於テモ蘇聯人ニ對シ同様便宜ヲ與ヘラルヘキコトヲ期待ス

佐藤、夫ハ當然ノコトナリ若シ蘇聯政府側ヨリ日本ニ對シ何等御注文ノ儀アラハ本使ニ於テ蘇聯側ニ満足ヲ與フルヤウ出來得ル丈ケノ努力ヲ爲スヲ辭セス

「モ」了承

佐藤、時ハ容赦ナク經過シ重大時局ニ際會シ居ル際ナレハ本使ニ於テモ時ニ貴委員ト會談シ意見交換ノ機會ヲ持ツヲ利益トスヘシト思フ

「モ」承知セリ「ロゾフスキー」ト共ニ貴使ノ御要請ニ應スヘシ

（以上ヲ以テ會見終了）

~~~~~

994

昭和20年1月6日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛（電報）

米英の策動によってもソ連の対日態度に当面

は変化なしとの観測について

モスクワ 1月6日後4時27分発

本 省 1月8日後3時30分着

第四五號(館長符號、大至急)

(一)、(二)略

(三)米英ハ土國ヲ強制シタルト同シ筆法ニ依リ種々ノ機會ニ蘇聯ニモ壓力ヲ加ヘ其ノ對日態度ヲ變ヘシメント試ミタルヘキハ想像ニ難カラス此ノ儀ハ客年十一月十七日ノ會談ニ依リテモ略ホ推察セラレタル次第ノ處米英側ノ壓力ニ對シ蘇ニ幾何ノ反撥力アリヤハ我方ニ取り重要ナル點ニシテ即チ右ノ如キ重壓ニ拘ハラス蘇カ依然獨自ノ外交政策ヲ執リ得ヘキヤ否ヤハ問題トナル様思考セラレタルニ依リ本使ハ聊カ執拗ニ亘ルノ嫌ヒアリタルモ繰返し此ノ點ニ付談話ヲ進メ「モ」ノ態度判定ニ努メタリ其ノ結果ハ會談ノ經過ニ依リ御承知相成ルヘキ通り可ナリ判然ト蘇聯外交ノ自主性ヲ強調シ寧ロ大國トシテ當然ナリトスル色サエアリタルコトナレハ蘇ハ今猶ホ米英側ニ對シテハ援ソ物資供給其他ノ借方ハアルモ三國中ノ對等ノ一國トシテ嚴然タルモノアリト言フヘク從テ目下ノ處當分

ハ蘇ノ對日態度ニ變化ヲ來ス如キコトナカルヘシト判斷セラル但シ四月二十五日ノ中立條約廢棄通告期日モ追々迫リツツアリ夫レマテハ如何ナル變化ヲ來サストモ限ラス即チ日蘇關係ハ最モ機微ナ時期ニ突入シツツアリト云フヘキ處本條約繼續ノ爲ニモ蘇聯ノ態度若クハ心境ノ變化ヲ充分考察スルノ要アリ今回ノ會見モ其ノ瀕踏ミノ意味ヲ含メテノコトニシテ今後モ時々會見方豫約シ置ケリ

四、中立條約更新ニ關スル手ノ打ち方ニ付テハ本使ニ於テモ種々考究中ニテ余程慎重ニ行動スルヲ要スヘキ處本件ニ付テハ近ク改メテ卑見電稟充分御打合せヲ遂ケタル上ニテ先方ト折衝ヲ始ムルコトト致スヘシ

五、支那問題ニ付テハ三回ニ亘リ當方ヨリ話出シ水ヲ向ケタルモ「モ」ハ相變ラスノ態度ニテ一向氣乗リセス但シ米側ノ國共合作運動ニモ荷擔シ居ラサル様子ニテ此點ハ今後モ同様ナルヘキヤト愚考セラルルノミナラス米側ノ策動ニハ余リ重キヲ措キ居ラス寧ロ冷淡ナルヨウ見受ケラル他面國共双方ニ取りテモ各々ノ腹ノ底ニハ奧ニ奧カアル如ク米側ノ策動モ急速ニハ成效スマシキヤニ受取ラルルニ付テハ對支問題ニ關スル我方ノ行動モ今回ソ側ノ態

度ヲ一應見極メタルヲ機會トシ此ノ邊ニテ暫ク手ヲ引ク  
方宜シカルヘク然ラサレハ無理ニ何事カヲ仕遂ケントシ  
却テ毛ヲ吹テ傷ヲ求ムルノ結果トナルナキヤヲ惧ル  
「六」(在土大使引揚幫助ノ件ニ付テ)

995

昭和20年1月10日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日ソ中立条約延長のため日本がとるべき措置  
につき意見具申

モスクワ 1月10日後5時00分發

本省 1月12日前7時43分着

第六二號(大至急、極秘、館長符號)  
往電第四五號ノ四ニ關シ

中立條約效力延長ニ關スル我方ノ蘇側ニ對スル措置振ニ付  
以下卑見開陳何分ノ御指示ヲ仰度ク存スル處茲ニ先ツ貴見  
ヲ迎ヘ度キハ日蘇關係ニ付キ客年十一月二十七日付拙電第  
二四一八號ヲ以テ申進シタル本使ノ見解ハ其後ニ於テモ何  
等修正ヲ加フルコトナク其儘本使ニ於テ確認スルモノニ有  
之即チ左記中立條約延長問題ニ付テノ考察ニ於テモ同電記

載ノ見解ハ總テ援用セラルルモノトシテ御諒承ヲ仰キタシ  
(一)、條約延長ニ付我方ニ於テ蘇側ニ對シ如何ナル手ヲ打ツ  
ヘキヤノ方途論ニ關シテハ凡ソ二ツノ場合ヲ考ヘ得ヘク即  
チ(イ)來ル四月二十五日ノ廢棄通告期間マデ我方ヨリ何等ノ  
申出ヲ爲サス又ソ側ノ意向ヲ尋ヌルコトモセス其儘右期間  
ヲ經過セシメ條約ヲ自動的ニ延長セシムル方法(ロ)之トハ反  
對ニ早キニ追ヒテ我方ヨリ蘇側ニ條約存續ノ希望ヲ傳ヘ蘇  
側ヲシテ之ニ同調セシムルコトニ努力スルノ二案アル<sup>(ヘウ)</sup>キ處  
右ノ中

(イ)ノ方法ハ世間ヲ騒サス又敵側ヨリノ妨碍ヲ誘致セスシテ  
沈默ノ中ニ期限ヲ經過セシメントスル腹案ニシテ本使トシ  
テ策ノ上乘タルモノト爲シ居リ成ルヘク此ノ態度ニ出テ度  
ク存シ居ルモ此ノ案ニハ大ナル危險ヲ伴フヲ自認セサルヲ  
得ス即チ蘇側トシテ期限ノ接近シアルヲ忘レ居ル譯ナケレ  
ハ必スヤ何物ヲカ用意シ居ルヘク期限ノ前日トナリテ急ニ  
我方ニ要求ヲ提示シ即時日本カ無條件ニテ承認スレバ可シ、  
左モナクハ一年後ニハ條約ヲ失效セシムヘシトノ態度ヲ以  
テ我ニ臨ミ來ルコトニシテ、此場合我方ハ否應ナシニ先方  
ノ注文ヲ鵜呑ミニセサルヲ得サル破目ニ陥ルコトトナルヘ

シ斯克ナレハ我方ノ蒙ムル實質的損害頗ル大ナルヘキノミ  
 ナラス我與國ニ對シテモ敵ノ面前ニ於テ大ニ面目ヲ失スル  
 コトトナリ戰爭遂行上甚タ好シカラサル事態ヲ生スルコト  
 トナルヘシ尤モ先方ノ要求カ過當ナル場合我方ニ於テ之カ  
 拒絶ノ事由アルハ勿論ナリトシ其ノ結果條約廢棄セラレタ  
 ル場合ニ於テモ條約ハ今一年間效力ヲ存續スヘク戰爭遂行  
 上ニハ期間トシテ或ハ充分ト云フヘキカ如クナルモ右ハ理  
 論上ノコトニシテ一旦廢棄セラレタル條約ノ餘命ハ動モス  
 レハ死文ト同様ナルヘキヲ豫メ認識シ置カサルヲ得ス

反之(四)ノ場合ヲ想像スルニ假令日本側ヨリ條約存續ノ意思  
 ヲ表示スルモ最惡ノ場合ソ側ハ之ニ對スル明答ヲ避ケ期日  
 ヲ切迫セシメ結局(イ)ノ場合ノ危險ト大差ナキ狀況ニ陥ル虞  
 アリ左モナクシテ蘇側カ眞面目ニ我方ノ提議ニ乘リ來ル様  
 ナラハ茲ニ始メテ交渉ハ本筋ニ上ルヘキ處此ノ場合客年往  
 電第二四一八號ノ五ノ(二)及(三)ニ言及セル諸懸案ハ我方ニ於  
 テ當然ノ處置トシテ取扱ヒ十分ノ研究ヲ遂ケ帝國政府トシ  
 テノ肚ヲ決メ置クコト絶對必要ト認メラル然ルニ此ノ肚ナ  
 クシテ交渉ヲ開始シ先方ヨリノ申出ヲ俟テ考慮スヘシトス  
 ル如キ手緩キ考方ハ戰局ノ危機ヲ抱エテノ交渉振トシテハ

到底用ウヘカラス右ニ付テハ客年貴電第一五二四號ノ御決  
 定ハアルモ此ノ點ハ是非御再考ヲ煩ササルヲ得ス

(二)上記ノ如キ方法論ハ別問題トシ茲ニ根本論トシテ本使ノ  
 特ニ主張シタキ儀ハ現下ノ世界情勢下ニ於テ日ソ關係ヲ増  
 進スル方途トシテハ中立條約存續以外ニ途ナキト同時ニ之  
 以上ニハ絶對ニ出テ得サルコトニシテ本使トシテハ屢次ノ  
 意見申進中ニ繰返シ申述ヘタル通り最小限ノ本條約存續ヲ  
 實現シ之ヲ以テ蘇聯ヲ引キ着ケ英米側ニ全面的ニ奔ルコト  
 ナキヤウ措置スルヲ以テ根本義ト爲スモノナリ而シテ帝國  
 政府ニ於テ一旦此ノ見地ニ立脚セラルル上ハ對ソ折衝ノ方  
 法トシテ前記(一)ニ記載ノ二案中何レニ依ラルルヤニ付御決  
 定ヲ願ヒ度明確ナル御回訓ヲ得タル上ニテ最善ノ考察ヲ加  
 ヘ本使ニ於テ適宜行動ヲ開始スルコトト致スヘシ但シ何レ  
 ノ方法ニ依ルヲ問ハス本件條約效力延長問題ハ我方ニトリ  
 大ナル危險ヲ齎ラス次第ニテ政府トシテモ十分御決意アル  
 様冀ハサルヲ得ス又本件ハ今後ノ戰局ニ依リ多分ニ支配セ  
 ラルル問題トシテ豫メ御了解置キヲ得タシ

(三)ソ側カ今後モ中立條約ヲ必要トスヘキヤノ問題ニ關シテ  
 ハ既ニ冒頭往電五卑見申進シタリ(客年二四一八號ノ五ノ

誤り?)本使トシテハ最惡ノ場合ヲモ考慮セサルヲ得サル  
次第二シテ或ハ期日マテニ蘇側カ態度ヲ明確ナラシメスシ  
テ最後ノ瞬間ニ無理難題ヲ吹掛ケ來リ遂ニ廢棄ニ至ルカ或  
ハ期日迄ニ日蘇間ノ合意ナラスシテ條約廢棄トナル場合ニ  
付考フルニ蘇側ニ誠意ナクシテ廢棄セラレタル場合ニハ條  
約ノ完全消滅マテノ一年ハ何等ノ意味ヲ有シ得サルコト自  
明ノ理ナルニ反シ蘇側カ日本トハ依然友好關係ノ持續ヲ望  
ムモ米英ニ對スル義理合上條約失效ヲ企圖スルカ如キ心理  
ナリトセハ或ハ條約存續期間ハ勿論其ノ後無條約トナリタ  
ル後ニ於テモ事實上中立態度ヲ維持セシムルコト絶對不可  
能トシテ斷念スルニ及ハサルヘク右ハ多分ニ今後ノ形勢如  
何ニ係ル問題ト思考セラル

~~~~~

996 昭和20年1月12日 在スウェーデン岡本公使より
重光外務大臣宛(電報)

独国及び日本への措置に関する米ソ間交渉に

ついて

ストックホルム 1月12日後 発
本 省 1月18日午前9時48分着

第二九號

諜報者報告(十一日)

三國巨頭會議ハ二月初旬頃開催サルヘキ旨報セラレ居ル處
右ニ先立チ準備工作トシテ米蘇間ニ莫斯科及華府ニ於テ交
渉行ハレ其ノ主要議題ハ對獨及對日措置ナリトノ聞込アリ
右ニ關スル情報ヲ綜合スルニ左ノ通り

一、對獨措置

英米ハ「ルンドシユテツド」ノ冬季攻勢ニ依ル損失ヲ回
復スルコト困難ニシテ英米軍ノ爲シ得ル所ハ空軍ノ絶對
優勢ヲ利用シ獨逸ノ攻勢ヲ喰ヒ止ムルコトニ過キス形勢
ヲ一轉シテ大攻勢ニ出ルニハ新タナル軍隊及資材ヲ必要
トスル處英國ハ之ヲ爲シ得サルヲ以テ米ヨリ之ヲ送ル外
ナキモ獨逸攻勢前ノ戰鬪力ヲ回復スル爲ニハ更ニ二百五
十萬噸ノ船腹ヲ必要トシサラテタニ船腹不足ニ惱ミ居ル
米トシテハ之ヲ捻出スルコト困難ナリ從テ米ハ蘇聯カ此
ノ際獨逸ニ對シ大攻勢ヲ開始シ獨軍ヲ牽制スルコト必要
ナリトシ蘇聯ニ對シ攻勢開始ヲ要求シ居レリ蘇聯ハ右攻
勢ヲ約シ乍ラ實行ヲ濫リ攻勢開始ニ對スル代償ヲ要求シ
居レリ其ノ代償ノ最大ナルモノハ英米殊ニ米ノ物資供給

ノ範圍擴張ニシテ蘇聯ハ單ニ大攻勢ヲ開始スルノミナラス之ヲ續行スル爲ニハ第一ニ軍需資材、食料品、醫藥品、衣服類ヲ多量ニ必要トスルコトヲ主張シ米ハ既ニ原則的ニ右物資供給ヲ約シタルモ米國自體ニ於ケル生産力ノ困難船腹ノ不足等ノ爲事實上之カ實施困難ナルカ如シ

蘇聯ハ最近蘇聯生産力カ種々ノ原因ニ基キ低下セルコトヲ強調シ居ル處其ノ原因ノ一ハ勞働力ノ不足ニシテ右ニ關聯シ蘇聯政府カ工場等ヨリノ脱走者ニ付公然之ヲ取リ上ケ問題トシ始メタルコトハ注目ニ價ス從來此ノ種ノ問題ニ付公表ヲ喜ハサル蘇聯政府カ本問題ヲ大袈裟ニ取扱ヒ居ル事實ニ鑑ミ重要軍需工業ヨリ脱走セル勞働者ハ相當數ニ上ルコトヲ推測シ得ヘシ蘇聯ハ客年末三月間脱走者ニ對シ嚴罰ヲ以テ臨ミタルモ效果少ク脱走者ハ職場ニ歸來スル處カ却テ増加ノ傾向ヲ示セリ政府カ之等脱走者ヲ逮捕シ得サル事實ハ警察機關ノ國民ニ對スル統制力（住民ノ登録及移動監督）カ戰爭ノ結果薄弱トナリタルコトヲ示スモノニシテ住民ハ絶エサル戰爭ニ依ル集團移動ニ際シ登録及統制ヲ遁レ更ニ山林地帯ニ遁レ反蘇的「パルチザン」ニ合流スルコトヲ得ヘシ蘇聯ハ最近脱走者ニ

對シ寛大トナリ若シ一定期間中ニ職場ニ歸來セル場合ニハ大赦ヲ約セルモ大赦カ一時的性質ノモノニシテ何時ニテモ撤回サルルコトヲ知り居ル國民ハ之ニ信ヲ措カサル有様ナリ右事實ハ現在ノ蘇聯ノ内情ヲ知ルニ極メテ意義アリ鳴物入リニテ宣傳セル蘇聯國民ノ愛國主義ニモ自ラ限度アリ最近蘇聯國民カ戰爭ニ厭キ始メ勞働力及生産力確保カ困難トナリツツアルコトヲ證ス生産力低下ノ第二原因ハ工作機械ノ消耗ナリ

蘇聯ハ機械ヲ最大限度ニ酷使セル爲消耗迅速ニシテ今ヤ其ノ相當部分ヲ取替フルノ必要ニ迫ラレ居ルノミナラス戰爭ニ依リ破壊サレタル工業ノ再建及未發達工業部門ノ擴充ノ必要ヲ感シ居リ蘇聯カ如何ニ機械ヲ必要トシテ居ルヤハ凡ユル蘇聯占領地區ニ於テ多數工場ノ機械ヲ取外シ之ヲ蘇聯ニ持去レル事實ニ依リテモ之ヲ知り得ヘシ從テ蘇聯ハ米國ニ對シ各種機械ノ供給ヲ要求シ居ル處米側ハ右要求ニ應スルコトヲ澁リ居レリ米自體戰爭遂行ノ爲大量ノ機械ヲ必要トシ他ニ遣ル餘裕ナキノミナラス若シ蘇聯カ大攻勢ノ約ヲ果スニ於テハ今年末頃迄ニハ歐洲戰爭終了スヘク蘇聯カ現在註文シ引渡シヲ受クル機械ハ今

次戰爭ニ間ニ合ハサルヘシトノ見解モアリ蘇聯カ現在ノ對獨戰ニ必要ナリトスル機械ハ將來ニ於ケル蘇聯ノ戦力或ハ一般工業力ノ強化ニ役立ツ結果トナルヘク米側ハ素ヨリ右ノ如キ結果ヲ齎スコトヲ喜ハス從テ蘇聯ニ對スル機械供給ニハ相當ノ難色アルモノト思料セラル

蘇聯ハ其ノ他政治的要求ヲモ提出シ居レリ其ノ内容ハ蘇聯ノ凡ユル占領地域殊ニ隣接國ニ於ケル「フリーハンド」即チ波蘭ニ於ケル「ルブリン」政府「ウクライナ」共和國ノ「カルパチヤ」ニ對スル要求蘇聯ノ北歐政策（北歐ニ於ケル蘇聯ノ壓倒的勢力ノ承認）蘇聯ノ洪牙利羅馬尼及勃牙利ニ於ケル絶對的勢力ノ承認希臘「ユーゴ」伊太利佛國西班牙ニ於ケル英國ノ反動政策ノ牽制之ナリ米カ右蘇聯ノ要求ヲ容ルルコトハ歐洲ニ於ケル英國ノ勢力ヲ一掃シ歐洲ヲ蘇聯ニ引渡スコトニ他ナラス蘇聯ハ右要求ヲ帝國主義ノ形式ニ於テ提出スルコトナク各國國民ノ意思トシテ英國ノ反動政策ハ常ニ此ノ國民ノ意思ヲ無視セントシ居ルモ之ヲ満足セシムルコトカ蘇聯ノ政策ナリト稱シ居レリ要スルニ蘇聯ノ目的トスル所ハ英米ヲ反目セシメ之ニ依リ英ヲ孤立化シ政治的ニ無力ナラシメ惹テ

ハ英國内ニ危機ヲ惹起シ英ヲ左傾セシメントスルニアリ米國首腦部ハ右蘇聯ノ意圖ヲ知悉シ居ルモ蘇聯ノ攻勢ヲ必要トスルヲ以テ或ル程度迄蘇聯ノ要求ニ應セントシ居レリ米國ノ現在ニ於ケル對歐洲政策ハ歐洲戰爭ノ急速ナル終結ヲ第一義トシ政治的經濟問題ハ第二義トシ取扱ヒ總テヲ此ノ第一ノ目的ニ集中ス勿論右ハ「ルーズベルト」一派ノ考方ニシテ之ニ對シテハ强硬ナル反對アリ此ノ反對派アル爲米政府ハ蘇聯ノ對獨攻勢ニ對スル要求ヲ出來得ル限り值切ル必要アリ米ノ興味ハ蘇聯カ米ノ物資供給ナクシテハ戰爭續行不可能ナル點ニアリ茲ニ米蘇交渉ノ餘地アリ

ニ對日措置

米國ハ日本ヲ徹底的ニ叩ク爲ニハ蘇聯ノ援助ヲ要スルコト勿論ニシテ米國カ右援助（漠然タル原則的約束ニ非スシテ實際的援助）ヲ獲得セハ「ルーズベルト」ハ總ユル反對ヲ封スル切札ヲ有スルコトナルモ蘇聯ハ兩面作戰ノ困難新シキ戰爭ニ對スル國民ノ反動ヲ惧レテ右援助ヲ與フルコトヲ好マサル模様ナリ蘇聯カ日本ニ對シテ最モ思ヒ切レル措置ハ外交關係ノ斷絶ナル處例ヘハ南樺太占

領ノ如キ反日的「ヂエスチャ」ヲ取ルコトモアリ得ヘシ
(日本カ右ニ依リ戦争ヲ行フコトナカルヘク恐ラク外交
關係ノ斷絶スヲ行ハサルヘシトノ豫測ニ基クコト勿論ナ
リ)蘇聯ハ右ニ依リ犯ス危險比較的尠キニ對シ米ヨリ得
ル所大ナルヘシ蘇聯ハ右ト同時ニ極東ニ於ケル勢力伸張
ノ基礎即チ第一ニ支那ニ於ケル共產黨勢力ノ擴大ヲ圖リ
歐洲戰爭終了後右共產黨ノ勢力ヲ足場トシテ亞細亞ニ於
ケル本來ノ計畫ヲ遂行セントシ居ルモノノ如シ
獨ヘ轉電セリ

~~~~~

997

昭和20年2月23日 在スウェーデン岡本公使より  
重光外務大臣宛(電報)

ソ連の中立条約廃棄及び対日参戦の可能性に  
関する情報について

付記 昭和二十年二月十一日調印

「ヤルタ」協定

ストックホルム 2月23日 発  
本 省 2月26日 前11時10分着

第二二六號

諜報者報告(二十日)左ノ通り

「三國會談ニ於テ蘇聯對日戰參加問題カ取上ケラレタルヤ  
否ヤ之ニ對スル蘇聯ノ態度如何ハ專ラ注目セラレ居ル處  
公表書ニ於テ聯合諸國ノ會議ヲ日蘇中立條約廢棄通告期  
ニ相前後スル四月二十五日ニ特ニ桑港ヲ選ヒテ開催スル  
コトヲ發表セル爲蘇聯ハ中立條約ノ廢棄通告ヲ行フヘク  
同會議ニ於テ蘇聯ヲ含ム諸國ハ日本ヲ共同ノ敵ト宣言ス  
ヘシト爲シ蘇聯ハ今回ノ會議ニ於テ非公式ニ英米ニ對シ  
何等カノ約束ヲ爲セルニ非サヤト推測スル者アリ  
其ノ言フ所ハ英米カ兵力ヲ太平洋ニ集結スルヲ得ハ蘇聯  
ノ援助ヲ俟タスシテ日本ヲ打倒シ得ヘキモ問題ハ之ニ要  
スル時日ニシテ歐洲戰爭終結後兵力ヲ極東ニ移動スルニ  
ハ相當ノ時日ヲ要シ而モ日本ヲ眞ニ擊破スルコトハ容易  
ナラサルヘシ  
加之時ノ經過ト共ニ英米國內ニ於ケル困難モ累加スヘク  
英米ノミカ引續キ對日戰ニ全力ヲ注ク時ハ其ノ間歐洲ニ  
於ケル情勢ハ食糧問題其ノ他ニ於テ益々惡化シ共產黨進  
出ノ危險増大スヘシ從テ英米トシテハ蘇聯ノ極東ニ於ケ  
ル發言權ヲ與フル危險ヲ冒ストモ對日戰ニ蘇聯ヲ参加セ

シメ之ヲ急速ニ終結セシムルコト絶對ニ必要ナリ他方蘇聯トシテモ日本ノ勢力ヲ弱ムルコトハ素ヨリ利益ニシテ蘇聯ノ參加ヲ見スシテ米國カ日本ヲ破ル場合米ハ支那大陸ニ進出シ足場ヲ確保スルニ至ルヘキモ蘇聯ハ之ニ對應シテ大陸ニ有利ナル足場ヲ確保スルヲ得サルヘキニ對シ對日戰ニ參加セハ滿洲朝鮮等ニ有利ナル態勢ヲ作り米ノ大陸進出ニ對抗スルコトヲ得ヘシト云フニアルカ如シ

ニ、右蘇聯ノ對日參戰說ハ主トシテ米國人方面ヨリ傳ヘラレ居ルモ英米人中ニハ之ト全然反對ニ不參戰說ヲ傳フル者無キニ非ス自分(諜報者)ハ種々ノ情報ヲ綜合シテ蘇聯ノ對日態度ハ左ノ如クナルヘシト觀居レリ

聯合國會議ノ期日及場所ニ大ナル意義ヲ求メントスルハ誤リナルヘク右會議ハ主トシテ「ダンバートンオークス」會議ノ延長ニシテ對日戰ノ爲特ニ利用サルモノトモ考ヘラレス又蘇聯カ右會議ニ於テ對日共同宣言ニ參加スヘシトモ考ヘラレス

從來蘇聯ハ英米ノ利益ト希望トニ依リ動カサレス常ニ獨自ノ政策ヲ維持シ飽迄自己ノ利益ヲ追求シ來レリ假令英米カ戰後ニ於ケル經濟的援助停止等ノ壓迫手段ヲ用ヒテ

對日戰參加ヲ強要スルトモ自己ノ利益ニ合致セサル限り其ノ要求ニ應スルコト無カルヘシ

元來蘇聯ハ自國及外國ノ一般民衆ニ侵略者ト見ラルルコトヲ極力避ケ常ニ非侵略者ノ外貌ヲ調ヘルコトニ苦心シ來レルカ(第一次蘇芬戰爭ニ於テモ蘇聯ハ自國民ニ對シ恰モ非侵略者タルノ印象ヲ與ヘタリ唯「ポーランド」進駐「ベツサラビア」「ブコヴィナ」ノ占領ハ蘇聯ノ侵略行爲ト解スルコトヲ得ヘキモ此ノ場合ニ於テモ來ルヘキ對獨戰ニ備ヘル重要ナル戰略要點ヲ確保スル措置即チ之等地方民衆ノ利益ノ爲ニ行ハルル解放運動ナリトノ印象ヲ與フルコトヲ得タリ)現狀ニ於テハ蘇聯カ日蘇中立條約ヲ廢棄スルニ於テハ侵略ノ準備ト解セラルルハ當然ニシテ右廢棄ノ後現實ニ日蘇開戰トモナラハ蘇聯ハ自國及日本ノ民衆ヨリ英米ノ帝國主義ヲ援助シ自己ノ帝國主義的計畫ヲ遂行スル侵略者ト觀ラルル事明カナルヲ以テ蘇聯ハ條約廢棄ヲ行ハス之ヲ延長シテ日本ノ歡心ヲ買フト共ニ兩面作戰(歐洲戰爭カ四月中ニ終結スルモノトハ考ヘラレス從テ條約ヲ廢棄シ日本ニ挑戰セハ兩面作戰ノ可能性アリ)ヲ避クルニ非スヤト思考セラル

尙中立條約ノ存在ハ必スシモ蘇聯ノ對日参戰ヲ不可能ニ  
スルモノニ非ス歐洲戰爭終結ノ際日蘇中立條約アルトモ  
蘇聯ハ必要ト見レハ何時ニテモ適當ノ口實(國境紛爭  
「ファツシヨ」的日本政府ノ侵略行爲)ノ下ニ對日戰ニ參  
加シ得ヘク其ノ場合ニ於テ中立條約ノ延期ニ依リ蘇聯ハ  
平和ヲ希求セルモ日本ノ侵略行爲ノ爲遂ニ干戈ヲ交フル  
ニ至リタリトノ外觀ヲ繕フコト容易ナルヘシ逆説的ナル  
モ蘇聯カ中立條約ヲ廢棄セサル場合コソ却テ對日参戰ノ  
可能性大ナリト言フヘク之ヲ廢棄スル場合モ右ハ英米ニ  
對スル一ツノ「ゼスチアー」タルニ止リ参戰ニ迄ニ到ラ  
サル可能性大ナリ

右蘇聯ノ態度ハ倫敦ニ於ケル萬國勞働組合大會ニ於ケル  
蘇聯代表ノ態度ニ現ハサレタリ即チ同大會ニ於テ日本ノ  
無條件降伏ニ至ル迄從來同様ノ力ヲ以テ對日戰ヲ繼續ス  
ヘシトノ決議ヲ爲サントセルニ對シ蘇聯代表ハ右ハ日蘇  
中立條約ニ違反ストノ理由ノ下ニ之ニ反對シ現ニ日本ト  
戰爭關係ニアル諸國ハ日本ノ無條件降伏ニ至ル迄對日戰  
爭ヲ繼續スヘシトノ修正案ヲ提出シ大會ノ採用スル所ト  
ナレルカ右ハ恰モ「クリミヤ」會談ノ後ニテ英米方面ヨ

リ蘇聯ノ對日参戰說傳ヘラレ居ル際ナルヲ以テ特ニ注目  
ニ値スヘシ

三、米蘇間ノ新武器貸與協定中ニハ歐洲戰爭終結後ハ蘇聯ノ  
對日参戰ヲ條件トシテ武器供給ヲ繼續スヘシトノ條項アリ  
蘇聯ハ之ヲ承認セリト傳フルモノモアル處想フニ米カ  
蘇聯ニ對シ經濟的援助ノ對價トシテ飽迄對日戰參加ヲ要  
求スルヤ否ヤハ一ニ太平洋戰局ノ推移如何ニ懸ル鑑ミ即  
チ比較的急速ニ對日戰終熄ノ見込アルニ於テハ蘇聯ヲ之  
ニ參加セシメ其ノ極東ニ於ケル發言權ヲ更ニ強ムルコト  
ハ却テ不得策ナルヲ以テ米トシテハ蘇聯ノ援助ヲ俟タス  
シテ對日戰ノ遂行ニ努ムヘク若シ戰局カ長期戰態勢不可  
避トアラハ米ハ極力蘇聯ノ参戰ヲ要求シ蘇聯ハ其ノ際米  
ノ窮狀ヲ救フ代償トシテ大ナル要求ヲ爲シ得ヘキヲ以テ  
最後ノ瞬間ニ於テ参戰スル可能性アリ而シテ歐洲戰爭繼  
續スル限り蘇聯カ其ノ力ノ一部ヲ割キ對獨戰ノ手ヲ緩メ  
ルコトナラハ米ハ歐洲戰場ノ兵力ヲ増強スル必要アリ  
寧ろ蘇聯カ對獨戰ニ全力ヲ傾倒スルコトヲ可トスヘキヲ  
以テ歐洲戰爭終結ノ時期如何モ亦蘇聯ニ對スル對日参戰  
要求ニ際シ考慮スヘキ問題ナルハ勿論ナリ孰レニセヨ右

新協定ハ六月頃調印サルル筈ナルヲ以テ右ニ到ル迄ノ歐洲戦局及太平洋戦争ノ推移ニ依リ其ノ内容ノ變更ヲ見ルニ非サヤト思考セラル

## (付記)

### 「ヤルタ」協定(假譯)

三大國即チ「ソヴィエト」聯邦、「アメリカ」合衆國及英國ノ指導者ハ「ドイツ」國ガ降伏シ且「ヨーロッパ」ニ於ケル戦争ガ終結シタル後二月又ハ三月ヲ經テ「ソヴィエト」聯邦ガ左ノ條件ニ依リ聯合國ニ與シテ日本國ニ對スル戦争ニ參加スベキコトヲ協定セリ

### 一 外蒙古(蒙古人民共和國)ノ現状ハ維持セラルベシ

二千九百四年ノ日本國ノ背信的攻撃ニ依リ侵害セラレタル「ロシア」國ノ舊權利ハ左ノ如ク回復セラルベシ

(甲)樺太ノ南部及之ニ隣接スル一切ノ島嶼ハ「ソヴィエト」

聯邦ニ返還セラルベシ

(乙)大連商港ニ於ケル「ソヴィエト」聯邦ノ優先的利益ハ

之ヲ擁護シ該港ハ國際化セラルベク又「ソヴィエト」

社會主義共和國聯邦ノ海軍基地トシテノ旅順口ノ租借

權ハ回復セラルベシ

(丙)東清鐵道及大連ニ出口ヲ供與スル南滿洲鐵道ハ中「ソ」合辦會社ノ設立ニ依リ共同ニ運營セラルベシ但シ「ソヴィエト」聯邦ノ優先的利益ハ保障セラレ又中華民國ハ滿洲ニ於ケル完全ナル主權ヲ保有スルモノトス

### 三 千島列島ハ「ソヴィエト」聯邦ニ引渡サルベシ

前記ノ外蒙古竝ニ港灣及鐵道ニ關スル協定ハ蔣介石總帥ノ同意ヲ要スルモノトス大統領ハ「スターリン」元帥ヨリノ通知ニ依リ右同意ヲ得ル爲措置ヲ執ルモノトス

三大國ノ首班ハ「ソヴィエト」聯邦ノ右要求ガ日本國ノ敗北シタル後ニ於テ確實ニ満足セシメラルベキコトヲ協定セリ

「ソヴィエト」聯邦ハ中華民國ヲ日本國ノ羈絆ヨリ解放スル目的ヲ以テ自己ノ軍隊ニ依リ之ニ援助ヲ與フル爲「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦中華民國間友好同盟條約ヲ中華民國國民政府ト締結スル用意アルコトヲ表明ス



998

昭和20年3月1日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛（電報）

中立条約延長に向けた日ソ間諸懸案への措置

振りにつき意見具申

モスクワ 3月1日後7時49分発

本省 3月2日後3時45分着

第四三三號（大至急、館長符號）

往電第四〇六號末尾ニ關シ

中立條約存續問題ニ付蘇側カ如何ナル條件ヲ持出シ來ルヘキヤ豫測困難ニテ我方トシテハ總ユル場合ヲ想像シ之ニ對スル心構ヲ爲シ置クコト肝要ナルハ申ス迄モ無ク而シテ蘇側最小限度ノ要求トシテ此ノ際日蘇間諸懸案解決ヲ申出來ルヘキコトモ豫想セラルル所ニシテ右ニ就テハ既ニ貴方御考量ヲ迎ヘ置キタリ然ルニ本件ニ關シ最近本邦竝ニ滿洲國ニ於テ執ラレタル手段ハ問題ノ解決ヲ促進セサルノミカ却テ日蘇若クハ滿蘇間關係ノ紛糾ヲ來ササル無キヤヲ思ハシメ本使モ甚シク遺憾トシ且寒心ヲ禁シ得サル所ナリ仍テ以下忌憚無キ卑見ヲ申述ヘ貴大臣ノ御考量ヲ仰ク  
一之等懸案ノ一タル在滿支蘇側財産返還問題ニ就テハ客年

八月「ジューコフ」ヨリ龜山ニ對シ蘇側要求ヲ書物トシテ申入レ且帝國政府ノ斡旋ヲ求メタルニ對シ（客年往電第一五九八號）本年貴電第一四二二號及第一八二號ノ回訓ニ接シタルニ依リ往電第二四七號申進ノ通り二月三日我方ヨリ蘇側ニ對シ同シク書物ヲ以テ回答シ其ノ中在滿財産ニ就テハ直接滿洲國側ト交渉方勸獎セリ然ルニ在滿大使發貴大臣宛電報第六三號ニ據レハ右當方ノ勸ニ從ヒ在哈爾賓蘇聯領事ヨリ同地駐在外交部特派員ニ對シ本件交渉開始ノ處同特派員ハ本件ニ關スル莫斯科交渉ハ具體的ニ承知セストシ又北支ノ蘇聯權益ハ日蘇間ノ問題ナルモ滿洲國ニ在ルモノハ滿蘇間ニ交渉スヘキモノト思フ旨述ヘタル趣記載シアリ右特派員ノ言辭ハ一讀協調的態度ヲ缺クモノアルヲ思ハシメ本使ニ於テ意外ノ感ヲ禁シ得ス交渉ノ當事者タル同特派員ノ態度右ノ如シトセハ蘇側トノ交渉圓滑ナルヲ得間敷ク危惧セラレタル處果セル哉蘇側ハ本件滿側ノ態度ヲ頗ル冷淡ニ感シタレハ斯ノ如ク非公式乍ラ二十三日「ジューコフ」ヨリ龜山ニ對シ往電第四〇四號ノ如ク申述ヘ我方ノ斡旋方依頼セリ  
元來在滿蘇聯財産處理問題カ滿蘇間直接交渉ニ依ルヘキ



儀ニ付テハ當然ノコトニシテ何人モ異議ヲ有セス唯處理ノ方針ニ關シテハ日滿間ニ充分打合セテ遂ケタル方針ニ依ルヘキモノニシテ滿洲國ノ對蘇外交方策カ滿洲國限リノ問題ニ非スシテ常ニ本邦ト協議決定シタル線ニ副フヘキモノナルコト多言ヲ要セス蓋シ滿蘇間ノ關係ハ直ニ日蘇間關係ニ影響ヲ及ホスニ於テ日滿兩國ノ對蘇外交方針ハ常ニ兩國間ノ緊密ナル協調ニ俟タサルヘカラサルヤ論無ク而シテ帝國カ今ヤ興亡浮沈ノ瀬戸際ニ臨メルニ際シ滿側カ常ニ帝國ノ方針ニ協調スルヲ要スルハ日滿特殊關係ニ鑑ミ何等疑問ノ餘地アルヘカラス現在ノ戰局ニ於テ日蘇關係カ極メテ機微ノ問題ニシテ一度之ニ蹉ツカハ直ニ帝國ノ存亡ニ影響スヘキコト何人モ論無カルヘク此ノ故ニコソ本使等ニ於テ日夜日蘇間平靜維持ニ微力ノ限リヲ捧ケ居ルモノニシテ帝國亡ヒテ滿洲國アリ得ヘカラサルコトニ想到セハ本使等ノ努力ニ對シ滿洲國側ノ理解アル協力ヲ期待スルコト決シテ不當ニアラスト確信ス然ルニ事實ハ之ニ反シ貴大臣ノ訓令ニ從ヒ前述ノ通り書物ニ迄認メ蘇側ニ提示シタル處理方法ニ對シ滿側官憲ニ於テ冷淡ナル態度ヲ示シ蘇側ヲシテ失望セシムルニ至リタル

ハ本使ノ到底了解シ得サル所ナリ本件ハ蘇側ノ個々ノ財產處理問題ニテ事其ノモノハ重要案件ニアラストセンモ永年解決未濟ノ問題ヲ此ノ際落着セシメントスルモノニシテ平時ナラハ兎モ角昨今ノ時局ニ於テ重要ナル國際問題タルコト論ナク然ルニ滿洲國側ノ態度斯クノ如クナル以上假令交渉開始セラルトスルモ圓滿迅速ノ解決ヲ見ルコト殆ント期待シ難キヲ惧ル若シ今回ノ滿側態度カ哈爾賓當局者一個ノ態度ニシテ滿洲國政府トシテハ然ラスト言フニアレハ事態ハ絶望ニアラス本使トシテモ尙望ヲ繫キ得ル次第ナルモ萬一滿洲國政府自體哈爾賓當局ト見方ヲ一ニシ居ル様ニテハ容易ナラス問題ニテ此ノ際帝國政府ニ於テ日滿一體トシテノ對蘇外交方策樹立ニ基キ決意ヲ以テ乗出サルル様新ニ御考量ヲ煩ハササルヲ得ス斯クシテ滿洲國側ニ於テ帝國ノ對蘇方針ニ全幅ノ支持ヲ與ヘ今回ノ如キ出先交渉員ノ態度ヲ繰返ヘササル様致度右ハ本使ニ於テ絶對必要ノコトト存シ居レリ

ニ次ニ來ルヘキ問題ハ香港蘇聯船舶ノ件ニシテ之ニ關スル當方ノ事情竝ニ解決案ハ詳細往電第三一三號ヲ以テ申進シタリ本使ハ同電末段記載ノ如ク船ヲ返シ紛失機械及附



屬品等ニ對シテハ我方ニ於テ相當ノ賠償ヲ支拂フヘク或ハ萬一之等船舶カ曳航ニモ堪ヘサル狀態ニ陷レルカ若クハ戦局カ曳航ヲ許サル狀態ニアリトセハ已ムヲ得ス我方ヨリ代船ヲ提供シテ事件ヲ解決スル他ナシト考ヘ居レリ

總シテ本問題ノ如キハ我方ノ戦力強ク戦局又我ニ有利ニ展開シ居ルト言フニアレハ無理抑シモ通シ得ヘケンモ現在ノ情勢ニ陷リ中立條約ノ廢棄ニサヘ心配セサルヲ得スト言フ様ニテハ以上ノ如キ解決案ヲ決行スル他ナキ次第ナリ

何レニスルモ本使近ク「ロゾフスキー」ニ面會一月十九日會見ノ際本使ノ與ヘタル言明カ實行セラレサリシ事情ヲ説明セサルヲ得ス又同時ニ本使カ本件解決ノ責任ノ一端ヲ引受ケタル以上次善ノ解決案發見ニ乗出スヘキ旨約言セサルヲ得ス若シ此ノ事成ラスハ本使ハ食言ノ責ヲ引ク外ナキ次第豫メ御含置ヲ請フ

「ロ」ハ本件ノミナラス一ノ問題ニ關シテモ必ス多大ノ不滿ヲ申述フヘキコト想像ニ難カラス而シテ萬一本使ノ危惧スル如ク之等ノ謂ハハ第二義的案件ノ解決不能カ邪

魔トナリテ中立條約存續モ不能ニ陥リタリト知ラハ國民ハ例外ナク失望落膽ヲ禁シ得サルヘキコト當然ト存シ居レリ

三 尙實際上ハ考ヘラレサル所ナルモ蘇側カ中立條約存續ニ何等ノ條件ヲ附シ來ラサルコトモ絶無トハ申シ難ク此ノ場合一及ニ記述ノ問題ハ要ラサル心配ノ如クナルモ事實ハ然ラス蘇側カ無條件存續ニ同意スル場合ニ於テモ之等案件ハ新タニ成レル日蘇友好關係ノ裏付トシテ是非此ノ際解決ヲ要スル問題ナルコト貴方ニ於テモ御同感ト存ス

~~~~~

999

昭和20年3月22日
在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

モロトフへの会见申入れに対しソ連側謝絶に
ついて

モスクワ 3月22日後8時40分發
本省 3月23日後4時40分着

第五六五號(至急、館長符號)
往電第五六一號ニ關シ

「ベネツシユ」ハ今二十二日猶莫斯科滯在中ノ模様ナル處
實ハ本使「モロトフ」トノ會見申入ハ「ベネツシユ」出發
后ト爲スヲ適當トスベシト思ヒ居リタルモ中立條約存續問
題ニ付テハ「モ」ニ於テ本使トノ話合ヲ約束シ居レルノミ
ナラス「ロゾフスキー」モ之ヲ肯定シタルコト往電第九二
號ノ如クナルニ付今月末頃ノ會見ノ見透ヲ以テ今ヨリ申込
ムヲ可トスト考ヘ二十一日申入ヲ爲シタルニ對シ外客輻輳
ノ故ヲ以テ面會ヲ斷リ來レリ

右ハ何レモ口實ヲ設ケテ本使トノ會談ヲ回避シタルニアラ
サルヘク又回避スル必要モナキ次第ナレハ「ベネツシユ」
一行出發ノ上ハ其ノ中會見ノ機ヲ得ラルルコト考ヘ居レ
リ尤モ右ハ「モ」ニ於テ本使引見ノ用意整ヒ居ラサルカ若
クハ蘇側ニ於テ我方トノ中立問題關係ノ交渉ヲ急キ居ラサ
ル底意アリテノコトナルヤモ計リ難シ

本使ハ貴電第四二六號關係電報全部接到次第一兩日中ニ兎
ニ角「ロゾフスキー」ニ面會スヘク其ノ際中立條約問題ニ
付テハ依然「モ」トノ會見ヲ期待シ居ル旨申入ルル心組ナ
リ

二十一日朝發表ノ蘇土中立條約廢棄聲明(往電第五三三號)

ハ恰モ日蘇中立條約廢棄ノ先驅ナルヤノ感アリ事實蘇側ノ
態度ハ其ノ期ニ及ハサレハ判明シ難シ但シ假令日蘇條約カ
廢棄セラルルモ蘇土條約廢棄後ノコトトナル關係上余リ目
立タサルヘク之ニ反シ余リ苛酷ナラサル條件ニテ存續ノコ
トトナラハ此ノ度コソハ米英ニ對シ豫期セサル衝動ヲ與フ
ヘク何レニシテモ本使ハ右蘇政府ノ聲明ヲ以テ我方ニ對シ
不利ヲ來スモノニアラスト認メ居レリ



1000

昭和20年3月23日
在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

中立條約延長問題に關シモロトフとの會見希

望方再度申入れについて

モスクワ 3月23日後11時32分發

本省 3月25日後8時20分着

第五八二號

往電第五六五號ニ關シ

二十四日「ロゾフスキー」ヲ往訪ノ上中立條約問題ニ關ス
ル本使「モロトフ」トノ會見希望ニ付左記會談ヲ爲セリ
本使ヨリ本日ハ特ニ定マリタル問題ニ付會見方申出テタル

次第二ハ非サル旨斷リタル上實ハ數日前「モ」ニ面會方申込ミタル處右ハ中立條約問題ニ關聯シ「モ」カ特ニ本使ト會談ヲ約束セラレ居ルニモ鑑ミ會見シ度キ心組ミニ出テタルモノナルカ同氏ニ於テハ外國ヨリノ來客多キ爲ニ目下時間ノ余裕ナキ旨ノ回答ニ接シタリ本使トシテハ外客モ數日中ニハ出發スベク從テ來週早々ニハ會見スヘキカトノ豫想ノ下ニ右會見ヲ申込ミタル次第ナルモ外客滯莫中ナルヲ承知シツツ右申込ミヲ爲セルハ或ハ時期ヲ得サリシモノカトモ考ヘ居レリ併乍本使トシテハ來ルヘキ桑港會議ニ派遣セラルヘキ英米側代表ノ顔觸レニモ鑑ミ「モ」委員自身右會議ニ參加スルニ非サヤトモ想像セラレ斯ル場合ヲ豫想シテ曩ニ同委員ニモ申出テ置キタル通り若シ同委員自身參加スル如キ場合ハ其ノ出發前ニ一兩度會見シ得レハ幸ト考ヘ居ル次第ナリ問題カ兩國ニ取り重要ナルニ付一層左様考ヘルモノナリ此ノ點ハ貴代理ノ御含ミ迄ニ申述フルト共ニ右希望ヲ「モ」委員ニ傳達方御依頼シタシト述フ

右ニ對シ「ロ」ハ「モ」ニ於テ貴大使ト會見ノ用意アルコトハ曩ニモ貴大使ト御話シタル通りナルモ何分「モ」ハ此所忙殺サレ居リ茲數日中ハ會見覺束ナカルヘシ來ルヘキ桑

港會議ニ對スル蘇側代表ノ顔觸レハ未タ決定セサルモ何レニセヨ「モ」ニ於テ問題カ今後如何様ニ解決セラルヘキヤニ不拘貴大使ト會見スヘキコトハ勿論ナリ尙貴大使ノ御希望ハ「モ」ニ取次クヘキカ自分ニ於テモ貴大使ヨリ何等御申出アルコトナレハ承ル用意アリト云フ

依テ本使ハ以上ノ希望ヲ「モ」ニ傳達方重ネテ希望スルト共ニ中立條約問題ニ關スル日本政府ノ意嚮ハ簡單明瞭ニシテ同政府ハ本條約ノ維持ニ異存ナキノミナス之ヲ希望シ又蘇聯政府モ同様之カ維持ヲ希望セラルコトヲ期待スルモノナリ

而シテ日本政府ハ速ニ蘇聯政府ノ決定ヲ承知シ度ク希望シ居レリ此ノ希望ハ既ニ「モ」委員ニモ申入レ置キタル通りナルカ同委員ハ「クリミヤ」會談ノ爲ナランカ中立條約問題ニ付テハ夫レ迄研究ノ暇ナカリシ由ニテ更ニ之ヲ研究スヘシトノコトヲ述ヘラレタリ依テ本使ハ右研究ノ結果ヲ承リ度ク萬事ハ其ノ上ニテ御話シ度ク考フルモノナリト答ヘタル處「ロ」ハ貴大使只今ノ御話ハ「モ」ニ報告スヘシト述ヘタルヲ以テ本使モ右様希望シ置キタリ

昭和20年3月30日

在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

中立条約延長問題に対するソ連側態度及び中

立条約議定書試案の送付について

別電一

昭和二十年三月三十日発在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛第六一八号

右議定書試案

二

昭和二十年三月三十日発在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛第六一九号

右議定書試案説明書

モスクワ 3月30日後9時15分発

本省 4月1日前6時35分着

第六一七號(極秘、館長符號、至急)

中立條約ノ維持ニ關シ蘇側カ何ヲ考ヘ居ルヤ現在ノ處付度
シ難キ處我方トシテハ各種ノ場合ヲ豫想シ之ニ備フルヲ要
スル次第ニテ以下記述スル所モ右ノ準備ノ意味ニテ貴方御
參考迄ニ供セントス

一、「ポーツマス」媾和條約ハ何トシテモ露國敗戦ノ歴史的
條約ニシテ直接ノ責任者ハ過去ノ帝政露西亞ナリトハ謂

ヘ革命後ノ「ソヴィエト」露西亞ニ取リテモ露國史上汚
點ヲ留メ置クヲ潔シトセサルヘク況ヤ強敵獨逸ニ對シ殆
ント城下ノ誓サヘ強ヒ兼ネ間敷キ所迄漕付ケタル蘇聯ト
シテハ斯クノ如キ媾和條約ノ存續ハ其ノ名譽ノ上ヨリス
ルモ許シ得ストスル態度ニ出ツルコトモ想像セラレ又其
ノ場合一九二五年ノ日蘇基本條約モ右媾和條約ヲ確認シ
居ル點ニ於テ之亦存續ヲ許サスト爲スヘシ

從テ中立條約存續ノ代償トシテ或ハ蘇側ヨリ媾和條約及
基本條約ノ廢止ヲ要求シ來ルコトアリ得ヘシ之ニ對シ帝
國トシテ諸般ノ影響ニ鑑ミ輕々ニ裁斷シ得サルハ客年往
電第二四一八號、四ノイ^(イ)申進ノ通りナルモ尙深ク本問題
ノ研究ヲ進ムルニ從ヒ我方ノ切端詰リタル場合ノ對案ト
シテ一案ヲ考ヘ得サルニアラス惟フニ東亞ノ事情激變ノ
今日結局ハ日蘇勢力不均衡ヲ容認セサルヲ得サル情勢ニ
立至レル以上何時迄モ媾和條約ノ餘威ヲ保チ得ヘシト考
ヘラレス依テ蘇側ニシテ之ヲ熱望スルニ於テハ中立條約
ト引換ニ此ノ際之等兩條約ヲ廢止スルコト考慮ノ余地ア
リト存ス

尤モ右廢棄ノ場合ニ於テモ兩條約ノ條項中既ニ永久的解

決ヲ見タルモノ例ヘハ南樺太割讓南滿鐵道讓渡其ノ他之ニ類スルモノニ付テハ既ニ解決濟ノ問題トシテ右條約廢止カ何等之ニ影響ヲ及ホササルモノトス

二、而シテ我方トシテハ蘇側カ中立條約存續ニ種々條件ヲ附シ來リ帝國政府ニ於テ之カ受諾ヲ余儀ナクセラルル場合ニ於テハ帝國トシテハ此ノ讓歩ヨリ能フ限リノモノナルヲ獲得スルニ努ムヘキハ勿論ニシテ蘇側ノ提出スル條件如何ニ依リテハ不可侵條約締結ノ如キヲ持出スコトモ考ヘラレサルニアラサルモ現下ノ狀態ニ於テハ右ハ殆ント問題ニナラサルヘシ唯之トテ甚タ困難ナルヘキモ絶望ト言フ程ニハアラサル様存セラルルハ蘇側ノ條約廢棄ノ意思^{〇〇}表示ニ依ル機械的延長ニ一步ヲ進メ蘇側ヲシテ中立條約ヲ再確認セシムルコトナリ然シテ其ノ際有効期間ヲ十六年或ハ二十六年トナシ得レハ結構ナルモ之亦殆ント望ナカルヘク最大限本年五月ヨリ六ヶ年ノ期間ト爲シ得レハ最上ナルヘシ

三、以上ノ如キ構想ノ下ニ得タル當方試案トシテ別電第六一八號及第六一九號ノ同案説明書不取敢貴覽ニ供スヘキカ構想ノ點ニ於テモ將又議定書案文トシテモ未タ充分推敲

ヲ經タルモノニアラサルモ貴方御研究ノ一助トモ相成ラハ幸ナリ右ニ對シ何等御意見承知スルヲ得ハ幸甚ニ存ス
本電守島公使ニモ披見セシメラレタシ

(別電一)

モスクワ 3月30日後9時14分發
本省 4月1日前6時10分着

第六一八號(至急、館長符號)

議定書案(別電第一號)

第一條、千九百五年九月五日署名セラレタル日本國露國間媾和條約竝ニ其ノ附屬文書及千九百二十五年一月二十日署名セラレタル日本國「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約竝ニ其ノ附屬文書ハ本議定書實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス尤モ前記一條約ノ條項ニシテ既ニ實施セラレ永久的狀態ノ設定セラレタルモノニ付テハ本條ノ規定ハ右狀態ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナカルヘシ

千九百四十一年四月十三日署名セラレタル中立條約及聲明書ハ本議定書實施ノ日ヨリ〇年ノ期間效力ヲ有スヘシ

(別電二)

モスクワ 3月30日後9時14分發

本省 4月1日前8時30分着

第六一九號(至急、館長符號)

(別電第二號)

議定書案説明書

一、媾和條約及基本條約ハ其ノ各條項ニ付檢討ヲ加フル時ハ重要條項ハ既ニ解決済ノモノ多ク殘存スルモノハ比較的
重要性ヲ有セスト言ヒ得ヘク從テ蘇側カ右ニ條約ノ廢止
ヲ要求シ來リタル場合假令之ニ應シタリトスルモ歴史的
感情の事由ヲ措キテ考フレハ我方トシテ失フ所左シテ大
ナル次第ニハアラス尤モ漁業權ハ問題ナルモ之トテ假令
媾和條約中ノ本件關係條項ノ效力ノ喪失ヲ認メタリトス
ルモ客年議定書ニ依リ尙四年間有效ナルヲ以テ差當リ漁
業權ニハ影響ヲ受クル次第ニアラス

二、本案第一條ハ敍上ノ趣旨ニ依リ其ノ後段ニ於テ前述ノ解
決済ニシテ永久的狀態ノ設定セラレタルモノ即チ南樺太
其ノ他ハ別トスル趣旨ヲ明カニシタル上他ノ今日猶拘束

力ヲ有スル條項ヲ廢止スル意味ヲ闡明シタルモノナリ但
シ蘇側ニ於テ南樺太問題ノ如キ既定問題ヲ條約廢止ト同
時ニ解決方固執スルニ於テハ右後段ハ削除又ハ修正スル
コトトナルヘシ

三、要スルニ領土問題其ノ他媾和條約等ニ於テ解決済ノ諸問
題ノ論議ハ蘇側ニ於テ期待スル場合ニ於テモ早急ニ行フ
コトハ不適當ナルニ依リ可成第二條第二項ニ規定スル商
議中ニ於テ右議定書締結后折衝セラルヘキモノナリトノ
建前ヲ執ラントスルモノナリ而シテ右商議中ニハ我方ト
シテモ種々提案シ得ルノ含ミヲ存セントシタルモノナリ



1002

昭和20年4月5日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

モロトフより日ソ中立條約廢棄の通告について

モスクワ 4月5日後5時45分發
本省 4月6日前10時25分着

第六七五號(緊急、館長符號)

往電第六七四號ニ關シ

五日午後三時「モロトフ」ニ面會ノ處「モ」ハ中立條約ニ

關シ「ソヴィエト」政府ノ態度ヲ表明スヘシトテ覺書ニ認
タメタル聲明ヲ讀上ゲタリ其ノ要旨ハ中立條約締結當時ハ
未タ蘇獨戰爭竝ニ日本ノ對米戰爭開始前ノコトナリシ處其
ノ後情勢ニ根本的變化ヲ來シ獨蘇戰開始セラレ日本ハ又獨
ノ同盟國トシテ同國ノ對蘇戰ヲ幫助セルノミナラス日本ハ
蘇聯ノ同盟國タル米英ト戰ヒツツアリ斯ノ如キ情勢ノ下ニ
於テ中立條約ハ其ノ意義ヲ失ヒ其ノ存續不可能トナレリ依
テ「ソヴィエト」政府ハ同條約第三條ニ依リ茲ニ日本政府
ニ對シ同條約廢棄ノ意思ヲ通知スト云フニアリ

右ニ對シ本使ハ蘇聯政府ノ決定ヲ遺憾トスル旨ヲ述ヘ右覺
書ハ貴委員ノ説明ト共ニ帝國政府ヘ傳達スヘク何等政府ヨ
リ回答ニ接シ次第再ビ貴委員ニ面會傳達スヘシト述ヘ置キ
タリ

尙「モ」ハ其ノ説明中蘇側ニ於テモ條約ハ猶一年間效力ヲ
有スルモノト思考シ居ル旨ヲ述ヘタリ委細追電ス

~~~~~

1003

昭和20年4月5日

在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日ソ中立條約廢棄通告に際してのモロトフと

## の応酬振りについて

別電

昭和二十年四月五日発在ソ連邦佐藤大使より

重光外務大臣宛第六七七号

日ソ中立條約廢棄に関する声明書

モスクワ 4月5日後10時45分発

本 省 4月6日後6時35分着

第六七六號(緊急、館長符號)

往電第六七五號ニ關シ

求メニ依リ四月五日午後三時本使「モロトフ」ヲ往訪左ノ

如キ應答ヲ交ヘタリ

「モ」、本日貴大使ノ御出ヲ願ヒタルハ中立條約ニ關スル蘇

聯政府ノ聲明ヲ御傳ヘセンカ爲ナリ同條約ニ付テハ裏ニ

貴大使ヨリモ御話ノ次第アリタリ(茲ニテ別電第六七七

號ノ露西亞文聲明ヲ讀上ケ且本使ニ手交セリ)

佐藤、本使トシテハ貴委員ノ聲明ヲ本國政府ニ傳フルノミ

ナルカ追加的ニ二、三御説明ヲ得度シ蘇聯政府ハ本年四

月二十五日以後ノ期間即チ其ノ以後條約ノ期限滿了ニ達

スル迄ノ期間ニ對シ如何ニ考ヘ居ラルルカヲ御尋ネシタ

シ條約ハ五年ノ期間ヲ有シ明年四月二十五日ヲ以テ期間

滿了スヘク從テ猶一年間條約ハ有效ナルヘキ次第ナリ日本政府ハ此ノ期間ニ對シテモ本日迄日蘇間ニ維持セラレタル關係ヲ持續セラレンコトヲ期待ス即チ本條約ノ有效期間蘇側ニ於テ今日迄ノ態度維持ヲ期待セントス

「モ」、蘇聯政府ノ態度ハ條約ノ規定ニ適合ス條約第三條ニハ條約廢棄ノ手續ト權利ヲ規定シアリ今後ハ事實上中立條約締結前ノ狀態ニ歸ル次第ナリ

佐藤、中立條約前ノ態度ト言ハルルヤ

「モ」、元ノ狀態ニ歸ル次第ナリ右ハ第三條ノ規定ニ依リ豫見セラルル所ナリ

佐藤、貴委員ノ御説明ノ如クハ帝國政府ト蘇聯政府トノ解釋ニハ互ニ相違アルカ如ク感セラルル日本政府ハ締約國ノ一方又ハ双方ニ於テ期限滿了一年前ニ條約廢棄ノ權利ヲ有スルモ右廢棄ニ拘ラス猶一年間條約ハ效力ヲ有スルモノト解釋シ居レリ然ルニ貴委員ノ言ニ依レハ日蘇兩國政府ノ關係ハ廢棄ト共ニ元ノ狀態ニ立返ルモノノ如ク解セラル

「モ」、夫レハ誤解ナリ唯今差上ケタル書物ノ最後ノ項ヲ見ラレタシ即チ五年ノ期間滿了ノトキニ於テ元ノ狀態ニ返

ル次第ナリ其ノ五年間ノ期間滿了ハ一年後ノコトナルコト本項ニ依リ明カナリ

佐藤、果シテ然リトセハ日本政府モ同様ニ考ヘ居ル譯ナリ

「モ」、今迄ニ四ケ年ヲ經過シタリ猶一年殘存シ五年後ニ元ノ狀態ニ立返ヘル意ナリ

佐藤、貴委員ノ御説明ヲ謝ス尙以上ノ質問ノ外ニ本使個人トシテ感ズル所ヲ述ヘタシ本使ハ條約廢棄ニ關スル蘇聯政府ノ聲明ヲ甚タ遺憾トスルモノナリ然シ日本政府ハ蘇聯政府ニ於テモ條約廢棄通告後ノ期間ニ對シテモ日蘇關係ヲ今日迄ノ如ク維持セラレ且更新（ルヌーブレ）セラレンコトヲ希望スルモノナリ兩國政府ハ其ノ賢明ナル政策ニ依リ中立條約ヲ維持シ全世界ガ戰火ニ包マレ居ルニ拘ラス今日迄極東ニ於ケル平和ヲ維持シ得タリ而シテ平和ハ世界ノ何レノ部分ニ於テモ猶施ス餘地アル場所ニ於テ之ヲ維持スヘク努力スルヲ要スヘシ日本政府ハ蘇聯政府ノ條約廢棄後ト雖モ極東ノ平和ハ之迄ノ如ク變化ナキモノト期待セントス日本政府ハ此ノ點ヲ明カニスルコトヲ重要視スルモノナリ

「モ」、蘇聯政府ノ聲明ハ完全ニ條約ノ規定ニ即シ居レリ條



約締結當時ニハ蘇聯ハ未タ獨逸ト戦争シ居ラス日本ノ對英米戦争モ未タ始ラス其ノ後ニ至リ日本ハ蘇聯ノ同盟國タル英米ト開戦セリ條約廢棄ノ措置ニ出タル蘇聯政府ノ動機〔モティフ〕ハ其ノ聲明中ニ明カナリ蘇聯トシテハ中立條約ノ權利ヲ行使シタルニ過キス然シ貴大使モ唯今強調セラレタル如ク條約ノ期間ハ今猶終了シタル次第ニアラス蘇聯政府ノ態度ハ右ニ依リ律セラルヘシ夫レ以後ノ將來ノコトニ付テハ現下ノ國際關係甚タ複雑ニシテ右ハ極東ニ於テモ亦西歐ニ於テモ同様ナル處勿論將來ノコトニ付御話シ得ヘシ日本政府ノ意見ヲ拜承スルコトトスヘシ

佐藤、貴委員ノ御返事ヲ多謝ス貴委員ノ述ヘラレタル追加的説明モ併セテ本國政府ニ傳達スヘク之ニ對シ本國政府ハ多分其ノ見解ヲ蘇聯政府ニ傳達方本使ニ委任スヘシト思考セララルニ依リ其ノ上ニテ再ヒ御話スルコトト致度將來ノコトニ付テハ極東ノコトニ付テハ極東ノ情勢カ西歐ノ夫レト共ニ複雑ナルコト貴委員ノ言ノ如クナルモ平和維持ノ重要ナルハ蘇聯政府ニ於テモ御同感ナルヘシト期待ス貴委員ノ條約廢棄通告ハ直ニ之ヲ東京ニ傳ヘ回訓

ヲ得テ再ヒ參上スヘシ(右ニテ會見ヲ終リ辭去ス所要時間二十分)

(別電)

モスクワ 4月5日後10時45分發  
本 省 4月6日後6時38分着

第六七七號(緊急、館長符號)

「ソヴィエト」聯邦及日本國間中立條約ハ一九四一年四月十三日即チ獨逸ノ蘇聯攻撃前竝ニ一方日本他方英國及米國間ノ戦争勃發前ニ締結セラレタリ

當時以來情勢ハ根本的ニ變化セリ獨逸ハ蘇聯ヲ攻撃シ獨逸ノ同盟國タル日本ハ蘇聯ニ對スル獨逸ノ戦争ニ於テ後者ヲ援助シツツアリ右ノ外日本ハ「ソヴィエト」聯邦ノ同盟國タル米國及英國ト戦ヒツツアリ斯クノ如キ狀態ニ於テ日本國及蘇聯邦間中立條約ハ意義ヲ失ヘリ而シテ本條約ノ延長ハ不可能トナレリ

以上述ヘタル所ニ基キ且條約ノ五年ノ有効期間ノ滿了ノ一年前ニ條約廢棄ヲ通告スル權利ヲ規定セル前記條約第三條ニ從ヒ「ソヴィエト」政府ハ一九四一年四月十三日附條約

ヲ廢棄スル自己ノ希望ヲ本書ヲ以テ茲ニ日本政府ニ聲明ス  
一九四五年四月五日

1004

昭和20年4月6日  
在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

日ソ中立条約廢棄通告後の対ソ方針に關しソ  
連側態度突止めを重視すべきとの見解について

モスクワ 4月6日後2時59分發  
本省 4月7日後10時35分着

第六八三號(緊急、館長符號)

往電第六七七號ニ關シ

蘇聯ノ對日聲明中「獨逸ノ同盟國タル日本ハ獨國ノ對蘇戰  
ニ於テ獨國ヲ援助シツツアリ」トノ一句ハ實ハ「モロトフ」  
カ右聲明ヲ讀上ケタル際本使ハ之ヲ聞洩ラシ後刻原文ヲ再  
讀シテ氣付キタル所ナルカ其ノ爲「モ」トノ會談中ニハ本  
使ヨリ之ニ言及スル所ナカリシ次第ナリ本件ハ後ニ至リ之  
ヲ熟考スルニ日本ガ蘇聯ト戰ヒ居ル獨國ヲ援助シツツアリ  
ヤ否ヤハ結局水掛論ニ終ル問題ニシテ又蘇聯モ米英ニ物資  
ヲ提供シ居ルニアラスヤトスル我方ノ反論(客年往電第一

二九七號)ハ斯ノ如キ理窟モ出ツル故中立條約ノ維持ハ不  
可能トナレリトテ却テ蘇聯ニ反駁ノ餘地ヲ與フル結果ニ終  
リタルヘク結局此ノ點ニ付詮議スル丈我方ハ一段不利ニ陷  
リタルヘシト察セラレ寧ロ本使ノ努力ノ重點ヲ今後一年間  
ニ對スル蘇側ノ態度突止めニ注キタル方結果ニ於テ有利ナ  
リシコトト信シ居レリ爲念

1005

昭和20年4月6日  
在ソ連邦佐藤大使より  
重光外務大臣宛(電報)

ソ連による中立条約廢棄通告の背景について

モスクワ 4月6日後7時40分發  
本省 4月8日前9時00分着

第六八六號(緊急、館長符號)

本使觀察左ノ如シ御參考ニ供ス

「五日午後三時本使ニ手交シタル通告ヲ同夜直ニ「ラヂオ」  
ヲ以テ放送シタル蘇側遺口ハ是迄ノ我方ニ對スル蘇側ノ  
態度トシテハ頗ル無遠慮ニシテ普通ナラハ少クトモ本使  
ノ電報カ東京ニ到着スル迄ノ餘裕ヲ與フヘカリシモノノ  
如ク考ヘラル

二、蘇聯政府カ今回條約廢棄ノ態度ニ出テタル動機トシテ二

三ノモノヲ推測スレハ

(イ)波蘭問題、表決權問題、羅馬尼其ノ他「バルカン」問題等ニ關シ蘇カ米英ト幾多ノ點ニ於テ衝突シ居ルコト爭フヘカラス仍テ之ヲ緩和スル意味ニ於テ米英ノ意ヲ迎ヘンカ爲廢棄通告ヲ爲シタリトスルコト

(ロ)中立條約ヲ廢棄スルモ蘇聯ニ取リテハ日本ヨリノ攻撃ヲ恐ルル要無キニ至リタルコト從テ比較的安キ代償ヲ以テ米英ニ恩ヲ賣ルヲ得ルコト

(ハ)客觀的ニ見テ蘇聯ノ廢棄通告ハ一應筋途通りタル云分ト爲シ得サルニアラス條約締結當時豫見セサリシ獨蘇間及日米英間戰爭勃發ニ依リ事態根本的ニ變化シタルカ故ニ條約規定ノ手續ニ依リ廢棄スト云フニ在リテ何人モ首肯シ得ル理由ヲ掲ケ之ヲ以テ蘇側ニ取リテハ殆ント不必要トナリタル條約ヲ廢棄シテ外面ハ如何ニモ筋ノ通りタル態度ニ出テ且之ニ依リ聯合側ニ貢獻シタル如キ体裁ヲ整ヘ(日本カ獨蘇戰ニ對シ獨ヲ援助ス云々ノ文句モ此ノ意味合ヨリ蘇側ノ眞意ヲ捕捉シ得ルカ如シ)苟クモ聯合國ノ敵側ニ加擔スル者ニ對シテハ峻嚴

ナル態度ヲ以テ臨ミ其ノ反對ニ與國ニ對シテモ表決權若クハ波蘭問題等主張スヘキ分ハ遠慮ナク主張スル態度ニ出テントシタルコト

(ニ)今ノ中ニ條約ヲ廢棄シ置キテ蘇聯ノ聯合側陣營ニ於ケル地位ヲ明確ナラシメ將來極東戰局ノ變化ニ應シ機宜ノ措置ヲ執ル捨石ト爲シタルコト

等ノ理由ヲ擧ケ得ヘシ

三、蘇聯ノ今回ノ措置ハ米英ニ依リ最初ノ間ハ好感ヲ以テ迎ヘラルヘキハ明白ナルモ中立條約ノ破棄カ米英蘇三國間ノ紛爭ノ總テモ解決スルモノニアラサルハ論ナク彼等ノ間ノ對立感情カ根本的ニ解消セラレサル限り幾何ナラスシテ再ヒ紛擾ヲ生スヘク他方蘇聯カ中立條約ヲ廢棄シテ直ニ對日戰ニ加擔スル決意ヲ有スルニアラサル限り單ナル條約廢棄ハ一ノ「デエスチュア」タルニ止リ米英側ニ對シ別段實果ヲ伴フ貢獻トハナリ得サル譯ニテ斯ノ如キ實益ヲ伴ハサル代償ヲ以テ歐洲問題ニ關シ強キ主張ヲ突付ケラルルニ於テハ米英側ト雖モ迷惑ヲ感セサルヲ得マシク或ハ現在ノ兩國ノ満足ハ遠カラス失望ニ變リ殊ニ三國間ノ摩擦ヲ増大スル結果ヲ生セストモ限ラサルヘシ而

シテ蘇側カ廢棄通告ト共ニ對日斷交若クハ宣戰ニ迄突進スル決意ナキハ往電第六七六號ノ會談ニ依リテモ略々窺ハルル所ニシテ右會談ニ於ケル本使ノ努力ハ廢棄通告後ノ蘇側ノ態度突止ニアリタルハ勿論ノコトナリ

尤モ日本ノ獨逸援助云々ノ一句ハ不愉快ナル文句ニテ本件ハ過去ニ於テ「モロトフ」トノ間ニ僅ニ一回話題ニ上リ彼ヨリ間接ノ非難ヲ受ケタルコトアリ(客年往電第一二九七號參照)タルニ止リ斯ノ如キ實證ヲ擧ゲ得サル問題ヲ捉ヘテ延テ言懸ト爲シ來リタルハ何等底意アリテノコトナルヤモ知レス右ノ援助云々ハ實證ヲ擧ゲ得サルヘキモ如何様ニモ執リ成シ得ル問題ニ付或ハ之ヲ理由トシテ對日斷交又ハ參戰迄發展セシムルヤモ計リ難シ但シ本使ノ今次會見ヨリ得タル印象ニ依レハ蘇側ニハ其處迄ノ決意モナク又必要ニモ迫ラレアラスシテ寧ロ前記(同)ニ述ヘタル如キ理由ニ基クモノト觀察シ居レリ

四、唯萬一本件廢棄カ「ヤルタ」會談ノ際既ニ主義上決定シ居リタルモノトスレハ問題ハ爾ク簡單ニアラスシテ今後重大ナル發展ヲ見セ得ル可能性モ之ヨリ生スヘク不幸ニシテ此ノ想像ガ眞ナラハ以上記述セル本使ノ觀察ハ根底

ヨリ覆ヘル次第ナルモ「ヤルタ」會議後ノ「モロトフ」トノ會談竝ニ米英首腦者等ノ議會報告等ニ徴スルモ問題ハ其處迄深刻ナラスト觀測シ居レリ

又、本使感想ノ大要ハ以上ノ如クナルモ事茲ニ至リタル上ハ帝國トシテモ相當ノ決意ヲ以テ新事態ニ對應スル措置ヲ講セサルヲ得ス右ニ關シテハ慎重考量ノ上卑見追電致度ク存シ居レリ

~~~~~

1006

昭和20年4月7日

在ハルビン宮川總領事より
鈴木(貫太郎)外務大臣宛(電報)

日ソ中立條約廢棄通告後のソ連の動向には嚴

戒を要する旨意見具申

ハルビン 4月7日午前9時00分發

本 省 4月8日午前10時45分着

第一〇三號(緊急、館長符號扱)

往電第九九號ニ關シ

本年二月二日幹部會ニ於テ開陳シタル本官觀測ハ不幸ニシテ適中シタルノミナラス廢棄通告ノ全文ヲ檢討スルニ「事態ハ根本的ニ變化セリ」ト爲シ「日本ハ蘇聯ヲ攻撃セル其

ノ同盟國獨逸ヲ對蘇戰ニ於テ援助ス」トシ又「日本ハ蘇聯ノ同盟國タル英米ト戰フ」ト述ヘ果テハ「斯ル狀態ニ在リテハ中立條約ハ其ノ意義ヲ喪失セリ」ト迄極言シ之カ「延斯ヲ不可能」ト斷シタルモノニシテ之ヲ逆ニ言ヘハ條約延長ヲ可能トスル狀態ハ日本側ニ依ル獨逸トノ絕縁及對米英戰ノ中止ヲ意味シ其ノ措辭峻嚴威壓のニシテ殊ニ日本ノ中立違反ヲ言外ニ含メ居ル點ハ今後蘇聯カ欲スル具體的行動ノ自由ヲ留保セントスル伏線ト考ヘラレ又少クトモ日本ヲ牽制シテ米英ヲ利シ以テ彼等ノ拍手喝采裡ニ桑港會議ニ登場シ會議ヲ自己ノ有利ニ指導セントノ魂膽モアルヘシ何レニセヨ本條約ノ有名無實ヲ世界ノ前ニ公言シテ憚カラサル蘇聯今後ノ對日動向ハ非友好線ニ沿フテ推移スルモノト認メラレ嚴戒ヲ要ス即チ帝國トシテハ米英ト蘇聯ハ別ナリトノ從來ノ觀念ヲ捨テ三國ハ對日關係ニ付テモ同一陣營ニ在ルモノトノ現實ニ立脚シテ世界政策ヲ根本的ニ樹テ直ス必要ニ迫ラレ居ルニアラスヤト思考ス右ハ當地限り一應ノ觀測ナルモ御參考迄

尙蘇聯ノ對日動向見透シニ付テハ客年五月九日露西亞委員會ニ於テ述ヘタル卑見(客年十一月十一日郵送電報)及客年

拙電第一五一號御參照アリタシ

在滿大使ヘ轉電セリ

在蘇大使ヘ轉電アリタシ

~~~~~

1007

昭和20年4月7日

在スウェーデン岡本公使より  
鈴木外務大臣宛(電報)

日ソ中立條約廢棄をめぐるソ連の對外態度に  
関する情報について

ストックホルム 4月7日

発

本 省 4月12日後0時20分着

第二二二號

諜報者報告(六日)

「蘇聯ノ中立條約廢棄通告ニ關スル決定ハ「ヤルタ」會談ノ祕密協定ニ其クモノニ非スシテ此處二三週間ニ蘇聯獨自ノ立場ヨリ決定セルモノナリ殊ニ蘇聯少壯幹部間ニ廢棄ヲ主張スル者多カリシ趣ニシテ結局此等ノ意見カ「スターリン」ノ採用スル所トナレリトノコトナリ最近蘇聯ハ極東ニ對スル關心ヲ露骨ニ示シ支那問題ニ付テ中國共產黨ノ主張ヲ支持スル論文新聞ニ度々現ルルノミナラス

更ニ「旅順」ナル日露戰爭ニ關スル書籍刊行サレ「プラウダ」ニ大々的ニ紹介セラルルト共ニ「ラヂオ」ニモ紹介サレタル事實ハ蘇聯政策ノ方向ヲ示スモノトシテ注目ニ値ヒス情報ニ據レハ赤軍幹部間ニ蘇聯ノ極東ニ對スル進出ヲ主張スル者多キ趣ナリ蘇聯カ今回ノ措置ニ依リ英米ノ反蘇氣分ヲ緩和スル一方極東ニ於ケル發言權ヲ保持セントスルハ明カナルカ今後如何ナル態度ニ出ツルカハ一ニ日本ノ抗戰力ニ係リ居リ日本カ英米ニ對シ強靱ナル抵抗力ヲ示スニ於テハ蘇聯モ積極的措置ニ出テサルヘキモ若シ日本弱シト觀ルトキハ滿洲、朝鮮、北支等ヘノ進出ヲ試ムヘシ

ニ、芬蘭會議議長ニ「フアゲルホルム」選ハレタルカ「フ」ハ蘇聯ノ手先ニシテ選舉後ノ芬蘭政局ノ親蘇傾向ヲ示スモノトシテ注目ニ値シ當國當局ハ芬蘭ニ於ケル蘇聯勢力ノ進出ニ付深く憂慮シ居レリ蘇聯ハ最近第三次大戰ニ備ヘ「バルト」海ヲ完全ニ蘇聯ノ内海トセントノ意圖ヲ示シ從來ノ如ク「ナルヴィイク」ニ對シテ關心ヲ有セス寧ロ「スカゲラツク」及其ノ兩岸ニ對スル支配權ノ獲得ヲ企圖シ居ル趣ニシテ英國モ右蘇聯ノ計畫ニ付深く憂慮シ最

近其ノ瑞典ニ對スル從來ノ態度（蘇聯ニ進出ノ口實ヲ與ヘタル爲瑞典カ諾威、丁抹ニ對シ積極的措置ニ出ツルコトヲ防止セントス）ヲ改メ瑞典カ諾威ニ進出シ少クモ英國トノ直接ノ連絡ヲ付ケ蘇聯ノ北歐ニ對スル進出ヲ未然ニ防止セントノ政策ヲ取ルニ至レリト傳ヘラルル處最近當國ニ於ケル諾威援助ノ運動カ活潑トナリタルハ之ヲ裏書スルモノト思考セラル併々英國ハ西部戰線ニテ一杯ナルヲ以テ同方面ノ戰鬪一段落後七月頃瑞典カ諾威ニ對シ行動ヲ起スコトヲ希望シ居レリ

巷間ニハ英米蘇カ四月二十日前後（何故此ノ期日ヲ選フヤ理由不明）對獨戰ノ終了ヲ宣言シテ獨逸政府ノ存在ヲ否認スルト同時ニ瑞典ハ諾威ニ正規軍ヲ進入セシメ同地獨逸公使館ノ閉鎖ヲ行フヘシトノ噂傳ヘラル右事實トセハ形式的ニ獨逸政府否認ニ依リ獨逸公使館ハ活動ノ理由ヲ失ヒ更ニ戰爭終了宣言ニ依リ諾威進入ハ對獨戰ヲ伴ハス瑞典ノ地位ハ飽迄中立タルコトヲ得ヘシ併々諾威ニハ獨軍約十萬アリ外ニ諾威部隊モアリ瑞典ハ獨力之ト戰鬪ヲ行フニハ其ノ現有勢力ノ半數ヲ諾威ニ送ル必要アリ斯クテハ東蘇聯ニ對スル備ヘ手薄トナルノミナラス作戰進

抄セサル時ハ蘇聯ニ干涉ノ口實ヲ與フル惧モアルヲ以テ瑞典當局ハ諾威ニ對スル援助ヲ躊躇シ居レリト傳ヘラル  
三、獨逸ニ於ケル形勢ハ日ニ縮マリツツアルモ獨逸ハ猶相當ノ戰鬪力ヲ有ス英米ノ專ラ宣傳スル如ク簡單ニ降服スルカ如キコトナカルヘク南獨ニ立籠リ抗戰ヲ續ルト共ニ佛國、白耳義、和蘭及獨逸國內英米占領地域ニ於テ知ラルタル「ゲリラ」戰ヲ展開スヘク一方英米蘇ニ對シ政治戰ヲ試ムヘシト見ル者多シ

1008

昭和20年4月7日

在ソ連邦佐藤大使より  
鈴木外務大臣宛(電報)

日ソ中立條約廢棄通告後に予想されるソ連の

動向及び対処方針につき意見具申

付記 昭和二十年四月九日付、榎本(重治)海軍書記

官作成

「日ソ中立條約ニ付テ」

モスクワ 4月7日後11時21分發

本省 4月9日前11時45分着

第六九〇號(館長符號、緊急)

蘇側ノ今次條約廢棄通告及今後ノ事態ニ對處スヘキ我方態度ニ關シ卑見左ノ通御參考迄

一、蘇側ノ條約廢棄ニ對スル態度ハ極メテ明確ニシテ何等交渉ノ余地ナシ從テ我方トシテハ冷靜ニ蘇側ノ通告ヲ甘受スルノ態度ニテ今更本件事態ニ關シ何等措置セサルヲ可トスヘキハ異論ナキ所ト存ス

二、「モロトフ」ハ本使トノ會談ニ於テ「中立條約ハ未タ終了シタル次第ニアラス蘇聯ノ態度ハ右ニ依リ律セラルヘシ」ト述ヘ居リ之ヲ正面ヨリ素直ニ受入レハ近キ將來斷交乃至宣戰迄事態發展スルコトナカルヘキ筈ナルノミナラス廢棄通告中ニ日本ノ獨逸援助等ノ動機ヲ掲ケ乍ラ尙條約ハ五年ノ有効期間ヲ以テ締結サレアル點ヲ確認シタル點聊カ矛盾スル如キモ或ハ其ノ間ニ機微ノ含蓄アリ即チ之等ノ動機ニ依リ條約ハ廢棄スルモ有効期間ハ中立ヲ尊重セントスル底意ヲ含メタルモノナルヤモ計リ難シ然シ相手カ蘇聯ノコトナレハ何處迄信用ヲ置キ得ルヤ疑問ニシテ殊ニ東亞ノ戦局此ノ上我ニ不利ニ發展スルニ於テハ如何ナル態度ニ出ツルヤ豫測シ難ク多大ノ危險ヲ包藏スルモノトシテ充分ナル警戒ヲ要スル所ナリ」假ニ宣戰

ノ擧ニ迄ハ出テストスルモ滿蘇國境兵力増強等我ニ壓迫ヲ加フルノ態度ニ出ツルコトモ考ヘラル何レニスルモ蘇トシテハ總シテ我方ニ對シ強持テノ態度ニ出ツヘキハ容易ニ想像セラルル所ナリ

三、右ノ事態ニ處スヘキ我方對策ハ具體的ニ今後蘇ノ出方如何ニ係ルコト大ナルヘキカ對策ノ根本方針トシテハ飽迄日蘇間ノ靜謐ヲ保持スル方針ヲ以テ而モ内部的ニハ總ユル對抗手段ヲ整備シ何時ニテモ必要ニ應シ所要ノ措置ヲ採リ得ル態ノモノタルヲ要ス之カ爲我方ニ於テ差當リ考慮スヘキハ

(イ)滿洲國防備ノ整備ナリ何時ニテモ相手ノ挑戰ニ應シ得ル丈ノ準備ヲ備フルヲ要スヘキモ本件ハ蘇側ヲ刺激スルコト最モ大ニシテ遣方ニ依リテハ不慮ノ事態發生ノ惧多分ニアルヲ以テ之カ實行ニハ極メテ慎重ナルヲ要スルハ勿論ナリ尙又右ハ今始リタル譯ニ非スシテ軍部ニ於テハ常時右ノ如キ氣構ヘニテ事ニ當リタルヘキヲ以テ今更事新シク準備ノ要ナキヤモ知レサルモ我方ノ心構トシテ新ナル覺悟ヲ要スト存ス

(ロ)蘇側トノ摩擦ヲ避ケ蘇側ニ何等口實ヲ與フルカ如キ事

態ノ發生ヲ防止スルヲ要ス在日滿蘇蘇聯公館ノ待遇傳書使旅行ニ對スル便宜等ノ諸問題モ等閑ニ附スルヲ得ス

又對蘇問題ニ關スル日滿兩國步調一致ノ如キハ特ニ要望セサルヲ得サル所ナリ

(イ)懸案ハナルヘク速ニ解決スルニ努ムルコトトスヘシ而シテ此ノ場合極力媚態ニ亘ルコトヲ避クヘキモ自然的成行ニ於テ努メテ好意的態度ヲ以テ解決ノ促進ヲ計ルヲ要スヘシ尤モ蘇側ニ於テハ今後懸案解決ノ如キ今更興味ヲ覺エストシテ消極的態度ヲ持スヘキコトモ考ヘラルルモ我方トシテハ蘇側態度ニ拘ハラス冷靜且公正ナル態度ヲ以テ日蘇兩國交維持ニ努力スルモノナル態度ヲ持スルヲ要ス以上ノ見地ヨリ香港船舶問題ハ我方案ニ對スル先方ノ出方ヲ待ツコトトスヘク在滿支蘇聯財產返還問題ノ如キハ目下交渉繼續中ナラハ此儘續行スルコトトシ先方カ誠意アル態度ヲ以テ交渉ニ應シ來ル様ナラハ右ハ蘇聯態度打診ノ一材料タリ得ヘシ

四、要スルニ我方ハ蘇側ニ對シ從來ト異ル所ナク飽迄公正且眞摯ナル態度ヲ以テ當リ冷靜ニ先方ノ動向ヲ查察シ情勢



ノ變化ニ應シ我方内部ノ政治、軍事、思想各般ノ態勢整  
備ニ善處スルヲ要スト思考スル次第ナリ

(付記)

日ソ中立條約ニ付テ

二〇・四・九 榎本書記官

(一)「ソ」國ハ本條約不延長ノ理由トシテ「事態ハ根本的ニ  
變化シ」ト言ヘリ即チ狀況ノ變化ヲ根本ノ理由ト爲セル  
モノニシテ此ノ點頗ル注意ヲ要ス

(二)將來更ニ本條約廢棄(有効期間中)ノ公算ナキニ非ズ右ノ  
場合ニハ狀況ノ變化ヲ理由トスルコトアルベシ即チ獨國  
トノ間ノ戰爭終熄シタル如キ場合ニ「ソ」國ニハ今ヤ世  
界中敵對關係ヲ惹起スル虞アル國ナシ然ラバ大東亞戰爭  
ニ於テ日本ト米英等トノ戰爭ニ於テ「ソ」國ガ獨リ中立  
義務ヲ負フ結果トナリ日本ニハ何等ノ義務存セズ斯ノ如  
キ片務的義務ノミヲ負フ條約ハ公正ト言ヒ難シ依ツテ之  
ヲ廢棄シ「ソ」國ハ自由ノ立場ニ立ツ當然ノ權利アリト  
言フガ如キ主張ヲ爲サヤモ測ラレズ

(註)元來狀況ノ變化ヲ理由トシテ一方的ニ有效條約ヲ廢

棄スルコトハ條約ノ效力ヲ不安定ニシ國際關係ヲ不  
安ニ陷ルル虞アルヲ以テ之ヲ國際法ノ原則ト認メ難  
シト言フコトガ一般ニ認メラルル說ナルガ尙一部ニ  
反對ノ意見ヲ堅持スルモノナキニ非ズ而シテ露國ハ  
斯ル原則アリトシテ條約ヲ廢棄スル常習國ニシテ革  
命後ニ於テモ同様ナリ。一九二四年四月露國ト諸國  
トノ間ノ現存條約改正ニ方リ、又本年三月「ソ」土  
中立友好條約廢棄ニ方リテモ「狀況ノ變化」ヲ理由  
トシタリ

(三)本條約ハ大東亞戰爭ニハ適用ナシト主張スル公算ナキニ  
非ズ

本條約第二條ニハ「締約國ノ一方ガ一又ハ二以上ノ第三  
國ヨリノ軍事行動ノ對象ト爲ル場合ニハ他方ノ締約國ハ  
該紛爭ノ全期間中立ヲ守ルベシ」トアリテ挑戰シタル場  
合ト自衛戰ノ場合トテ區別セズト雖モ通例挑戰シタル場  
合ハ義務ヲ生ゼザルヲ立前トスルニ依リ「ソ」國ハ大東  
亞戰爭ハ帝國ノ挑發ニ因ル戰爭ナルニ依リ「ソ」國ハ本  
條約上中立義務ナシト主張スルコトナキヲ保セズ「スター  
リン」ガ昨年十一月六日革命記念日ニ「日本ハ侵略國ノ

立場ニアリ」ト言ヒタルガ如キハ此ノ點ニ關聯シ注意ヲ要スル事象ナリ尤モ「ソ」國ハ今日迄ハ形式上ハ兎ニ角大東亞戰爭ニ付キ中立國ノ立場ヲ執リ米國飛行機ノ其ノ領域内ニ入りタルモノハ之ヲ抑留シ居レリ

(四) 中立國ノ立場ニ在リ乍ラ不公平ノ態度ヲ執ル虞アリ

本條約不延長通告ニ方リ「日本ハ其ノ同盟國タル獨國ノ對「ソ」戰爭ヲ援助シ云々」ト言明セルハ言ハバ帝國ガ本條約違反ヲ敢テシタリト非難セルモノ他ナラズ然ラバ其ノ結果トシテ「ソ」國ハ報復トシテ大東亞戰爭ニ於テ米英ヲ援助スベシトノ意向ヲ言外ニ表明セルモノトモ觀察シ得ザルニ非ズ

理論上ヨリ言ハバ帝國ハ「ソ」國ノ斯ル言明ニ對シ帝國ハ中立條約ヲ嚴守シ「ソ」獨戰爭ニ付キ獨國ヲ援助シタルコトナシト反駁スルヲ至當トスル理ナルモ夫レハ困難ニシテ徒ラニ事ヲ紛糾セシムル結果ト爲ルベシ

(五) 本條約不延長通告理由ハ本條約ガ既ニ無効ニ歸シタリトノ宣言トモ解セラレザルニ非ズ

「ソ」國政府通告中ニ「日「ソ」中立條約ハ獨「ソ」戰爭後及日本ノ對米英戰爭勃發前ナル一九四一年四月十三

日調印セラレタルモノナルガ爾來事態ハ根本的ニ變化シ日本ハ其ノ同盟國タル獨國ノ對「ソ」戰爭遂行ヲ援助シ且「ソ」國ノ同盟國タル米英ト交戰中ナリ斯ル狀態ニ於テ日「ソ」中立條約ハ其ノ意義ヲ喪失シ其ノ存續ハ不可能ト爲レリ云々」ト言ヒ至ク現狀ニ適セズト爲シ居レリ固ヨリ其ノ存續不可能ト言フハ明年四月以降ノコトヲ指

スハ論ナキトコロナルモ其ノ語氣ヨリ見レバ現在ト雖モ意義ナキモノナリト斷定セルモノト見ザルヲ得ズ而シテ「條約ノ效力繼續條件が缺クルニ至リタリト認メララルトキハ其ノ條約ハ無効ニ歸ス」トノ國際法上ノ說モ一部ニ主張セラレ居ルニ依リ「ソ」國ノ心裡ニハ容易ナラザル事ヲ含ミ居ルヤモ測ラレズ

(六) 之ヲ要スルニ「ソ」國ノ心裡ヲ濫リニ曲解スルニハ及バザルモ本條約ヲ輕視シ場合ニ依リテハ本條約ノ趣旨ニ反スル行動ニ出デ而モ之レニ對シ「ソ」國一流ノ説明ヲ附シ條約違反ニ非ズトノ印象ヲ與ヘントスル虞ナキニ非ズト認メラル



1009

昭和20年4月8日

在ハルビン宮川総領事より  
鈴木外務大臣宛(電報)

日本の対独援助は中立条約違反とするソ連側

指摘には反駁を要する旨意見具申

ハルビン 4月8日午前9時00分発

本省 4月8日午後0時00分着

第一〇五號(館長符號扱)

蘇側ノ廢棄通告ヲ解説セル東京六日發國通(「日蘇關係直チニ變化セス」七日當地新聞ニ掲載サル)ハ蘇側通告中日本ハ其ノ同盟國獨ノ對蘇戰ヲ援助スト言フ點ニ何等觸ルル所ナキ處右ハ中立條約ニ對スル日本側ノ違反行爲ヲ意味スルモノナルヲ以テ一應左ノ如キ要旨ノ反駁的解説ヲ爲シ置カサレハ當方カ中立條約ノ違反行爲ヲ認メタルコトナル惧アリト存ス

日獨同盟條約ハ獨蘇開戰前而モ蘇側カ獨ト不可侵條約關係ニアリシ時代ニ締結セラレ蘇聯ヲ對象外ニ置キタル爲一九四一年春日蘇中立條約ノ締結モ可能ナリシ次第ニシテ日本ハ獨蘇開戰後モ常ニ中立條約ヲ遵守シ來ルモノナリ從テ日本カ獨ノ對蘇戰ヲ援助スト言フハ事實ニ相違ス次ニ廢棄通

告中日本ハ蘇聯ノ同盟國タル米英ト戰爭スト述ヘ居ル點ニ付テモ左ノ如キ趣旨ノ解説ヲ爲ス要アルヘシ

蘇聯カ日蘇中立條約ノ存在下ニ米英ト締結セル同盟條約ハ獨ヲ目標トシタル筈ニシテ今回蘇側カ米英トノ關係ヲ強調シ此ノ關係カ日蘇中立條約ヲ無意義ナラシメタル一原因ト爲スモノナルニ於テハ遺憾乍ラ誤解ト云ハサルヘカラス尙右ノ趣旨ハ蘇側ノ廢棄通告ニ對スル我方回答中ニ於テ明カニ爲サレ置クヘキモノト思考セララル  
右僭越ヲ顧ミス氣付ノ儘申進ス

~~~~~

1010

昭和20年4月14日

在ハルビン宮川総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

日ソ中立条約廢棄の場合の滿蒙領土保全及び

不可侵に関する声明書の効力につき内示方要請

ハルビン 4月14日午前8時10分発

本省 4月15日午後3時30分着

第一一七號

日蘇中立條約ト同時ニ署名ノ滿蒙領土保全及不可侵聲明書ニ付テハ今次不延長通告中ニモ佐藤大使「モロトフ」會談

中ニモ何等觸レ居ラサル處右聲明書ハ中立條約ト同時ニ失
效スルモノナリヤ否ヤ同聲明書中ニ「中立條約ノ精神ニ基
キ」云々ノ字句アルニモ鑑ミ帝國政府ノ解釋御内示アリタ
シ
蘇、滿ヘ轉電セリ

1011

昭和20年4月26日 東郷外務大臣より
在ハルビン宮川総領事宛(電報)

日ソ中立条約廃棄の場合の滿蒙領土保全及び
不可侵に関する声明書の効力について

本省 4月26日後5時00分発

第六九號(館長符號)

貴電第一一七號ニ關シ

中立條約交渉當時本件聲明書ノ内容ハ最初「ソ」側ニ於テ
本條約第一條中ニ規定スルコトヲ主張セルニ對シ我方ハ外
蒙ノ「ステータス」ヲ成ルベク輕ク取扱ハントシ聲明書ノ
形式ト爲ス修正意見ヲ提出シ右意見ニ依リ決定ヲ見タル經
緯アリ又元來帝國ガ蒙古ノ領土ノ保全及不可侵ノ尊重ヲ約
シ「ソ」聯ガ滿洲國ノ領土ノ保全及不可侵ヲ約シタル本件

聲明書ハ日「ソ」兩國ガ相互ニ他方本來ノ領土ノ保全及不
可侵ヲ約シタル本條約第一條ノ精神ヲ擴充スル爲ノ從屬的
約束ナルヲ以テ本條約ト一體ヲ爲シ居リ從テ中立條約ガ失
效スル時ハ聲明書モ亦失效スルモノト解スルノ外ナカルベシ
蘇滿ニ轉電セリ

1012

昭和20年5月14日 最高戦争指導会議構成員會議

最高戦争指導會議構成員會議において合意し
た對ソ交渉方針について

昭和二十年五月十一日、十二日及十四日ニ亘リ最高戦争指
導會議構成員ノミヲ以テセル會議ニ於テ意見一致セル所左
ノ如シ

左記

日蘇兩國間ノ話合ハ戰局ノ進展ニ依リ多大ノ影響ヲ受クル
ノミナラス、其ノ成否如何モ之ニ由ル所大ナルヘキモ、現
下日本カ英米トノ間ニ國力ヲ賭シテ戰ヒツツアル間ニ於テ
蘇聯ノ參戰ヲ見ルカ如キコトアルニ於テハ帝國ハ其ノ死命
ヲ制セラルヘキヲ以テ、對英米戰爭カ如何ナル様相ヲ呈ス

ルニセヨ帝國トシテハ極力其ノ参戦防止ニ努ムル必要アリ。
尙我方トシテハ右参戦防止ノミナラス、進ンテハ其ノ好意
の中立ヲ獲得シ、延イテハ戦争ノ終結ニ關シ我方ニ有利ナ
ル仲介ヲ爲サシムルヲ有利トスルヲ以テ、此等ノ目的ヲ以
テ速ニ日蘇兩國間ニ話合ヲ開始スルモノトス。

我方トシテハ蘇聯カ今次對獨戦争ニ戦捷ヲ得タルハ帝國カ
中立ヲ維持セルニ依ルモノナルコトヲ了得セシムルト共ニ、
將來蘇聯カ米國ト對抗スルニ至ルヘキ關係上日本ニ相當ノ
國際的地位ヲ保タシムルノ有利ナルヲ説キ、且又日蘇支三
國團結シテ英米ニ當ルノ必要アルヲ説示シ、以テ蘇聯ヲ前
記諸目的ニ誘導スルニ努ムヘキナルモ、蘇聯カ對獨戦争終
了後其ノ國際的地位向上セリトノ自覺竝ニ近來帝國ノ國力
著シク低下セリトノ判斷ヲ有シ居ルコト想像ニ難カラサル
ヲ以テ、其ノ要求大ナルヲ覺悟スル必要アリ。

而シテ右蘇聯ノ欲求ハ「ポーツマス」條約ノ廢棄ヲ主眼ト
スヘキ處、帝國トシテハ極力其ノ輕減ニ努ムヘキハ勿論ナ
ルモ、該交渉ヲ成立セシムル爲ニハ「ポーツマス」條約及
日蘇基本條約ヲ廢棄スルコトトシ結局ノ所(イ)南樺太ノ返還
(ロ)漁業權ノ解消、(ハ)津輕海峽ノ開放、(ニ)北滿ニ於ケル諸鐵

道ノ讓渡、(ホ)内蒙ニ於ケル蘇聯ノ勢力範圍、且(ヘ)旅順、大
連ノ租借ヲ覺悟スル必要アルヘク場合ニ依リテハ千島北半
ヲ讓渡スルモ止ムヲ得サルヘシ。但シ朝鮮ハ之ヲ我方ニ留
保スルコトトシ、南滿洲ニ於テハ之ヲ中立地帶トナス等出
來得ル限り滿洲帝國ノ獨立ヲ維持スルコトトシ、尙支那ニ
就テハ日蘇支三國ノ共同體制ヲ樹立スルコト最モ望マシキ
所ナリ。



1013

昭和20年5月20日

東郷外務大臣より
在中国谷大使、在上海土田公使、在北
京楠本(実隆)公使他宛(電報)

ソ連等の中立国対策として居留民保護に留意

方訓令

本省 5月20日後6時00分発

合第五〇二號(館長符號扱)

一、現下ノ情勢ニ處シ帝國外交トシテ對「ソ」關係ニ最モ留
意スル要アルハ申ス迄モナキ處ニシテ支那ニ於ケル日
「ソ」ノ根本的立場及「ソ」側ノ強引ナル遣口ニモ鑑ミ
「ソ」側ノ要求ヲ常ニ満足セシメ得サルハ固ヨリノ儀ナ
ルモ地方的諸懸案等ニ付テハ從來ノ行掛リヲ離レ公正ナ

ル立場ヨリ特ニ迅速且要領ヨリ解決ヲ計ルト共ニ我方出先諸機關ハ素ヨリ支那側其ノ他トノ間ニ於テモ連絡ヲ完全ニシ對「ソ」關係ニ於テ新ナル紛議ヲ捲キ起ササル様十二分ニ注意スル要アリ

ニ、一方「マニラ」問題ヲ口實トスル「スペイン」ノ脫落後「スイス」ニ付テモ從來西班牙ノ利益保護ヲ行ヒ居タル諸國ニ於ケル日本ノ利益保護ヲ依頼セルニ對シ「マニラ」ニ於ケル瑞西人殺害問題、本邦、支那及占領地等ニ於ケル瑞西出先ノ活動ニ便宜不供與等ノ問題ヲ取擧ケ新規利益保護ヲ受諾スルニ至ラス其他各般ノ案件累積シ居リ瑞西ニ付テモ西班牙ノ轍ヲ踏ム惧アリ瑞典ノ態度モ亦瑞西程ニハ非サルモ之カ取扱ニ慎重ヲ要スト認メラレ葡萄牙ノ脫落防止ニ付テモ「チモール」問題、澳門問題等苦慮シアルコト亦御承知ノ通ナリ然ルニ情報蒐集、在歐出先ノ結集、利益保護依頼等ノ見地ヨリスルモ何トカ之等中立國ノ脫落ヲ防止スル要アリ獨ノ屈服後米英ノ中立國壓迫益々加重セラルヘキ折柄之カ爲多大ノ努力ヲ要スヘク差當リ此等諸國トノ懸案ノ如キモ思ヒ切ツテ解決シ且其ノ居留民ノ處遇等ニ付テモ特段ノ配意ヲ爲ス要アリ

三、殊ニ支那ニ於テ其ノ戰場化ヲ予想スル各種ノ對策ハ素ヨリ推進ノ要アル處右對策ニ關聯スル各種ノ涉外事項モサルコトナカラ現實ニ戰場化セル場合ニ於ケル中立國人殊ニ「ソ」聯人ノ生命財産ノ保護ニ付テモ予メ特段ノ措置ヲ講シ中立國人ノ死傷等カ紛爭ノ原因トナラサル様留意スルコト肝要ナルヘシ(戰場化ノ場合中立國人ノ死傷ニ付テハ我方トシテ法理上責任ナキコト勿論ナルモ「マニラ」ニ關スル敵側宣傳ノ如キハ反證ヲ擧クル方法ナク遂ニ西班牙ノ脫落ノ口實ヲ與ヘ瑞西、「ヴァチカン」等トノ關係ニモ問題ヲ生シ居ル次第ニシテ殊ニ支那ニ於テハ對「ソ」關係ニモ惡用セラルル惧大ナリト存ス)

四、敍上ノ見地ヨリ「ソ」及其他ノ中立國トノ關係ニ於ケル懸案解決、處遇改善、生命財産ノ保護等ヲ一段ト促進スル方法ニ付貴方ニ於テ具体案アラハ至急取纏メノ上具申アリ度(本電ト同様ノ趣旨陸海軍ヨリモ電報アル筈ニ付陸海軍トモ篤ト御懇談ノ上具体案研究アリ度)

- 當方ノ氣付トシテハ例ヘハ左記ノ如キモ一案ナルヘシ
- (1) 涉外關係陸海軍側機關トノ連絡緊密化
 - (2) 軍ヨリ生活物資ノ特別配給ヲ受ケ又要スレハ相當ノ資

1014

金ヲ準備シ中立國人ノ配給ニ改善ヲ加ヘ又移轉ノ際ニ
移轉補助金ヲ支給スルカ如キ考案

(3)殊ニ上海ニ付テハ中立國側申出ノ安全地帯設置ニ付テ
モ廣汎ナル「地帯」トシテ考慮スルコト困難ナルヘキ
モ例ヘハ此ノ際思ヒ切ツテ一箇所又ハ數箇所ニ相當數
ノ建物ヲ提供シ「ソ」聯其他ノ中立國人ヲ自發的ニ集
結セシムルカ如キ方法(該建物以外ニ殘留スル者ハ自
己ノ危險ニ於テ殘留スルモノニシテ戰場化ノ場合我方
ニ責任ナキ旨ヲ明カニスルコトトシ該建物ニ付中立國
側力敵側ヨリ安全保證ヲ得ント試ムルニ於テハ夫レヲ
試ミシメ差支ヘ無カルヘシ)

本電陸海、大東亞ト打合濟

本電宛先 支、上海、北京、張家口、廣東、天津

昭和20年6月1日 東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

ソ連参戦阻止のためソ連側との接触方訓令及
び広田・マリク会談の実施決定について

本省 6月1日前9時00分発

第七三〇號(嚴祕、緊急、館長符號)
貴電第一〇五一號ニ關シ

内外ノ情勢ニ鑑ミ對「ソ」關係打開カ至難ナルハ明ナルカ
帝國トシテハ「ソ」聯ノ参戦ヲ阻止スルノミナラス成ルヘ
ク我方ニ對シ好意的態度ニ出テシムルコト刻下ノ緊要事ナ
ルヲ以テ貴使ニ於テハ往電第六八七號ノ趣旨ニ依リ機ヲ逸
セス「ソ」側ト接觸セラレ度當方ニ於テモ本大臣自ラ「ソ」
聯大使ト接觸スルコト利モアレハ不利モアルヲ以テ廣田前
大臣ニ委囑シ最近ニ「ソ」聯大使ト會談ノ上「ソ」側ノ動
向ヲ察知スルト共ニ我方ノ意圖ニ「ソ」側ヲ誘動スルコト
トセリ

尚本件ハ當地ニテモ嚴祕ニ附シアル次第ナルカ右御含ミ置
キアリ度

1015

昭和20年6月8日 在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

日ソ關係強化は困難でありソ連側武力干渉の場
合は国体護持の一途に出るほかなき旨意見具申

モスクワ 6月8日後6時55分発
本 省 6月10日後2時00分着

第一一四三號(大至急、親展、館長符號)

切迫セル時局ニ關シ卑見申進ス

一、中立條約廢棄通告後ノ蘇聯ノ態度ニ關シテハ往電第一〇七三號及第一〇八四號ニテ申進ノ通ニテ差當リ日米戰ニ對シ從前通り中立ヲ維持セントスルモノノ如ク觀察セララル處蘇聯ヲシテ之以上ニ我方ニトリ有利ナル態度ニ出テシムルコト可能ナルヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ本使トシテハ到底其ノ望ナキヲ信スルモノニシテ右ハ今日ニ始リタル問題ニアラス本使當國着任以來過去三年ノ經驗ニ徴シ其ノコト有リ得サルヲ信スル次第ナリ過去ニ於テサヘ度々我方ヨリ水ヲ差シ向ケタルニ拘ラス蘇側ニ於テハ米英トノ關係ヨリ日蘇關係ニ深入スルヲ避ケ來レリ獨逸トノ戰爭ニ鑄^(鑄セ)リ削リ極東ノ靜謐保持ニ專念セサルヲ得サリシ當時ニ於テ尙且然リトセハ獨潰滅ノ今日蘇聯トシテ何ヲ苦ンテ蘇米關係ヲ犠牲ニシテモ日蘇關係ノ増進ヲ考フヘキヤ近キ將來ニ於テ蘇米關係ノ惡化ノ可能性アルコト今日ヨリ明カナリトスレハ或ハ別問題ナルヘキモ假

令兩國間ニ今後多少ノ摩擦ハ免レ難シトシテ尙親善關係持續セラルヘントノ見込ヲツケサルヲ得サル今日ニ於テハ中立態度ノ維持カ關ノ山ニテ之サヘ戰局發展如何ニ依リテハ困難トナルヘキコト我方トシテ常ニ覺悟ヲ要スル處ナリ

二、萬一蘇側ニ蘇米關係ノ永續キセサルヘキヲ見越シ日蘇關係強化ノ必要ヲ考ヘ居タリシナランニハ彼ヨリ進ンテ中立條約ヲ廢棄シ來ルカ如キ態度ニハ出サリシ筈ナリ條約ハ不繼續サヘ通告セサレハ其ノ儘自動的ニ繼續セラレタルモノニシテ日蘇間ハ素ヨリ國際間ニモ比較的波瀾ヲ生スルコト鮮ク最モ簡單ニ繼續出來タル譯ナリ然ルニ拘ラス廢棄ヲ通告シ來レルハ繼續ヲ不便トスル事情アリタルカ爲ニシテ即チ日蘇關係ノ強化等ハ考量シ居ラサリシ證左ト爲ササルヘカラス吾ヨリ再ヒ水ヲ向クルモ詮ナキ次第ト言ハサルヲ得ス

三、斯クノ如ク明白ナル事情ニ在ルニ拘ラス「モロトフ」トノ會見ニ際シ假リニ本使ヨリ兩國關係ノ強化ヲ持出ス如キ態度ニ出テタリトセハ現狀維持サヘ懸念セラルル折柄日本外交ノ餘リニ「ナイーブ」ナルニ驚キコソスレ「モ」

カ其ノ話ニ乘リ來ルヘシトハ到底想像出來難キ所ナリ
 四、十月革命以來ノ日蘇國交ハ正ニ荊ノ途ヲ辿リタリト謂フ
 ニ盡クヘク時ニ消長アリタリトハ言ヘ何レノ時代ニ於テ
 モ根本的國交改善ヲ見タルコトナク却テ張鼓峯「ノモン
 ハン」ニ於テハ相手ノ輕侮ヲサヘ招クニ至レリ次テ中立
 條約ノ成立ヲ見タルモ獨蘇戰大東亞戰ノ勃發ニ會ヒ漸ク
 兩國間ニ條約ヲ維持シ得タリト言フニ過キス況ンヤ一ハ
 勁敵獨逸ヲ倒シ他ハ戰線撤收ヲ重ネツツアリ戰勝ニ士氣
 揚レル蘇聯人カ露國人トシテ「ポーツマス」條約ヲ露國
 史上ノ屈辱ト感シ居ル心理狀態モ亦見遁スヘカラス
 五、以上ヲ過去ノ看點^(戰)ヨリスルモ日蘇關係ノ將來ハ精々現狀
 維持ニ盡クト云フニ歸着セサルヲ得ス本使ハ斯ク信シ且
 今後モ從前ト同シ見透ノ下ニ微力ヲ捧ケントスルモノナ
 ル處之スラ戰局ノ進展ニ依リテハ危殆ニ瀕スヘキコト屢
 次申進ノ通ナリ
 去リ乍ラ貴大臣ニ於テ別個ノ看點^(戰カ)ヨリ東京ニテ蘇側ノ意
 向ヲ打診セラルルハ(貴電第七三〇號)結構ノコトニテ素
 ヨリ本使ニ於テ異存ヲ有セス或ハ何等打開ノ諸發見ニ資
 スル結果ヲ得ラレンコトヲ祈ル次第ナリ

六、「モロトフ」ハ本使ニ對シ日本側ニテハ對米戰爭ノ前途
 ヲ如何ニ見透シ居ラルルヤニ付質問セリ(往電第一〇七
 三號)右ニ對シテハ我方ニ於テ篤ト肚ヲ極メ具體案ヲ持
 行カサレハ話ヲ進展セシムルヲ得ス先方ヨリ積極的ニ乘
 出シ來ル模様ナキコトモ同電ニテ御承知ノ通ナリ
 七、甚タ遺憾ノコト乍ラ沖繩戰モ近ク見切ヲツケサルヲ得サ
 ル時機トナレルカ如シ此處ニ基地ヲ設ケラルレハ遠ク函
 館、新京、哈爾賓迄敵爆擊圈內ニ入ルヘク日本内地ハ素
 ヨリ鮮滿各地ノ軍需產業モ爆碎ヲ免レサルニ至ルヘシ内
 地五大都市ハ今日迄ニ大方灰塵ニ歸シタリト想像セラレ
 他ノ諸都市モ逐次同様ノ運命ニ陥ルヘキ處獨逸潰滅ノ原
 因カ究極ノ處聯合國側ノ爆擊ニ在リタルハ松島公使初メ
 獨逸ヨリノ歸還者一同ノ異口同音ニ斷定シ居ル所ニシテ
 又本使等モ首肯ニ難カラストセリ米重爆擊機ノ相次テノ
 内地侵入ヲ阻止シ得サルニ至リタル日本ノ現狀ハツイ先
 頃迄獨逸ノ嘗メタル經驗ニ髣髴タルモノアルヲ思ハシム
 本使ハ米英二國ニ對スル限り今以テ最後迄抗戰ヲ續ケ彼
 等ヲシテ攻メ倦マシムル處迄漕キ着クヘシトノ意見ヲ持
 シ居リ此ノ點從前ト異ナル所ナキモ右ハ我方抗戰力維持

カ出來得テ初メテ可能ナルコトニシテ抵抗手段殲滅シテ猶抗戰ヲ續行スルカ如キハ近代戰ニテハ考ヘラレサル所ナリ然ルニ今日ニテハ早ヤ我抗戰力ノ持續其ノモノカ危惧セラルル狀態トナレリ勿論此ノ點ニ關スル見透ハ政府自身決定セラルヘキ所ニシテ此ノ見込アレハコソ政府ハ牢乎ナル決意ヲ以テ着々防戰態勢ヲ整ヘ居ラルル次第ト信セラレ國民ハ一ニ政府ノ方針ニ隨從シ行クヘキモノナルコト勿論ノ儀ナルモ近キ將來ニ於テ我方ニ取り唯一ノ後方補給地域タル滿洲サヘモ敵機ノ跳梁ニ委ネサルヲ得サルコトトモナレハ我抗戰力維持上最後ノ望ヲ絶タルル破目トナルヘシ而シテ萬一蘇聯ニシテ我ノ弱目ニ付込ミ俄然態度ヲ豹變シ我ニ對シ武力干涉ヲサヘ辭セストスル如キ決意ヲ示スニ至ラハ我方トシテハ最早如何トモ爲シ難シト言フニ歸着セサルヲ得ス大捷ヲ博シタル後ノ赤軍ハ總テノ點ニ於テ我ニ優越スルコト素人目ニモ明カニシテ遺憾乍ラ現在ノ在滿皇軍ハ到底彼ノ敵ニアラス加フルニ米英空軍モ其ノ場合「シベリヤ」ニ基地ヲ進出セシムヘキハ當然ニテ彼我勢力ノ懸隔餘リニモ甚タシク帝國ノ前途最早救フニ由ナキニ立至ルヘシ幸ヒ目下ノ處ニテハ

蘇聯ノ態度ニ斯クノ如キ氣配見受ケラレサルモ不幸ニシテ彼ニ於テ積極的干涉ニ乗出シ來タル形勢トモナラハ我ハ逸早く意ヲ決シテ彼ノ懷ニ飛込ミ鉛ヲ飲ム思ヒヲ以テ總テノ犠牲ヲ忍ヒ國體擁護ノ一途ニ出ツル外ナシト考ヘ居レリ

本電守島公使へ披見相成度シ



1016
昭和20年6月9日

第八十七回帝國議會秘密会における東郷外相 の日ソ中立條約廢棄問題等に関する説明

第八十七議會秘密會ニ於ケル東郷大臣説明要旨

(二〇、六、九)

日本ヲ繞ル國際情勢ハ最近一、二年來緊迫ノ度ヲ加ヘ卒直ニ申セバ近來行キ詰リノ狀況デアリ他方米國ハ「カイロ」會談以來日本ノ無條件降服ヲ揚言シテ居リマス。此ノ重大局面ハ是非打開ノ要ガアリ日夜苦慮致シテ居リマスガ此ノ打開ノ鍵ハ先ツ蘇聯ト支那ノ兩方面デアリマス
一 蘇聯ハ大國中完全ニ戰爭ヨリ離脫スルヲ得タ唯一ノ國デ

アリマシテ、獨蘇戰ノ終熄ニ依リ浮ヒ上ツタ五百萬ノ兵員ト近年躍進ヲ遂ケマシタ莫大ナル軍需生産能力ト有シ今後「ソ」聯カ如何ナル動向ヲ示スカノ點ニ付テハ固ヨリ世界ヲ舉ケテ關心ノ焦點トナツテ居ルトコロテアリマス。

「ソ」聯政府ハ御承知ノ通去ル四月五日我方ニ對シ曰「ソ」中立條約不延長ノ意嚮ヲ通告シテ參ツタノデアリマス。此ノ通告ヲ爲スニ至リマシタ「ソ」聯政府ノ意圖ハ相當複雑ナル動機ニ出ツルモノト認メラレルノデアリマス。

即チ第一ニ現下ノ情勢ニ於テハ中立條約ハ最早ヤ日本ノミカ一方的ニ利益ヲ得ルニ過キナクナツタモノトナシ實利的見地ヨリ條約ノ拘束ヲ免レント欲シタルコト、第二ニ「ソ」聯トシテハ本條約力無クナツテモ差詰メ日本ヨリノ攻撃ヲ恐ルルノ要ナシトシ從テ本條約ノ不延長ナル廉キ代償ヲ以テ米英側ニ恩ヲ賣ルト同時ニ波蘭問題等ニ付米英トノ間ニ起リタル摩擦ヲ緩和セントシタルコト更ニ第三ニ今回ノ通告ニ依リ「ソ」聯邦ノ反樞軸國ニ於ケル地位ヲ明確化シ置キ太平洋方面ニ於ケル將來ノ事態ノ

推移ニ依リテハ機宜ノ措置ニ出ツルノ地步ヲ築カントシタルコト等ノ動機ノ存シタルコトハ概ネ想像ニ難カラヌトコロテアリマシテ今日ノ如キ世界情勢ノ激度期ニ當リ^(既)歸往ノ事態ヲ前提トスル條約ノ拘束ヲ此ノ際免レントスルノ意圖ニ出ツルモノト解シ差支ナイモノト存セラレマス。

敵米英側ニ於キマシテハ「ソ」側ノ此ノ通告ヲ多大ノ満足ヲ以テ迎フルト共ニ曰「ソ」中立條約不延長ノ通告ハ同國ノ對日參戰ノ前提ナリ等種々ノ宣傳ヲ爲シタノデアリマス。

併乍ラ御承知ノ通り桑港會議ハ開會早々波蘭政府招請問題、票決權問題、其ノ他ノ重要問題ニ付キ米英ト「ソ」聯トノ間ニ相當ノ意見ノ相異アルヲ暴露シタノデアリマス。他方獨「ソ」戰ノ最終段階ノ近付クト共ニ活潑化セル「ソ」聯ノ東歐諸國ニ對スル施策ハ米英ヲ刺戟シ此ノ方面ニ於テモ重大ナル利害ノ對立ヲ露呈致シタノデアリマス。即チ「ソ」聯ハ米英ノ承認セサル「ワルソー」政權トノ間ニ相互援助條約ヲ締結シ、「ユーゴ」政府トノ間ニ相互援助條約及通商協定ヲ締結シ、又米英側ト事

前ノ打合ナク突如壞太利ニ「レンナー」政府ヲ樹立シ、更ニ「ユーゴー」ヲシテ「フュメ」「トリエスト」ヲ占領セシムル等去ル四月以來「ソ」聯ノ實力ヲ背景トスル政治工作ハ次々ト急速ニ展開セラレ米英トノ間ニ紛糾ヲ醸シツツアリマス。

元來「ソ」聯ト米英トハ吳越同舟ノ關係ニ立ツモノテ主トシテ獨逸打倒ノ點ニ於テ利害ノ共通點ヲ有シ從テ獨「ソ」戰ノ繼續中ハ三國間ニ緊密ナル協力ヲ保持シタノテアリマスガ、今ヤ獨「ソ」戰終了セル曉ニ於テ「ソ」米英關係カ今後如何ナル發展ヲ示スヤノ點ニ付テハ帝國ト致シマシテモ最モ深甚ナル關心ヲ以テ注視致シテ居ル次第デアリマス。現ニ獨崩壞後「ソ」聯對米英ノ紛糾ノ兆弗々現ハレツツアリマスカ從來ノ例ニ依リマスルト小局的ニハ種々紛糾致シマスルカ大局的妥協ハ依然持續シテ居リマシテ三國共戰勝ノ結果ヲ確保シ得ル爲ニハ三國間ノ協調ヲ必要トスル認識大ナル模様デアリマスカラ大東亞戰爭中俄ニ三國關係ノ分裂スル如キコトハ有リ得ヌモノト觀察スルカ妥當ト思ハレ、從テ唯帝國トシマシテハ濫リニ三國間ノ軋轢ニ付キ希望的觀測ヲ下スコトハ慎

マネハナラヌト存シマス

次ニ「ソ」聯ノ對日態度ニ付キ見マスルニ最近ニ於テモ大体ニ於テ慎重ナル態度ヲ維持シテ居リマス。但シ昨年十一月六日「スターリン」首相カ日本ヲ侵略國ト呼ヒ本年四月五日中午立條約不延長ノ通告ヲ爲シタル後ハ事實上ニ於テハ何時ニテモ敵對態勢ニ入り得ル狀態ニアリ且又「ソ」聯ハ二月中旬ヨリ兵力武器ノ東部「シベリア」方面ヘノ輸送ヲ開始シ、右輸送ハ今日依然繼續セラレテ居リマシテ此點ハ我方トシテ深甚ナル關心ヲ拂ハサルヲ得ナイトコロデアリマス。即帝國トシテハ米英ト死力ヲ盡シテ戰ヒツツアル間ニ「ソ」聯カ背面ヨリ攻メ來ルカ如キハ嚴ニ之ヲ防止スル必要ガアリマス。從テ帝國ニトリ大東亞戰下北方ノ靜謐維持ガ死活の利害ヲ有スルコトハ申ス迄モナイトコロデアリマス。尙又中立條約ハ御承知ノ通り猶十ヶ月ノ有効期間ヲ存スルノデアリマスガ、今後ノ事態ノ推移ニ依リマシテハ條約ノ保障モ必シモ萬幅ノ信ヲ置キ難キ事態ニ立至ルコトモナキヲ保セヌノデアリマス。

斯ク觀シ來リマスレハ帝國ノ對「ソ」外交ハ現下ノ政戰

局ニ鑑ミ益々緊要性ヲ増加シ來リタル反面、「ソ」聯ニ對スル外交施策ノ推進ハ從來ニ比シ一層困難ヲ加ヘ來リタル事實ヲ認メサルヲ得ナイノテアリマス。現内閣ハ「ソ」聯ノ中立條約不延長ノ通告力參リマシタ直後ニ成立シタノテアリマスカ、茲ニ現内閣カ「ソ」聯ノ中立條約不延長通告ニ對シ政府ノ執リマシタ措置ニ付簡單ニ御話シ致シタイト存スルノテアリマス。

御承知ノ様ニ「ソ」政府ノ通告文ハ日本カ獨逸ノ同盟國トシテ獨逸ヲ援助シ來リ且日本ハ「ソ」聯ノ同盟國タル米英ト戰爭シツツアルト謂フコトヲ以テ中立條約ヲ延長シ得サル理由ト爲シタノテアリマス。此ノ理由ハ帝國ト致シマシテハ甚タ納得シ難イトコロテアリマシテ、即チ從來日「ソ」兩國ハ互ニ自國カ對手方ノ同盟國ト戰爭ヲシツツアルコトハ百モ承知ノ上テ然モ尙且兩國直接ノ間柄テハ中立條約ヲ基準トスル中立關係ヲ維持スルト謂フ態度ヲ互ニ表明シテ居ツタノテアリマス。仍テ政府ハ佐藤大使ニ訓令ヲ發シ「ソ」聯政府ノ不延長ノ理由トスルトコロハ帝國外務省ノ承服シ得サルトコロテアルト謂フコトヲ申入レシムルト共ニ此ノ機會ニ「ソ」側ノ意圖ヲ

打診セシムル様取計ラツタノテアリマス。此ノ訓令カ「モスコ」ニ着キマシタ時ハ既ニ「モロトフ」外務人民委員ハ「サンフランシスコ」ニ向ケ出發後テアリマシタノテ佐藤大使ハ「ロヅフスキー」ト會見致シマシタカ、「ロヅフスキー」ハ責任者テナイ爲單ニ佐藤大使ノ申出ハ之ヲ「ソ」政府ニ傳達スヘキ旨ヲ述フルニ止マツタノテアリマス。尙其ノ間四月二十日在京「マリック」蘇聯大使ト左ノ通り會談シタノテアリマス。「私ヨリ元來中立條約ハ私が日本政府ト打合せ其ノ同意ノ下ニ話ヲ初メタ處、「ソ」側ニ於テモ之ニ贊成セラレ大部分ニ付話合ガツキタル際私ハ日本政府ノ命ニ依リ歸朝シタノデ、中立條約トハ個人的ニ非常ニ深キ關係アリ從テ中立條約ノ不延長通告ハ誠ニ遺憾デアル、元來日「ソ」中立條約ハ世界ノ昏冥裏ニ一道ノ光明ヲ放テルモノデ聽テ來ルベキ世界平和ハ此點ヨリ現出セラルベキモノト希望シ居リタル次第ナリ此ノ氣持ヲ當時ノ交渉相手タリシ「モロトフ」氏ニ御傳ヘ願ヒ度ク尙中立條約ハ今後一ケ年ノ效力ヲ有スルヲ以テ其間尙充分話合ノ機會アルヘシト述ヘタル處、大使ハ貴大臣ノ御氣持ハ御傳ヘ致スベシト同時ニ御話通

リ時日モアルコト故將來日「ソ」兩國間ニ起ル問題ニ付テハ充分意見交換ノ余猶アルヘシトノ意味ヲ述ベテ居タノデアリマス。

尙又其後佐藤大使ヘハ更ニ訓令ヲ發シ「モロトフ」カ桑港會議ヨリ歸國致シマスヤ直ニ中立條約問題等ニ付「モロトフ」ト會談ヲ遂クル様電報シタノデアリマスガ佐藤大使ハ去ル五月二十九日「モロトフ」ト會見致シタノデアリマス。其ノ際「モロトフ」ハ「ソ」聯ハ條約ノ不延長ヲ通告シタ後ト雖モ事態ニ變化ヲ來スモノテハナイト考ヘテ居ル、又此ノ點日本政府モ「ソ」聯政府ト同様ノ考ヲ持ツテ居ラレルモノト考ヘルト答ヘタ旨ノ報告力接到シテ居リマス。

右諸種ノ點ヨリ「ソ」聯ノ我方ニ對スル態度ハ一應中立維持ノ態度ト觀取セラルル次第デアリマスガ事態ノ變化ニ依ツテハ如何ナル態度ノ變更ヲ示スヤ計リ難イノデ注意ヲ怠ルヲ得ナイノデアリマス。

戰時ノ外交ハ戰局ノ推移ニ依リ左右セラルル處甚ダ大ナルモノガアリマス關係上萬一帝國ノ國力甚シク低下シ來ルガ如キ場合ニハ蘇聯モ亦帝國ニ對シ武力ノ壓迫ヲ加ヘ

或ハ又參戰シ敵米英トトモ自己ノ分ヶ前ニ預ラムトスルノ行動ニ出テ來ラストセス、從テ蘇聯ニ對シテハ目下極テ警戒ヲ要スル時期ニアリト申スヘキデアリマス即自分ト致シマシテハ極力對「ソ」關係ノ積極的打開ヲ計ル爲今後共萬全ノ努力ヲ盡ス覺悟デ御座キマス。

ニ、次ニ重慶問題デアリマス

重慶問題ニ付キマシテハ重慶ヲ含メタ支那トノ所謂全面和平ハ我方トシテ望マシイモノテアルコトハ、何人モ異論ノナイ所デアラウト考フルノデアリマス。

但シ此ノ問題モ、全般情勢就中戰局ノ推移如何ニ依テ支配サレル所カ多イコトハ當然デアリマスルシ、又特ニ今日ニ於テハ、重慶ノ動向ハ「アメリカ」トノ關係ニ依存スル所ガ極メテ大キイコトモ、否ムヘカラサル事實デアリマス。尤モ重慶ト致シマシテモ、内外諸般ノ情勢ニ鑑ミ、長ク日本トノ抗爭ヲ繼續スルコトニ付テハ、相當矛盾ノ惱ミヲ有ツテ居リマスコトハ、推斷ニ難カラサル所デアリマシテ、殊ニ内部ニ於テハ戰爭ガ長ビクニツレ、重慶ノ統制ヲ離レタ中共勢力ノ擴大ヲ見ツツアリマスコトハ、豫テ國內ノ統一ニ重キヲ置ク重慶ノ最モ好マザル

所テアリ、又外ニ於テハ「ア○メ○リ○カ」ノ勢力ガアマリニ
強○大○ニナリ過キルコトハ、重慶トシテモ、其ノ前途ニ對
シ、警戒セサルヲ得サルヘク、又自國領土殊ニ中南支ノ
重要都市カ米軍等ノ上陸ニヨリ荒廢ニ歸スルコトハ之レ
ヲ避ケタシトノ希望有シ居リ斯様ノ狀況カラ見マシテ重
慶今後ノ動向ハ最モ注視ヲ要スル所テアリマス。

右ニ關聯シ、茲ニ一ツ御紹介シテ置キマスコトハ、過般
南京主席代理陳公博氏ヨリ話ガアリマシタ重慶側ノ和平
問題ニ付テノ考案ナルモノテアリマス。陳公博ガ谷大使
ヲ通シ自分ニ申シ來レル所ニ依リマス、重慶側トシテ
モ、對日和平ノコトハ考ヘテ居ルノテアルガ、唯其ノ方
法ハ南京側ノ行キ方ト異リ米○國○ノ了解ヲ得テ之ヲナサン
トスル考案ナリトノコトデ又其ノ實行ハ今直ニトイフワ
ケデハナク將來適當ノ機會ヲ見テ米國ニ向テ提議セント
スルニアリトノコトテアリマス。右重慶側ノ和平意向ナ
ルモノハ、何レノ筋ヨリ出テタルモノナリヤ明カデアリ
マセンガ、右ニ關シテハ、先般蔡培大使ヨリモ、其ノ離
任歸國前、話ガアリマシタノデ、私ハ之ニ對シ、日本ト
シテハ支那トノ間ニ政治的ニハ互惠ヲ旨トシテ親善關係

ヲ確立セントスルモノテアツテ右ハ萬邦共榮ヲ旨トスル
帝國ノ根本方針ニ基クモノニ外ナラヌノテアルカラ、重
慶側ニ於テ、右日本側ノ考ニ同意スルニ於テハ、米○國○
了解ヲ得ルト否トニ拘ラズ、全面和平ノ途拓カルルニ至
ルヘク唯和平問題ニ關シ、今日迄ノ所、南京側ノ意向ハ
ヨク分リ居ルモ、重慶側ノ責任アル筋ノ眞ノ意向ハ充分
分リ居ラサルニ付、右ニ付確實ナル具體的情報ニ基イテ
話アラハ便利ナリトノ趣旨ヲ以テ、不取敢應酬シテ置イ
タノテアリマス。

三、重慶トノ和平問題ハ今日ノ重慶ト「アメリカ」トノ關係
等カラ見マシテ、單ニ日支間限リノモノトシテ之ヲ對米
英戰爭處理全般ノ關係ヨリ切離シテ解決スルコトハ極メ
テ困難ノコトト認メラルルノテアリマス。然シナカラ帝
國トシテハ此ノ際我方ノ抱懷スル大東亞諸國且ツハ全世
界ニ對シ抱懷スル公正ナル外交方針ヲ闡明シ單ニ重慶ノ
ミナラス米英ヲモ含メタル全世界ニ對シ眞ニ恒久的世界
平和ヲ招來スルノ大道ノ在ル所ヲ示スコトカ適當ト認メ
右ノ通り回答致シタ次第テアリマスカ今後益々之ヲ徹底
スル様ニ啓發誘導シテ參リマスコトハ極メテ必要ト認メ

ラレマスルノテ此ノ點ニ付テハ出來得ル限りノ努力ヲ拂
ツテ行キタイト考ヘテ居ルノテアリマス。

併シ乍ラ本政策ノ推進モ前ニ申述ヘタ諸般ノ情勢上必シ
モ事容易テナイコトヲツケ加ヘテ申上ケタイノテアリマ
ス



1017

昭和20年6月28日 東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

広田・マリク会談についての報告

本省 6月28日前8時00分発

第八四三號(館長符號、親展)

往電第七三〇號ニ關シ

「六月三日廣田元總理ハ強羅「ホテル」ニ「マリク」大使
ヲ往訪先ツ廣田氏ヨリ今次大戰中日「ソ」兩國力干戈ヲ
交フルニ至ラサリシハ誠ニ幸ナルカ「ソ」聯力絶大ナル
損害ニモ拘ラス遂ニ勝利ヲ以テ戰ヲ終ヘタルハ「ソ」聯
ノ爲慶賀ニ耐ヘス而シテ日本トシテハ變轉スル事態ニ於
テ亞細亞ノ安全ヲ希望シ「ソ」聯トノ間ニ其ノ基礎ヲ見
出ス次第ナリト切り出シ「マ」ハ今次大戰中平和ノ事態

ニ於テ任務ヲ遂行シ得タルヲ喜ブ只日本ニハ幾多外國筋
ノ影響ヲ受ケタル強力ナル政治勢力存在セルカ其ノ現狀
如何ト問ヘルヲ以テ元總理ハ伊藤公以來ノ對露提携論ヨ
リ説キ起シ現在ニ於テハ官民ヲ通シ一樣ニ「ソ」聯トノ
親善關係ヲ希望シ居レリト斷シ「マ」ノ質問ニ應シ昨年
特派使節問題ニモ言及セリ

ニ翌四日「マ」ノ夕食招待ニ當リ元總理ハ「ソ」聯ハ戰後
ノ復興ニ努力セラレ歐州ニ於テハ失地ヲ恢復セル上諸隣
國トノ關係改善ニ意ヲ用ヒ居ルト見ルヘキ處東方ニ付テ
ノ意圖モ又同様ナリト考ヘラル就テハ日「ソ」間ニハ中
立條約遵守セラレ居リ何等懸念ナキモ日本トシテハ右期
限内ニテモ友好關係増進ヲ希望シ其ノ形式ニ付テモ考慮
中ナリト考ヘラル所之ニ對スル「ソ」聯府ノ意嚮大体
ナリト伺ヒ度シト述ヘタルニ「マ」ハ「ソ」聯ハ終始一
貫平和政策ヲ遂行シ來レルニモ拘ラス獨ノ如キ國家アリ
タル爲今次ノ出來事生シタルカ東方殊ニ日本ニ對シテモ
同様ノ政策ニテ努力シ來レルモ反對勢力強カリシ爲所期
ノ成果擧ラス從テ一種ノ割切レサル感情、後味ヲ殘シ自
然不信任及安全欠如ノ感ヲ與ヘタル所之カ排除ノ具体案

アリヤト反問セリ之ニ對シ元總理ハ日本朝野ニハ「ソ」聯ノ態度漸ク正解セラレ來レルヲ以テ之ヲ機會ニ念願タル兩國關係ノ根本的改善ニ乘リ出シタル次第ナルカ御話ノ如ク過去ニ於テ好マシカラサル感情アリタリトセハ之カ排除ニ付「ソ」側ノ意嚮ヲモ伺ヒ其ノ方向ニ運ヒ得ヘク又「ソ」側カ桑港會議ニ於テ印度等ノ爲獨立ヲ主張シ居ル點其他モ結局日本カ東方ニ於テ行ヒツツアル所ト軌ヲ一ニス就テハ之等ノ點ヲモ加味シ相當長期例ヘハ二、三十年ニ亘リ兩國平和關係ノ持續スルカ如キ方法ヲ樹テ度キ次第ニテ日本トシテハ條約等ノ形式ハ問フ所ニ非スト云ヘルニ對シ「マ」ハ右カ私見ナリヤ政府ノ意嚮ナリヤト質シ元總理ヨリ日本政府及國民ノ意見ナリト了解アリ度キ旨ノ言明ヲ得タル後昨日ノ予備會談ニ續キ本日ノ會談ニ於テ大体具體的ニ御意嚮ヲ知リタルヲ以テ全体的ニモ部分的ニモ篤ト研究ノ上自分ノ意見ヲ述フヘキニ依リ若干ノ時日ヲ籍サレ度シト答ヘタルヲ以テ尙モ元總理ハ要ハ根本ノ考ヘサヘ決定セハ他ノ末節ノ問題ハ自然解決ヲ見出シ得ヘク現在コソハ根本問題ノ解決上絶好ノ機會ナリト考フル旨再三再四強調セリ

三、其ノ後先方ノ都合ニ依リ會談延ビ延ビトナリ居タルカ廿四日午後ノ會談ニ當リ元總理ヨリ前回申入レニ對スル「ソ」側ノ意嚮ヲ執拗ニ質シタルモ「マ」ハ發案者タル元總理ヨリ提案ト共ニ具體的意嚮ヲ伺ヒタル上ニテ本件會談ヲ本國政府ニ報告スルコト適當ナリトノ趣旨ヲ繰返ヘスノミニテ埒明カサルヲ以テ元總理ハ兩國從來ノ關係ニ鑑ミ國交改善ノ障害トナル虞アル諸問題ノ解決、滿州國トノ經濟的及政治的關係、支那ニ對スル兩國ノ態度ノ一致、南方物資ノ供給ニ付テモ日本政府ニ於テ「ソ」側ノ希望ヲ考慮スル用意アリ要スルニ東洋ノ眞ノ平和ヲ樹テル爲メ將來亞細亞ニ於ケル兩國ノ立場カ互ニ相響應スルカ如キ關係ヲ設定セントスルモノニテ「ソ」側ニ其ノ意嚮サヘアレハ容易ニ話合ツクヘシト考フ世間ニハ將來ニ於ケル「ソ」聯ノ對日態度ニ付未タ確信ヲ持タサル方面モアル折柄「ソ」側カ兩國間ニ中立條約以上ニ良好ナル取極メヲ爲シ又ハ一般的良好關係以上ニ日本ノ將來ニ對シ好意ヲ以テ見ル考ヘアリヤ之等ノ點ヲ此際明瞭ニシ置キ度進ンテ斯カル話ヲ提議シ居ル次第ナリト重ネテ其ノ見解ヲ叩キタル^(ニキ)「マ」ハ中立條約ハ期限滿了迄從來通

リノ役割ヲ演スヘキ處廣田氏ハ右滿了前ニ將來ニ付テノ意見ノ交換ヲ希望セラレ居ルモノト了解スルモ具体化ヲ要ストテ固執シ元總理ヨリ具体化トハ個々ノ問題ノ解決ナリヤ將又取極、條約等ノ形式ノ點ナリヤト問ヘルニ對シ双方ナリト答ヘ之ニ對シ元總理ハ如何ナル問題カアルカハ政府ニ付キ調ヘ得ヘク形式ニハ相互ニシキタリモアルベシト述ヘタリ尙同夜元總理招待ノ食事ノ際元總理ヨリ日本カ今後海軍力ヲ増強シ「ソ」聯ノ陸軍力ト併セハ世界無比ノ強サトナルヘク就テハ日本トシテハ「ソ」聯ヨリ石油ノ供給ヲ受ケ度ク之ニ對シ日本ハ「ゴム」、錫、鉛、「タングステン」等南方物資ヲ供給(積取りハ「ソ」側ニテスルコトトス)シ得ヘシト述ヘタルニ「マ」ハ右ハ海軍側ノ意見ヲ反映セルモノニテ日本陸軍ハ反對ナルヘシトカ(元總理ハ陸海共一致ノ意見ニテ國防省ニ統一ノ議論スラ存スル程ナリト説明ス)石油ハ「ソ」聯ニモ余裕ナシトカ言ヘモ結局研究スヘキ旨答ヘタリ

(ルカ)

尙頻リニ「ソ」聯カ平和ニ切替ヘヲ了セル旨口ニセルヲ以テ元總理ヨリ日本モ「ソ」聯ニアヤカリテ平和ノ早ク來ランコトヲ望ムト述ヘタルニ「ソ」聯ハ東洋ニ於テ交

戰國ノ地位ニ非サルヲ以テ其ノ平和ハ「ソ」聯ニ懸リ居ルモノニ非ス廣田閣下ノ方ヨク知ラレ居ルナラント述ヘタル趣ナリ

~~~~~

1018

昭和20年6月30日

東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

マリクに対し日ソ關係改善案の手交について

別電 昭和二十年六月三十日發東郷外務大臣より在

ソ連邦佐藤大使宛第八五三号

右改善案

本省 6月30日後5時00分發

第八五二號(緊急、館長符號)

往電第八四三號ニ關シ

廿九日廣田元總理ハ「マリク」ヲ往訪政府ノ依頼ニ依ル趣ヲ以テ兩國今後ノ關係ヲ律スル取極ノ骨子トシテ別電第八五三號甲ヲ又將來ノ兩國關係、滿州國又ハ其他ニ關スル問題ニ對スル我方ノ意嚮トシテ同電乙ノ書キ物ヲ交附シ大至急回答方申入レ置キタルカ「マ」ハ東亞ノ範圍、大東亞戰終了ノ時期、漁業權ト石油トノ關係ニ付質問ヲ試ミ廣田氏

ヨリ可然説明ヲ受ケタル後本國政府ヘ取次クヘキ旨約セル趣ナリ

我方トシテハ往電第七三〇號等ニテ御承知ノ如キ事情ニテ先方ノ態度ヲ可成ク速カニ出來得レハ七月初メ迄ニ承知シ度次第ナルニ付テハ貴使ニ於テモ「ソ」側ノ回答ヲ促進スル様充分ノ御配慮相煩度

(別電)

本省 6月30日後5時00分發

第八五三號(緊急、館長符號)

甲、

「日」「ソ」間ニ鞏固ナル永續の親善關係ヲ樹立シ東亞ノ恒久的の平和維持ニ協力スルコトトシ之カ爲日「ソ」兩國間ニ東亞ニ於ケル平和維持ニ關スル相互支持並ニ兩國間ニ於ケル不侵略關係ヲ設定スヘキ協定ヲ締結スルモノトス」

乙、

一、滿州國ノ中立化(大東亞戰爭終了後我方ハ撤兵シ、日「ソ」兩國ニ於テ滿州國ノ主權及領土ノ尊重並ニ内政

不干渉ヲ約ス)ヲ約シテ差支ヘナシ

二、漁業權ヲ石油ノ供給アレハ解消スルコト差支ヘナシ

三、其他「ソ」聯ノ希望スル諸案件ニ就テモ論議スルコト

差支ヘナシ

~~~~~

1019

昭和20年7月3日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

広田・マリク会談における日本側提案はソ連

側受入れ困難との見通しについて

モスクワ 7月3日後11時57分發

本省 7月7日後7時20分着

第一三三〇號(大至急、館長符號)

貴電第八四三號第八五二號及第八五三號ニ關シ

右貴電三日全部接到セルカ右ニ關スル本使感率直ニ左ニ申進ス

一、本件會談カ其ノ成否ハ別トシ兎モ角蘇側ノ態度ヲ打診セントスル爲ナラハ別ナルモ若シ然ラサルニ於テハ本件會談ハ全體的ニ蘇聯ノ對米英關係ハ素ヨリ現下ノ全世界の趨向ト反ノ合ハサル感ヲ抱カサルヲ得ス蘇米英ノ關係カ

各種ノ困難ナル問題ヲ包含シツツモ尙桑港憲章ノ成立波蘭臨時政府ノ改組其ノ他些細ナル事柄ニ於テモ逐次緊密化ノ一途ヲ辿リ居リ此ノ情勢ハ今後トモ依然繼續サルヘキモノト稱セラルル次第ハ累次往電ニ依リ申進ノ通ナリ而シテ獨逸敗退特ニ桑港憲章成立後ハ帝國ノミカ世界全般の平和回復ニ對スル唯一ノ障礙者トシテ世界輿論ノ指揮ヲ受ケントスル實狀ニシテ蘇聯カ右ノ事實ヲ前ニシテ米英トノ離反世界輿論ノ反感ヲ無視シテ迄モ帝國ノ戰爭繼續ヲ精神のニモ物質のニモ支持スルカ如キ結果トナル措置ニ出ツルヤ極メテ疑問ニシテ先ツ公平ニ判斷シテ無之モノト爲ササルヲ得ス

二、具體的ナル問題ニ付テ見ルニ不侵略協定ノ如キハ蘇側ニ於テ其ノ必要ヲ感シ居ラサルヘキノミナラス日本力對米英戰ヲ爲シ居ルノ故ヲ以テ中立條約ヲ廢棄シタル蘇聯カ改メテ不侵略協定ヲ締結スル筈ナカルヘシ滿洲國中立案ノ如キモ同様ノ見地ヨリ同斷ノ結論ニ到達スヘク殊ニ宋子文モ來莫シ蘇支關係ニ就キ協議シ居ル際此等諸問題ニ關スル蘇側態度ハ自ラ明カナルモノアルヘシ

三、總シテ今次會談内容ハ日蘇限リノ立場ニ立脚シ兩國間ノ

ミノ「ギブ、アンド、テイク」ノ方針ニシテ而モ夫力單ナル懸案解決ノ如キ小問題ノ範圍ヲ超ヘ米英乃至世界輿論ヘノ反動極メテ大ナルモノ丈ケニ蘇聯トシテハ到底應シ得サルモノト爲スヘシト察セラル

1020

昭和20年7月5日

東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

モロトフと至急会見し日ソ關係改善へ誘導方訓令

本省 7月5日後3時00分発

第八七五號(大至急、極秘、館長符號)

(マ)

宋子文ハ貴地に到着後「ソ」側ノ好遇ヲ受ケ切リニ「スターリン」等ト會談ヲ重ネ居ル模様ニテ其ノ結果近ク何等カノ條約ノ調印ヲ見ルヘク一部ニハ「ソ」ノ對日參戰モ近カルヘシトノ情報傳ヘラレ居リ他方「スターリン」及「モロトフ」ハ三國會談ノ爲近莫斯科ヲ出發スヘク兎ニ角對「ソ」關係ノ促進ハ現下帝國朝野ノ翹望スル所ナルニ就テハ貴使ハ右出發前ニ「モ」ト御會見ノ上往電第八五二號ノ趣旨ニヨリ我方ノ意圖スル所ニ「ソ」側ヲ誘導方極力御盡瘁相成度特ニ申進ス

1021

昭和20年7月6日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

満州国中立案による対ソ交渉は逆効果であり

当面事態注視方意見具申

モスクワ 7月6日後2時25分発

本省 7月7日後7時20分着

第二三三一號(館長符號、極秘、緊急)

貴電第八七五號、五日夜接到

宋子文來莫ニ付テノ觀察ハ既ニ二日發往電第一二九七號ヲ以テ申進シ置キタル所ニシテ殊ニ四日外蒙總理到着「モロトフ」以下蘇側代表者公式ニ之ヲ出迎ヘ獨立國總理ニ對スル待遇ヲ與ヘタル模様ヨリ考ヘ合スレハ外蒙ノ「ステータス」ニ關シ蘇支間ニ何等合意成リ近ク三國間條約調印セラルルニアラスヤト推察セラル右外蒙關係條約ニ對シ蘇側カ何物ヲ支那側ニ與ヘタリヤハ直接我方ニ至大ノ影響ヲ及シ得ル問題ナルモ未タ的確ニ之ヲ判定スヘキ情報ヲ入手スルニ至ラス

他方「スターリン」「モロトフ」等ハ十日頃當地出發伯林ニ赴クヘシト察セラレ宋トノ會談ハ其ノ直後迄繼續セラル

ヘキニ付事實本使ニ於テ出發前「モロトフ」ト會見スルコト困難ナルヘシ又假リニ會見可能ナリトスルモ全然時勢ノ趨向ニ副ハサル滿洲國中立案ヲ以テ臨ムハ何等ノ意味ナク我方ノ期待スルカ如キ反響ナカルヘキノミナラス却テ敵側ニ知レ巨リ彼等ノ氣勢ヲ昂クルニ役立ツコトナルノミナルハ疑ノ餘地ナシト信セラル右ニ付貴電第八五二號ノ交渉ハ猶ホ繼續ノ裕アラハ從來ノ筋途ニテ之ヲ續ケラルル方可然シト思考セラレ國內ノ焦燥氣分モ充分察セラレサルニアラサルモ當方トシテハ事件ノ發展ヲ注視スルニ止メ蘇支交渉ノ出來榮エヲ探知スルニ全力ヲ傾クルコトト致度但シ宋子文離京後本使ニ於テ「モ」トノ會見ニ努力スヘキハ勿論ナリ

~~~~~

1022

昭和20年7月9日

東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

モロトフとの會見実行方再訓令

本省 7月9日後5時00分発

第八八四號(緊急、館長符號)

貴電第一三三〇號及第二三三一號ニ關シ

御意見ハ左ルコト乍ラ此ノ際ハ往電第八七五號訓令ヲ御實行アリ度

1023

昭和20年7月9日  
東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

対ソ交渉の端緒として満州国中立化案の提議

方訓令

本省 7月9日後7時00分発

第八八五號(緊急、館長符號)

往電第八八四號ニ關シ

「ソ」聯トシテハ今日對日關係ヲ根本的ニ考慮スヘキ時機ニ到達シ居レル處對支對米關係上ヨリ云フモ「ソ」聯自体ノ滿州問題ニ對スル希望ヨリ云フモ日本ノ對滿政策ニ關心ヲ有スルコトハ明ナレハ滿州中立化問題ノ提議ハ「ソ」聯ヲ引出シテ我方トノ話合ニ上ラシムル基因タリ得ヘク右ハ何レニスルモ我方提議ハ獨リ本問題ニ止マラス他ノ問題ニテモ「ソ」側カ希望スルニ於ハ論議ニ應セントシ居ル次第ナル付右御含ノ上此上トモ御努力アリ度結果回電アリ度

1024

昭和20年7月11日  
在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

広田・マリク会談における日本側提案に対し速やかに回答を得た旨ロゾフスキーへ申入れについて

モスクワ 7月11日前1時55分発  
本省 7月12日前8時00分着

第一三六四號(館長符號、緊急)

往電第一三三三號ニ關シ

十日午後九時「ロゾフスキー」ニ會見先ツ本使ヨリ去ル六月三日以降強羅ニ於テ廣田前總理「マリク」大使間ニ會見行ハレ同月末迄繼續セル趣ハ事後ニ於テ本使モ承知シタル處右會見ト目下莫斯科ニ於ケル宋子文ト蘇聯政府間ノ會見ノ間ニ如何ナル關聯アリヤヲ承知セサルモ日本政府トシテハ廣田「マリク」間會談ニ對シナルヘク速ニ蘇聯政府ヨリノ回答ヲ期待シ居レリト申入レタル處

「ロ」ハ貴大使ノ言ハルル日本ニ於ケル會談ト宋子文來訪トノ間ニハ何等關係ナシ曩ニ桑港會議ノ際宋子文ヨリ莫斯科ヲ訪問シ蘇支兩國關係ニ付話合ヒタキ希望ノ申出アリ蘇

聯側ニ於テ之ニ承諾ヲ與ヘ置キタル結果今回ノ來訪トナリタル迄ニシテ兩國ハ隣接國ニモアリ長キ國境線ヲ有スル關係上種々相互間ニ解決ヲ要スル問題アルハ當然ノコトニ屬シ殊ニ先方ヨリ善隣關係増進ノ希望ニ付申出アリタルコトナレハ蘇側トシテモ當然此等ノ問題ニ關スル會談ヲ承諾シタルモノナリト答ヘ更ニ廣田氏ヨリノ申出ニ對シテハ自分ノ承知スル限り蘇聯政府ニ於テハ未タ充分審議シ居ラスト思ハルモ本日貴大使ヨリノ御申出ハ之ヲ政府ニ傳ヘ何分ノ回答ヲナスコトトスヘシト言ヘリ

依テ本使ハ實ハ外國ノ新聞「ラヂオ」等ニテ宋子文ノ使命ニ就キ種々噂セラレ或ハ滿洲國問題、大東亞戰爭問題等ニモ關係アル如ク取沙汰セラレ居ル始末ニテ本使トシテモ或ハ此等ノ問題ニ付論議重ネラルルヤニ想像シ居リタリト述ヘ先方ノ氣配ヲ窺ヒタル處「ロ」ハ新聞等ノ取沙汰ハ一々取上クルニ値セス貴大使トノ間ニモ既ニ新聞報道ノ當テニナラスコトニ付テ話合ヒタルコトアルヲ想起ストテ兩國會談カ日本ニ關係ナキ次第ヲ仄カセリ本使ハ貴代理ノ本日ノ御説明ハ日本政府ニ取り好キ參考トナルヘシト述ヘ更メテ蘇聯政府ノ迅速ナル審議ヲ希望シ且同政府ノ回答ハ事ノ筋

途ヨリ考ヘ東京ニ於テ廣田氏ニ與ヘラルル様希望スルモ蘇側ニ於テ本使ニ對シ回答セラルル様ナラハ勿論本使ヨリ東京ヘ取次クヘク何レニスルモ東京政府ハ速カナル回答ヲ望ム旨附言シ置キタリ

「ロ」ハ政府ノ回答カ如何ナルモノナリヤハ勿論豫言シ難キモ迅速回答方ニ付テハナルヘク貴意ニ副フ様取計フヘシト答フ

本日ノ會見中本問題ニ關スル部分ハ大要以上ノ通りナル處去ル九日「ロ」カ外務部ニ登廳セサリシハ其ノ前日曜ヲ利シ過度運動シタル爲暑氣當リヲナシタル結果ト判リ本使ノ想像シタル如ク宋子文トノ會見ニ忙殺セラレタル模様ニ見受ケラレス又彼カ宋トノ會談ヲ蘇支兩國關係ノ問題ナリト述ヘタル口吻モ極メテ自然的ニテ殊更ニ無事ヲ裝ヒ一時ヲ糊塗セントスル氣配モ見受ケラレス右ノ次第ニ付今回會談ハ或ハ兩國間經濟交易問題等ニ主眼ヲ置クモノナルヤモ圖レス宋子文隨員ノ顔觸ヨリ見ルモ斯クアルヘキカト考ヘラレサルニアラス以上不取敢ノ觀測トシテ申(以下ハ語脱)會見方申入レ置キタリ

昭和20年7月11日

東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

## 和平斡旋に対するソ連側意向探查方訓令

本省 7月11日午後3時00分発

第八九〇號(緊急、館長符號、嚴祕)

往電第八八四號ニ關シ

帝國内外ノ情勢逼迫シ戰爭終結ニ就テモ内密考慮セラレ居ル次第ナルニ依リ往電第八五二號ノ會談ハ日「ソ」關係ノ緊密化ヲ目的トスルニ止ラス戰爭終結ニ對シテモ「ソ」聯ヲ利用シ得ル限度ヲ打診セントスルモノナリ

我方提案中ニ長期ニ渉ル平和維持ニ相互支援ヲ約セントセルハ右ニ關スル「ソ」聯ノ對日態度ノ打診ニモ利用セムトスルモノニシテ漁業權ノ放棄ハ「ポーツマス」條約ノ修正トシテ「ソ」側ノ關心ヲ有シ満足ヲ以テ迎フル所ナルヘク又其ノ他ノ事項ニ付論議ニ應セントスルハ大幅ニ「ソ」側ノ要望ニ「ミート」セントスルモノナルコトハ往電第八八五號記載ノ通ナリ從テ廣田「マリツク」交渉ハ協定ノ成立ヲ希望スルハ勿論ナルモ他面「ソ」聯ヲ戰爭終結ニ如何ニ利用シ得ヘキカヲ打診セントスルモノニシテ右ニ關スル

「ソ」聯政府ノ意嚮ヲ急速承知シ度キ次第ニシテ宮中ニ於カレテモ此點ハ一方ナラサル御關心ヲ有セラルル義ナルニ付宋子文ノ滞在如何ニ係ラス大至急「モロトフ」ニ面談セラレ前記ノ事情御含ミノ上成ルヘク先方ノ意嚮ヲ突キ止メ

至急回電セラレ度

御如才ハナキモ右「ソ」側トノ會談ニ於テハ我方ノ意圖カ「ソ」側ヲ戰爭終結ニ利用セントスルニ在ルカ如キ印象ヲ與ヘサル様御留意アリ度

~~~~~

昭和20年7月11日

東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

戰爭終結にあたって占領地域の併合または領有を意図せずとの日本側立場につき説明方訓令

本省 7月11日午後7時00分発

第八九一號(緊急、館長符號)

往電第八九〇號末段ノ次第アルモ此際戰爭終結ニ關スル我方ノ一般的态度ヲ「ソ」聯側ニ明カニシ置クコト適當ナリト認メラルルニ付

「我方トシテハ東亞ノ平和維持ハ世界平和維持ノ一環トシ

テ考慮シ居リ戦争終結ニ對スル觀念トシテ帝國ハ恒久平和ノ樹立及維持ヲ希念スル見地ヨリ戦争ノ結果トシテ占領地域ヲ併合又ハ領有スル考ヘハ毛頭無之」次第ナル旨冒頭電ノ趣旨ト併セテ説明セラレ「モロトフ」ノ此レニ對スル應酬振至急回電アリ度シ

尙「モ」トノ會談ハ一兩日中ニモ行ハレ度

~~~~~

1027

昭和20年7月11日  
在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

### 広田・マリク会談における日本側提案への回

#### 答督促について

モスクワ 7月11日後10時10分発  
本省 7月13日後4時00分着

第一三七九號(緊急、館長符號)

昨十日「ロゾフスキー」トノ會見直後「モロトフ」ニ短時間ノ會見ヲ申入レ置キタル處十一日午後ニ至リ五時ニ御待スヘキ旨回答アリタルニ依リ同時刻往訪先ツ本使ヨリ會議ノ爲出發前御多忙ノ際ニ拘ラス會見ノ機會ヲ與ヘラレタルヲ謝シタルニ對シ「モ」ハ昨日特ニ御希望ノ趣ヲ知リタル

ニ依リ多忙ナルハ事實ナルモ差繰リ御會ヒセリト答フ次テ左ノ通り應答ヲ重ヌ

「宋子文來訪ノ件

佐藤、本日は非御會ヒシタシト考ヘタルハ宋子文來訪ノ件ニテ現ニ御交渉中ノ問題ニ關シ蘇聯政府ニ御尋ネスルハ頗ル無遠慮ノ嫌アルモ何分現下ノ蘇支會談ハ直接日本ニ關係アル次第ニ付御出發前貴委員ニ依リ御説明ヲ得タシト考フ外國ノ「ラヂオ」新聞等ハ宋子文來訪ヲ以テ滿洲問題ニ關係アリトシ或ハ又蘇聯ノ極東戰爭參加ヲ速カナラシムヘシ等トノ報道ヲ爲スモノアリ日本側ニ不安ヲ與ヘ居レリ

「モ」、貴大使ハ昨日日本問題ニ付「ロゾフスキー」ト話シ其ノ内容簡單乍ラ報告ニ接シ居レリ當日「ロ」ヨリ申上ケタル處ヲ其ノ儘本委員ニ於テ確認シ得ヘシ「ラヂオ」新聞等ハ正確ヲ期シ難ク矛盾モ多々アリ  
今問題ヲ直接検討センニ宋ノ來訪ニ付テハ最近諸大國何レモ其ノ代表者ヲ莫斯科ニ送リタルニ拘ラス支那ノミハ久シキ以前ヨリ其ノコトナク今回宋ノ來訪ヲ以テ始メテノコトトス蘇支間ニハ問題鮮カラス蘇支双方ヨ

リ各種ノ問題ニ付註文アル譯ニテ我々ノ最モ關心ヲ有  
スル諸問題ヲ解決シ兩國關係ノ改善ヲ圖ラントスルナ  
リ現在ノ處兩國間ノ關係ニハ圓滑ヲ缺クモノ鮮カラス  
宋ノ來訪ハ此等諸問題ノ調整ヲ可能ナラシムルニ便ス  
ヘシ但シ會談ハ猶繼續中ニテ未タ何等解決ヲ見ルニ至  
リ居ラス

佐藤、御出發前總テ解決ヲ見得ヘキヤ又ハ御出發後迄繼  
續セラルヘキヤ

「モ」、懸案中ニハ容易ナルモノアリ又困難ナルモノアリ  
本委員等出發後迄延引スル可能性アリ又會議後迄續ク  
ヤモ知レス現在ノ處的確ニ知リ難シ

二、廣田「マリク」會談ニ關スル件

佐藤、貴委員ニ於テ既ニ御承知ノ通り強羅ニテ廣田「マ  
リク」間ニ意見交換行ハレ其ノ際廣田氏ヨリ若干ノ意  
圖ヲ述ヘ更ニ六月二十九日同氏ヨリ「マ」ニ日本政府  
ノ意圖トシテ一案ヲ示セリ本件ニ付テハ日本政府ニ於  
テ速ニ蘇聯政府ノ意嚮ヲ承知シ度希望シ居レリ本問題  
ハ右會談終了後本使ニ於テ承知シタル譯ニテ本使以外  
ニテ立案セラレタルモクナルカ故ニ本使ハ直接ノ責任

者ニアラサルモ日本政府ノ意圖ハ簡單且明瞭ニシテ日  
蘇關係ノ改善増進ヲ欲スルモノナリ右ニ就キ貴委員ヨ  
リ何等蘇聯政府側ノ見解ヲ承知シ得レハ幸ナリ本件ニ  
付テハ昨日「ロ」トモ話シタルコトナルカ本日更メテ  
貴委員ニ申入ルル次第ナリ

「モ」、御話ノ問題ニ付テハ「マリク」ヨリ簡單ニ電報シ  
來リタルノミニテ詳細ハ郵報ヲ送ル筈ナリ其ノ詳報ニ  
接スレハ廣田氏申出ノ内容及性質一層明瞭トナリ得ヘ  
シト考フ本日迄ニ接手ノ短キ報告ニテハ日本側ノ具體  
的意圖ニ付明カナル印象ヲ受クルヲ得ス詳報ニ接シ度  
ク考ヘ居レリ

佐藤、廣田氏ノ説明ハ簡單明瞭ナルカ故ニ貴委員ノ既ニ  
受ケラレタル短キ報告ノミニテモ充分御了解可能ナル  
ヘキヲ信ス日本政府ノ意圖スル所ハ要スルニ日蘇間永  
續の親善關係ノ樹立東亞ノ恒久的平和維持ニ關スル協  
力ニアリテ此ノ目的ノ爲ニ兩國間ニ何等協定ヲ遂ケ出  
來得レハ兩國間不侵略協定ニモ及ハントスルモノナリ  
而シテ日本政府トシテハ以上ノ目的達成ヲ容易ナラシ  
メンカ爲滿洲國ノ中立化ヲ提議シ戰後ノ撤兵及日蘇兩

國ニ依ル主權ノ尊重及不可侵ヲ保障セントスルモノニシテ更ニ廣田氏ハ石油ノ供給ト引替ニ漁業權ノ廢止ニモ言及シ且日本政府ニ於テ蘇聯政府ノ提起スルコトアルヘキ他ノ諸問題ニ付テモ檢討スヘシト云フニ歸着ス今貴委員ニ於テ詳報ヲ待タントスル事情ハ諒解シ得ルモ廣田氏ノ提議ハ以上ノ如キモノナレハ今直クニテモ了解困難ナラサルヘシ依テ蘇側ニ於テ此ノ基礎ノ上ニ意見交換ニ御同意ナラハ廣田氏若クハ本使ニ對シ其ノ旨回答セラレタク何レニスルモ急速御返事ヲ得タシ「モ」、貴大使自身最初本問題ニ關與セラレサリシトコトナリシニアラスヤ

佐藤、直接自身ノ參與ナク本問題提起セラレタル意味ニテ申上ケタル次第ナルモ日本政府ノ意圖其ノ物ハ結構ノコトニテ本使モ同感ヲ表スルモノナリ依テ蘇聯政府側ニテモ此ノ「アイデア」ニ贊同セラレンコトヲ希望ス

「モ」、日本案ヲ慎重研究シ意見ヲ定ムルコトトスヘク「マリク」ヨリモ間モ無ク詳報到着スヘキニ付其ノ上ノコトトシタシ

佐藤、然ラハ會議ヨリ御歸還後更ニ話ヲ續クルコトト致度シ

「モ」、夫レ迄ニハ多分「マ」ヨリノ報告ニ接スヘシ

以上ニテ會談ヲ終リ辭去ス所要時間約二十分尙「モ」ハ三國會議ニ關シ明確ニハ言ハサリシモ十五日頃開催ノ豫定ト言ヘリ



1028

昭和20年7月12日 東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

ソ連側に対し天皇メッセージの伝達及び近衛

特派派遣申入れ方訓令

本省 7月12日後8時50分発

第八九三號(緊急、館長符號)

往電第八九一號其他ニ關シ

「モロトフ」トノ會談電報ニ接セス從テ偵察充分ナラスシテ兵ヲ進ムル嫌アルモ此際更ニ歩武ヲ進メ三國會談開始前ニ「ソ」側ニ對シ戰爭ノ終結ニ關スル大御心ヲ傳ヘ置クコト適當ナリト認メラルルニ付テハ左記趣旨ヲ併セ直接「モロトフ」ニ説明セラレ度

「天皇陛下ニ於カセラレテハ今次戦争カ交戦各國ヲ通シ國民ノ慘禍ト犠牲ヲ日々増大セシメツアルヲ御心痛アラセラレ戦争カ速カニ終結セラレムコトヲ念願セラレ居ル次第ナルカ大東亞戦争ニ於テ米英カ無條件降伏ヲ固執スル限り帝國ハ祖國ノ名譽ト生存ノ爲一切ヲ擧ケ戦ヒ抜ク外無ク之カ爲彼我交戦國民ノ流血ヲ大ナラシムルハ誠ニ不本意ニシテ人類ノ幸福ノ爲成ル可ク速カニ平和ノ克服セラレムコトヲ希望セラル」

尙右大御心ハ民草ニ對スル仁慈ノミナラス一般人類ノ福祉ニ對スル御覺召ニ出ツル次第ニシテ右御趣旨ヲ以テスル御親書ヲ近衛文麿公爵ニ携帶セシメ貴地ニ特派使節トシテ差遣セラルル御内意ナルニ依リ右ノ次第ヲ「モロトフ」ニ申入レ右一行ノ入國方ニ付大至急先方ノ同意ヲ取附ケラルル様致サレ度(右一行ノ氏名ハ追テ電報スヘシ)尙又同使節ハ貴地首腦部カ三國會談ニ赴ク前ニ貴地ニ到着スルハ不可能ナルモ其ノ歸國后ハ直ニ面談ノコトニ取運フ要アルニ付成ルヘク飛行機ニヨルコトト致度先方飛行機ヲ滿州里又ハ「チチハル」迄乘リ入ルル様御取計ヲ得タシ



1029

昭和20年7月12日

東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

特派派遣の申入れは絶対極秘とすべき旨ソ連側へ伝達方訓令

本省 7月12日 前11時20分 発

第八九四號(緊急、極秘、館長符號)

往電第八九三號ニ關シ

本件申入レニ付テハ絶対極秘トセラルル様先方へ申傳へ相成度右御如才ナキコトトハ存スルモ爲念



1030

昭和20年7月12日

在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

日ソ關係強化にソ連側熱意なく日本はソ連の参戦阻止に全力を傾倒すべしとの意見具申

モスクワ 7月12日 後11時49分 発

本省 7月14日 後3時00分 着

第一三八一號(緊急、館長符號)

往電第一三七九號ニ關シ

「貴電第八八五號ハ「モロトフ」トノ會見直前ニ接到依テ

御申越ノ趣旨ヲ体シ應答ニ努メタリ然ルニ廣田「マリク」會談ノ件ニ付テハ「ロゾフスキー」ハ蘇聯政府ニ於テ審議未了ナリト言ヒ「モロトフ」ハ「マリク」ヨリノ詳報ヲ待ツテ研究ノ上回答スヘシト云ヒ一向熱意ヲ示ササル點ニ於テ兩人ノ態度一致シ居リ我方トシテ取付ク余地ヲ見出し得サル有様ナリ右ヲ公平ニ見テ蘇聯ノ態度トシテハ當然ノコトニテ別段不思議トナスニ足ラサル次第ハ屢次ノ拙電ニテ具申ノ觀察ニ依リテモ予見セラレタル所ナリ米英蘇ハ同盟關係ニアル上桑港會議以來益々米英蘇ノ鞏固ナル協力ヲ主張スルニ至レル當國トシテ我方申出ニ對シ同調シ來ル理由ハ如何ニ臆目ニ考フルモ有り得サル所ト言ハサルヘカラス

ニ、加之本土ヲ中心トスル戰局ノ現狀ニ於テハ蘇聯ノ躊躇ハ當然ノコトトナサルヲ得ヌ彼ノ目ニハ日本自体ノ存立カ既ニ大ナル危險ニ瀕シ居レリト他映ラサルヘク日本ハ究極ニ於テ米英ノ進攻ニ堪ヘサルヘシトナスノミナラス日本ニ對スル生殺與奪ノ權ハ完全ニ自己ノ手中ニ收メアリトサヘ信シ居ルヘシ「モ」始メ本使等ノ接觸スル蘇聯要人等ノ態度ニハ未タ露程モ傲岸ノ風見エサルモ大勝ヲ

博シタル彼等ノ心中ニハ斯ノ如キ信念ノ潜在スヘキコト怪シムニ足ラス

貴案ニ所謂日蘇兩國ニ依ル東亞ノ平和維持上ノ協力モ將又滿洲國中立法ノ問題モ皆日本乃至滿洲國ノ存續ヲ前提トシ其ノ基礎ノ下ニ考ヘラルル問題ナルハ當然ノコトナリトシテ併モ日本自体ノ存立カ蘇聯ニ取り問題視セラルルコトカ現在ノ如シトセハ案其ノモノノ根底ヲ覆サルル結果ニ陥ラサルヲ得ヌ併シテ日本政府自体自國ノ將來ニ對スル懸念ニ動搖ヲ來タスニ至リタレハコソ貴案ノ如キ構想ノ下ニ無理ニモ蘇聯ト接近ヲ圖ラントスルモノニシテ此ノ事情ハ蘇聯要人ノ見逃ス筈ナキ所ナリ即チ貴案ノ如キ申出ヲナスコトニ依リ益々自己ノ不安ヲ如實ニ露出シテ却テ蘇聯ノ自信ヲ高メシメ我ノ申出ニ應セサラシムル結果ヲ招來スルハ蓋シ當然ノ成行キト云ハサルヘカラス加之蘇聯ヨリスレハ根底確實ニモアラサル日蘇關係ノ增強ハ彼ニ取りテハ直ニ蘇米關係ノ斷絶ヲ意味スル結果ナルニ於テ彼ノ受諾ヲ得ルコト到底不可能事ニ屬スルコト多言ヲ要セスシテ明カナリ

三、本使トシテハ戰局ノ急迫今日ノ如クナルニ於テ蘇聯ノ蹶

起ハ直ニ我ヲ滅亡ニ導クヘキヲ信スルモノニシテ軍事當局ハ或ハ自己ノ立場上告白ヲ困難トスルコトアリ得ヘキモ右ノ危険ハ特別ノ軍事智識ヲ要セスシテ明瞭ナリ此ノ故ニ我ハ蘇聯ヲシテ立タシメサル事ニ全力ヲ傾倒スヘク幸ヒニシテ之ニ成功セハ夫レ丈ケ我ノ生存保障セラハヘク夫レ以上ハ自力ヲ以テ自己ノ生命ヲ全フスルニ努ムル他ナシ然ルニ蘇聯ヲ自己ノ同盟國ニ離反セシメテ迄モ我ヲ陣營ニ引込マントスル如キ考ハ強ヒテ不可能ノコトニ望ミヲ囑セントスルモノニ過キス一般國民ハ過去ノ日蘇關係若クハ現下ノ世界情勢ニ付充分知ラシメラレサルカ故ニ不可能事ニ希望ヲ懸クルハ無理カラサルコト乍ラ之等ノ要望ハ日蘇關係ノ現實ニ於テ到底取上ケ得サル所ナリトスヘシ

四、宋子文ノ活動ニ付テハ十日十一日ノ「ロ」及「モ」ノ言ニ依リ略々其ノ外廓ヲ明カニシ得タル感アリ蘇支會談今尙續行中ニテ未タ纏リタルモノナク多少ニテモ長引ク氣配見ユルハ國共和平合作等ノ問題ニ關シ合意ニ達セントシ居ルコトモアルヘキモ或ハ兩國交易問題等ニテ交渉延引シ居ルニアラスヤト察セラル尤モ近ク協定成リ兩國間

親善増進ヲ強調スルカ如キコトアリ得ヘシトシテ當初本使ノ私カニ惧レタル如ク「スターリン」ノ出發前急遽政治條約ヲ締結發表シ完全ニ日本ヲ孤立無援ニ陥ラシメル如キ懸念ハ今日ノ所一先解消シタリト見テ誤ナカルヘキヤニ思考セラレ漸ク一難去リタル感ヲ深クス  
尙「モ」及「ロ」ノ我方ニ對スル態度應接振等常ト變ル所ナシ



1031

昭和20年7月12日

在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

日本側が戦争終結への決意を示さざる限り対  
ソ交渉の進展は期待し得ずとの意見具申

モスクワ 7月12日午後11時25分発

本 省 7月14日午後3時00分着

第一三八二號(緊急、館長符號、嚴秘)

貴電第八九〇號及第八九一號ハ十二日往電第一三八一號發電直後接到セリ

貴電ノ御趣旨ハ戦争終結ニ關シ蘇聯ヲ利用シ得ル限度ノ打診ニアリト拜察セラルル處本使ノ忌憚ナキ意見ニ依レハ貴

電第八八五號ノ如キ基礎ニ於テハ蘇聯ヲ我方ニ引付けケ我方ノ話ニ上ラス餘地絶無ト申スモ過言ニアラス右ハ當國ノ外交方策ニ全然背馳シ居ル結果ナルコト數次ノ拙電ニ詳述セル通りナリ況ヤ右ノ如キ基礎ニ於テ戰爭終結ニ關シ蘇聯利用ノ程度ヲ打診セントスルモ其ノ目的ヲ達成シ得サルコト往電第一三七九號會談ノ經過ニ徴シ明白ナリ

更ニ貴電第八九一號ノ説明振ニ至リテハ机上ノ美句ト申ス他ナク「東亞ノ平和維持ハ世界平和維持ノ一環トシテ考慮」トアルモ米英ハ日本ノ手ヨリ東亞ノ平和維持權ヲ奪ハント企圖シ居ルモノニシテ日本本土サヘ危殆ニ陥リタル現狀ニ於テ日本ハ最早全東亞ノ平和維持責任者ノ地位ニアラサルヲ如何セン

<sup>(2)</sup> 將又帝國ハ「占領地域ヲ併合又ハ領有スル考ハ毛頭是ナシ」ト言フモ既ニ「ビルマ」「ヒリツピン」ヲ失ヒ本土ノ一部冲繩サヘ敵手ニ委シタル日本カ既ニ失ヒ若ハ失ハントシツツアル占領地域ノ非併合又ハ非領有ヲ云爲スルモ幾何ノ反響アルヘキヤ

蘇聯當局ノ考方ハ夙ク御承知ノ通り現實的ニシテ抽象論ニテハ彼等ヲ動かスコト難シ況ヤ内容空虚若ハ事實ニ遠サカ

リタル美句ヲ連ネテ彼等ヲ説得セントスルモ到底彼等ヲ首肯セシムルニ足ラス現ニ貴電第八五三號ノ案ニ對シテモ「モロトフ」ハ殆ト何等ノ興味ヲ感シ居ラス又拒否ニ等シキ回答ヲ爲セリ若シ帝國ニシテ眞ニ戰爭終結ノ必要ニ迫ラルルトセハ先ツ自ラ戰爭終結ノ決意ヲ爲ササルヘカラス其ノ決意ナクシテ蘇聯ノ意嚮ヲ打診セントスルモ何等益スル所ナシ敵空襲加速度ニ激化シツツアル今日猶帝國ニ抗戰ノ餘力アリヤ幾十萬ノ壯丁幾百萬ノ無辜ノ都市住民ヲ犠牲ニシテ猶抗戰ノ意義アリヤ

<sup>(3)</sup> 之等ノ重大問題ニ關シテハ本使等ハ我軍需生産ノ現狀ニ就キ適確ノ報道ヲ有セサルカ故ニ適正ナル判斷ヲ下シ得ル地位ニアラス況ンヤ六月初旬開催ノ御前會議ニ於テハ積極の方策ノ決議ヲ見タリト仄聞シアリ萬一右會議後ノ戦局進展ニ依リ我方極端ニ不利ノ狀況ニ陥リタル如キコトアリト假定セハ其ノ場合宜數ク政府ニ於テ重大決意ヲ遂ケラルヘク其ノ上ナラハ或ハ蘇聯政府ヲ動かシ戰爭終結ヲ斡旋セシムル望ミ絶無ナラサルヘシ但シ右ノ場合我方ノ直面スル結果ハ無條件降伏ニ近似スヘキコト疑ノ余地ナキ所ナリトス以上ハ極メテ忌憚ナキ意見ヲ吐露セルモノニシテ言辭卒爾

ニ亘リタル段御容赦ヲ願フノ外ナキ處懼レ多キコト乍ラ宮中ニ於カセラレテモ一方ナラス御關心ヲ有セラルル趣洩レ承リ恐懼且斷腸ノ思ヒニ堪ヘス然リ乍ラ國際間ノコトハ容赦ナキ現實ニ直面スルヲ余儀ナクセラルル次第ナレハ右ノ現實ヲ其ノ儘貴方ニ御移牒申上ケ現實ニ遠サカリタル幻想ヲ防止スルコト本使第一ノ責任ト信シ以上申進スル次第御了承ヲ仰ク

~~~~~

1032

昭和20年7月13日 東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

特派派遣に關しマリクへ便宜供与方依頼について

本省 7月13日後7時30分發

第八九八號(緊急、館長符號)

往電第八九三號ニ關シ

本大臣ヨリモ「マリツク」大使ヲ召致シ特派派遣ノ件ヲ申入レ置クコト適當ナリト認メタルモ「マ」病氣引籠中ナル爲安東政務局長ヲ病床ニ派シ 天皇陛下力戰爭ノ終結ニ關スル大御心ヲ述ヘラレタル御親書ヲ近衛公爵ニ携帶セシメ莫斯科ニ差遣セラレ度次第ナルニ付貴大使ヨリモ「ソ」政

府ニ申入ルヘキカ「マリツク」大使ニ於テモ便宜供與アリ度旨申入レシメ置キタリ右ニ對シ「マ」ハ直ニ政府ニ電報スヘキ旨ヲ約セリ

~~~~~

1033

昭和20年7月13日 在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

天皇メッセージの伝達及び特派派遣申入れに  
關する訓令電の接到について

モスクワ 7月13日後2時05分發  
本省 7月14日後3時00分着

第一三三三號(緊急、館長符號)

貴電第八九三號十三日午前一時接到セリ十一日「モロトフ」ニ面會ノ直後ニモアリ且同人ノ伯林向出發期日甚シク差迫リ居ルモ御訓令ノ趣旨達成ニ最善ヲ盡スヘシ右不取敢尙萬一直接面會ヲ得サル場合ニモ「モ」ノ三國會議へ出發前聖旨ヲ傳フル様致スヘシ

~~~~~


1034

昭和20年7月13日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

天皇メッセージ及び特使派遣の申入れをモロ

トフヘ伝達方依頼について

モスクワ 7月13日後10時40分發

本 省 7月14日後7時00分着

第一三八五號(大至急、館長符號)

往電第一三八三號ニ關シ

早速「モロトフ」ニ面會ヲ申込ミタルモ如何ニスルモ都合付キ兼ヌルニ依リ「ロゾフスキー」ニ用向傳ヘラレタキ旨返事アリ仍テ十三日午後五時「ロ」ニ面會シ貴電第八九三號ノ聖旨ヲ露文ニ認メ之ニ「モロトフ」宛「コンフィデンシアル」ノ本使ヨリノ書面ヲ添附シタルモノヲ「ロ」ニ差出シ其ノ一讀ヲ經テ「モロトフ」ニ至急轉交方依頼セリ右書面ニハ貴電中ノ近衛公爵御差遣ノ御内意ヲモ併セ記載シ同公爵ノ來訪ニ對シ蘇聯政府ノ同意ヲ求ムル旨竝ニ同意ノ場合飛行機提供等ノ便宜供與方併セテ依頼セリ
尙本使ヨリ今回ノ特派使節ハ從來再三回ニ亘リ「モロトフ」ニ申入レタル特使トハ全然其ノ性質ヲ異ニシ今回ハ特ニ陛

下ノ御内意ニ依リ派遣セラルルモノナル點蘇聯政府ニ於テ特ニ含ミ置カレタキ旨申入レ且日本政府ニ於テハ本件ニ對スル蘇側ノ主義上ノ同意丈ニテモ急キ承知シタキ希望ナルニ付出來得レハ「モ」ノ出發前回答ヲ得度ク右特使ハ蘇側當局カ伯林ヨリ歸來次第ナルヘク速ニ會見ノコトニ取運ヒ度キ希望ナル旨附言セリ

「ロ」ハ今回ノ日本皇帝ノ「メッセージ」ハ蘇聯政府ノ何人ニ宛テラレタルモノナルヘキヤト質問シタルニ付本使ハ今回ノ「メッセージ」ハ陛下ノ御内意ヲ御傳スル趣旨ニ付特ニ宛先ヲ指定シアラサル次第ナルモ蘇聯ノ首班タル「カリニン」氏及人民委員會議長「スターリン」氏「モロトフ」氏ヘ御傳願ヒタシト答ヘ置ケリ「ロ」ハ更ニ日本政府ニ於テ御急キノ次第ハ了解セルニ付ナルヘク御希望ニ副ヒ會答ヲ促進シタキモ何分政府ノ一部ハ今夜中ニモ出發ノ筈ニ付「モロトフ」出發前回答スルハ事實不可能ナルヘシト言ヘルニ依リ本使ハ特使一行準備ノ都合モアルヘキニ付「モ」ノ出發前回答間ニ合ハサル場合ハ直接伯林ト電話等ニテ聯絡ノ上御返事ヲ希望スト述ヘ「ロ」モ當然右様取計フヘシト答ヘ何レニスルモ時ヲ移サス本使ノ書面ヲ「モ」

ニ交付スヘキ旨約束セリ
以上取急キ電報ス

1035

昭和20年7月13日
在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

特使の使命及び携行すべき提案要綱につき事

前通報方要請

モスクワ 7月13日後10時40分発
本省 7月14日後7時00分着

第一三八六號(緊急、嚴祕、館長符號)

往電第一三八五號ニ關シ

特使御派遣ニ對シ蘇側モ今回ハ同意シ來ルヘシト察セラル
ルモ實際回答ニ接スル迄ハ何トモ申シ難シ唯蘇側同意ノ場
合特使ノ任務カ貴電第八九〇號ノ如キ筋ニテ戰爭終結ニ對
スル蘇側利用ノ限度打診ノ範圍ヲ出テス若クハ貴電第八九
一號ノ如キ抽象的説明ニ止マルト言フニテハ到底問題トナ
ラス貴電第八九三號ニ依リ平和克服ニ就キ聖上御軫念ノ御
模様ヲ拜シ只管恐懼罷リ在ル次第ナルモ特別ノ御内意ヲ以
テ御派遣ノ特使カ齎スヘキ日本政府ノ提案ニシテ從來ノ範

疇ヲ出ス抽象的文句ヲ駢列セル具体性ニ乏シキモノナリト
セハ唯ニ當國要路ノ失望ヲ買フノミナラス日本政府ノ誠意
ナキ態度ニ大ナル不滿ヲ感シ惹テハ累ヲ皇室ニ及ホスニ至
ルヘク本使ハ此ノ點ニ付大ナル危惧ヲ感スルモノナリ
卑見ニ依レハ遙々特別ノ重要使節御派遣ニ決セラルル以上
其ノ使命タルヤ停戰講和ノ申出以外ニ何モノモ存スル筈ナ
キヲ確信ス蘇側ニテハ或ハ本使ヨリノ通報ニ依リ平和愛好
ノ聖旨ハ了解シタルモ使節其ノモノノ使命明カナラストテ
追報ヲ要求シ來ルヤモ知レス依テ委細ハ勿論特使到着ノ上
自ラ傳ヘラルベキモ蘇側ヨリ申出アル場合特使使命ノ眼目
ニ付豫メ説明ヲ與フル必要ヲ生スルヤモ計リ難ク何分ノ儀
御電示置キ相成度實ハ此ノ點爲念貴方ニ御確メシタル上ニ
テ貴電第八九三號ノ訓令執行ヲ可トスト信シタルモ何分
「モロトフ」出發間近トナリシ爲貴方ニ電照ノ暇ナク冒頭
往電ノ通り取計ヒタル次第ナリ但シ特使ノ携帯セラルヘキ
提案要綱ノ超重要性ニ鑑ミ本使モ篤ト攻究ノ上何等卑見ヲ
追電シ御參考ニ供スルコト考ヘ居レリ

1036

昭和20年7月13日

在ハルビン宮川総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

ソ連軍による南樺太進駐の可能性に関する情
報について

ハルビン 7月13日後1時00分発

本省 7月21日後5時00分着

第二一一號

(甲)情報

最近蘇側傳書使カ語りタルモノナリトテ當地蘇聯總領事館
員筋ヨリ傳ヘラルル所左ノ通

蘇聯政府ハ樺太南半ノ占領ヲ企圖シ北樺太ニ進駐軍ノ集結
ヲ終リ浦潮斯德ニ於テ施政要員ヲ教育中ナルカ米國政府ハ
蘇聯カ米艦隊ノ補給修理及避難ノ爲沿海州諸港ノ利用ヲ許
容セル代價トシテ南樺太ヘノ上陸作戰遂行ヲ承諾セルヲ以
テ右開始ト同時ニ蘇軍ハ治安保持ノ名目ノ下ニ南樺太ニ進
駐ヲ行フ豫定ナリ
滿、蘇ヘ轉電セリ

1037

昭和20年7月14日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ソ連首脳部のポツダム会談参加により回答遅
延の見通しをソ連側より申越しについて

モスクワ 7月14日後0時40分発

本省 7月15日前11時00分着

第一三八七號(大至急、館長符號)

往電第一三八五號ニ關シ

十三日深更外務部日本課長「ゲネラーロフ」ヨリ「ロゾフ
スキー」ノ本使ニ對スル傳言トシテ『「スターリン」及
「モロトフ」ノ出發ニ依リ回答ハ遅延スルニ付了承アリタ
キ旨』申越シタリ

1038

昭和20年7月15日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ソ連側へ和平斡旋を求めるにあたっては無条
件もしくは無条件に近い和平に応じざるを得
ない旨意見具申

モスクワ 7月15日後発
本 省 7月16日後着

第三三九二號(極祕、館長符號)

往電第一三八六號ニ關シ

「スターリン」「モロトフ」ハ十四日夜當地發伯林ニ向ヒタル模様ニテ本使ノ想像シ居リタルヨリハ少クトモ半日以上出發迄余裕アリタル筈ナルニ不拘特使御派遣ニ關スル本使申入ニ對スル蘇側回答遲延スト一應ノ回示アリタル他確答ヲ寄セ來ラサリシ經緯ヨリ考ヘ蘇側ニテハ本件ノ如キ重大影響ヲ齎シ得ル問題ニ關シ充分檢討ヲ加フルコトナク輕々ニ回答スルヲ避ケタルモノト察セラレ此ノ分ニテハ或ハ早急ニ先方回答ヲ期待シ得サルニアラスヤト危マル

蘇聯カ躊躇スル理由トシテ考ヘラルルハ

(一)戰爭終結ニ關スル聖旨ハ承ハリタリトシテ特使ノ齎ラスヘキ實際ノ使命カ戰爭終結ノ具体案ヲ提示スルニアリヤ否ヤ不明ナルコト

(二)日本側カ無條件降伏若ハ之ニ近キ媾和ヲ提議スルナレハ格別ナルモ左ニアラスシテ所謂「ネゴシエイテツド、ピイス」ヲ考ヘ蘇聯ノ仲介斡旋ヲ要望セントスルニアラス

ヤトノ懸念アルヘク此ノ場合蘇聯トシテハ到底受諾シ難シトナスヘキコト

(三)米英蘇三國協調カ強ク要望セラルル機微ノ時期ニ於テ日本ノ爲ニ三國間ニ水ヲ差サルルヲ避クヘシトスルコト

(四)來ルヘキ三巨頭會議ニ於テハ極東問題モ必然會議内外ノ話題ニ上ルヘク特使問題ニ付日本ニ確答ヲ與フルニ先立チ米英ノ動向ヲ見届クル要アリトスルコト或ハ「スターリン」ハ今回ノ日本側申入ニ付米英首腦者ニ内話シ其ノ意向ヲ質シタル上ナラテハ蘇側ノ態度ヲ決定シ難シトナスコト

等ノ事情ヲ想像シ得ヘキ處右ノ内(二)ノ「ネゴシエイテツド、ピイス」ニ付テハ今回ノ戰爭ハ大東亞戰爭ニ付テモ媾和談判ヲ以テ戰爭終結ノ條約ニ到達スルハ當初ヨリ米英殊ニ前者ノ強ク排除シ居ル所ニシテ此ノ意味ニテノ講和ニハ蘇聯モ曩ニ獨ニ無條件降伏ヲ溢リ且英米ヲ驅立テテ第二戰線ヲ設ケシメ其ノ協力ヲ得テ獨ヲ打倒シタル經緯ニ徴スルモ媾和條約ヲ談判セシムル方法ハ蘇聯トシテモ支持シ得サル所ニシテ結局帝國ニ於テ眞實戰爭終結ヲ欲スル以上無條件又ハ之ニ近キ媾和ヲ爲スノ他ナキコト眞ニ已ムヲ得サル所ナ

リトス然ルニ此ノ度ノ御内意ヲ拜誦スルニ至リタル迄ノ經過ニ付テハ屢次ノ貴電ニ依ルモ事情明カナラス戦争終結ニ對スル政府及軍部ノ意向如何モ明カナラス又愈々終決ニ決セラルル場合ハ更メテ御前會議ニ於テ去ル六月八日ノ會議決定ヲ覆ヘスニ足ル新タナル決議ヲ經サルヘカラスト思考セラルルニ不拘末タ此ノコトナクシテ直ニ特使御差遣ノ御内意ヲ洩レ承ルニ及ヒ今回御予定ノ特使カ結局(一)ノ點ニ於テ具體的條件ヲ具備セサルモノトナリ假令蘇聯ノ承諾ヲ得テ特使來訪ノコトトナルモ其ノ結果タルヤ却テ極メテ憂慮スヘキモノニ終ルナキヤ痛心ニ堪ヘサル次第ナリ

就テハ本電竝ニ往電第一三八二號及第一三八六號等篤ト御査閲ノ上愈々特使御差遣ニ決スル場合戦争終結ノ具體的提案ヲ齎スコトニ廟議御決定ヲ切望スル次第ナリ

1039

昭和20年7月17日 東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

特使派遣に関する情報の機密保持に留意方法
意喚起

本省 7月17日午後4時20分發

第九一〇號(緊急、館長符號)

十四日貴地發同盟ハ貴大使ト「ロゾフスキー」「モロトフ」トノ會談カ夫々十日及十一日二行ハレタル旨報シ居ル處今次重大交渉ニ關シテハ最高戦争指導會議構成員タル總理、本大臣、陸海軍大臣、及兩總長ノミノ關知スル所トシテ取扱ヒ居ル次第ニシテ本件カ漏洩スルコトアラシカ真ニ由々敷事態ニ立到ル惧アリ

就テハ貴方ニ於カレテモ貴大使ニ限り本件ヲ取扱フ建前ノ下ニ電信ノ發受其他ニ關シ特ニ嚴重ニ機密保持ニ遺憾ナキヲ期セラルル様致度

1040

昭和20年7月17日 東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

ソ連に対し和平斡旋を求めるが無条件降伏の
要求には応じ得ずとの日本側立場について

本省 7月17日午後5時00分發

第九一三號(緊急、館長符號)

貴電第一三九二號等ニ關シ

「現下ノ局面ニ於テ日「ソ」親善ヲ強化シ且又戦争終結ニ

「ソ」聯ヲ有效ニ利用スルノ困難ナルハ固ヨリ明ナルカ敢テ之ヲ行フハ時局ノ要請上止ムヲ得サルニ出ヅル次第ナリ從テ我方トシテハ「ソ」聯ヲシテ對日參戰ヲ爲サシメサルヲ以テ足レリトシ難キモノアルノミナラス之ヲ我ニ有利ニ誘導センカ爲ニハ其ノ希望ヲモ大幅ニ容認スルノ決意ノ下ニ本件交渉ニ當リツツアルハ往電第八九〇號ノ通ニシテ曰「ソ」親善強化ノ交渉ハ戰爭終結ニ對スル「ソ」聯ノ誠意アル幹旋ヲ誘導スル基盤トシテ且又對米英交渉ノ地歩ヲ強化スル爲ニモ必要視シ居ル處ナリ又戰爭終結ニ付テハ「ソ」聯ノ態度ヲ打診スルニ止マラス誠意アル幹旋ヲ爲サシムル様誘導スルニ努ムヘキモノトスニ、我方ノ戦力ハ今猶敵ニ相當ノ打撃ヲ與ヘ得ヘキコトハ統帥部ノミナラス政府ニ於テモ確信シ居ル處ナルカ反覆來襲スヘキ敵ニ對シテハ必スシモ萬全トノミ安心シ得サルモノアルヲ以テ戦力維持セラレ居ル今日米英カ日本ノ名譽ト存立ヲ認ムルナラハ戰爭ヲ終結セシメ戰爭ノ慘禍ヨリ人類ヲ救ヒ度キモ敵ニシテ飽ク迄無條件降伏ヲ固執スルニ於テハ帝國ハ一丸トナリ徹底のニ抗戦スルノ決心ナルハ畏クモ 上御一人ニ於テモ御決意セラレ居ル次第ナ

レハ蘇聯ニ依頼シテ無條件降伏ニ等シキ幹旋ヲ求メントスルモノニ非サルニ依リ此點特ニ御承知置相成度
三、特使派遣ニ關スル「ソ」側回答ハ成ルヘク速カニ「ソ」聯ノ同意ヲ取付クルコト極メテ肝要ナルニ付「ロゾウスキー」ヲ通シ右實現方極力御努力アリ度

~~~~~

1041

昭和20年7月18日

在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

無条件降伏の可否は国体護持を除外の上検討

すべき旨意見具申

モスクワ 7月18日後11時28分発

本省 7月20日前0時20分着

第一四一六號(大至急、極秘、館長符號)

貴電第九一三號ノニ、ニ關シ

往電第一三九二號其ノ他屢次ノ拙電中本使ノ所謂無條件又ハ之ニ近キ媾和トハ帝國ノ國体擁護問題ヲ除外シテノコトタルヤ論ナク國体問題ハ假令蘇側ニ貴電ニ依ル申入ヲナス場合ニ於テモ七千萬國民ノ絶對的要望トシテ強ク印象付クル様努力ノ要アルハ勿論ノ儀ニテ既ニ往電第一一四三號末

尾ニ附言シ置キタレハ此ノ儀ニ付誤解等生スル惧ナシト信スルモ爲念右申進ス

既ニ國体保持問題ハ取除キテノ上ナレハ無條件ト言フモ或ハ之ニ近キ條件ト言フモ畢竟程度ノ問題ニテ我ニ取り絶對的條件トハナスヘカラサルモノト思考シ居レリ冒頭往電ニ關シテハ熟考ノ上更メテ卑見申進シ度ク存シ居レリ

~~~~~

1042

昭和20年7月19日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

天皇メッセージは具體的提議を含まず特使の
目的不明瞭としてソ連側より受入れ拒否の回
答申越しについて

モスクワ 7月19日後2時30分発

本省 7月20日前10時30分着

第一四一七號(緊急、極秘、館長符號)

往電第一三八五號ニ關シ

十八日夜「ロゾフスキー」ヨリ本使宛親展書翰ヲ送付越シ
タリ其ノ内容左ノ通り

以書翰啓上致候陳者本官ハ七月十三日附貴翰竝ニ日本皇帝

ノ「メツセーヂ」ヲ受領セルコトヲ茲ニ確認スルモノナリ
「ソビエト」政府ノ命ニ依リ本官ハ日本皇帝ノ「メツセー
ヂ」中ニ述ヘラレタル思召ハ一般的形式ヲ有シ何等具體的
提議ヲ包含シ居ラサルコトニ付貴大使ノ注意ヲ喚起スルノ
光榮ヲ有ス「ソビエト」政府ニ取り特派使節近衛公爵ノ使
命カ何ニアルヤモ亦不明瞭ナリ

右ニ依リ「ソビエト」政府ハ日本皇帝ノ「メツセーヂ」ニ
付又七月十三日附貴翰中ニ述ヘラレタル特派使節近衛公爵
ニ付テモ何等確タル回答ヲナスコト不可能ナリ

本官ハ茲ニ貴大使ニ向ツテ敬意ヲ表シ候敬具

一九四五年七月十八日莫斯科ニ於テ エス、ア、ロゾフ

スキー

在蘇特命全權大使佐藤尙武殿

~~~~~

1043

昭和20年7月19日

在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

ソ連側の特使受入れ拒否に鑑み日本従来の方針  
によってはソ連を動かし得ずとの見解について

モスクワ 7月19日後4時42分発  
本省 7月20日午前11時10分着

第一四一八號(緊急、極秘、館長符號)

往電第一四一七號ニ關シ

特使御差遣問題ニ付テハ使命具體的ナラストテ蘇聯政府ヨリ一應拒否シ來レリ右ハ甚タ遺憾ノ次第ナルモ往電第一三八六號及第一三九二號ノ卑見申進ノ通り當國政府ニ對シテハ具體案ヲ以テ臨ム他ナキコト今回モ亦實證セラレタリ貴電第九一三號ノ二ノ御意見モ日本側トシテハ左ルコト乍ラ當方面ノ雰圍氣トハ甚シク遠サカリ居ルコト否ミ難ク貴見ノ如キ希望ヲ以テ當國ヲ動カサントスルモ目的ヲ達シ得サルヘキコト今回ノ特使拒否ノ態度ニ依リテモ略推知セラルル如シ

(編註)

編 注 訂正報により「一」に修正された。

~~~~~

1044 昭和20年7月20日 在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

国体護持のみを留保の上早期に戦争終結すべ

きとの意見具申

モスクワ 7月20日後6時30分発
本省 7月21日後2時30分着

第一四二七號(緊急、館長符號、嚴秘)

貴電第九一三號ニ關シ

慎重考量ノ結果左ニ本使ノ腹藏ナキ意見申進ス

一、米機動部隊ハ七月十四日以来本洲北部海面ニ行動ヲ開始シ釜石室蘭水戸地方ニ接岸シ艦砲射撃ヲ加ヘ其ノ艦載機ハ本土北海道間ノ連絡ヲ妨害シ多數ノ船舶ヲ撃沈シタリト傳ヘラレ之ニ對スル我方邀撃ハ敵側報道ニ依レハ海空軍トモ皆無ニ近シトノコトニテ右ハ遺憾乍ラ我方交戦力ノ低下ヲ如實ニ物語ルモノト考ヘラレ此ノ趨勢ヲ以テスレハ敵艦隊ノ行動ハ日ヲ逐フテ傍若無人トナルヘク現ニ今回來襲機動部隊ノ構成艦名竝ニ司令官ノ姓名迄麗々ト放送シ公然日本海軍ニ挑戦シ居レリ

二、他方「マリアナ」沖繩及硫黃島方面基地ヨリスル敵空軍ノ來襲モ殆ト連日本土各地ニ及ヒ大都市ハ既ニ廢墟ト化シ軍需生産施設、貯油所等ノ外小中都市迄爆撃ノ手伸ヒ來リ逐次炎上壞滅ヲ見ツツアリ

而シテ之ニ對スル我方防空措置モB二九ノ來襲初期頃ニ比シ低下ノ迹歴然タルモノアルカ如ク制空權モ亦敵ノ手ニ委シ去リタルモノト判斷セサルヲ得ス

三、一ト度制空權ヲ敵手ニ奪ハレタル後ノ我方戦力ハ加速度ヲ以テ降下スルコト獨逸ノ例ニ徴スルモ明カナリ而シテ一旦敵手ニ委シタル場合制空權ヲ取戻スハ外部ヨリノ援助ナクシテハ殆ント困難ニシテ帝國トシテハ滿洲内ノ航空機大量生産ヲ望ム外救ヒノ手ナキ次第ナルモ之トテ發達日尙淺キ滿洲産業ニ幾何ノ期待ヲ懸ケ得ヘキヤ確信ヲ有シ難キノミナラス其ノ滿洲國スラ近ク沖繩ヨリスル大爆撃ノ好餌タラントシツツアリ

四、本使ハ素ヨリ敵ノ本土上陸ノコトアリヤ否ヤヲ知ラスト雖モ亦其ノコトナカルヘキヲ斷言スル丈ケノ確信モ持合ハサス敵ノ「レイテ」比島上陸作戰ノ徹底振リヲ以テスレハ地理的條件ノ相違ハアルモ寧ロ上陸ヲ覺悟スルヲ要スヘキヲ信ズ

而シテ敵上陸決行ノ日アリトセハソハ我カ交戦力ヲ徹底的ニ潰滅セシメタル後ノコトタルヘキコト又明カナリ我ノ交戦力打倒ノ爲ニハ敵ハ直接軍事施設生産設備ノ破

壞都市爆撃等ノ外國民生活力ノ剝奪ニ力ヲ注クヘシ敵ハ我國ノ食糧難ヲ充分探知シ居ルヘク今秋ノ收穫カ我ノ戦力ニ如何ニ大ナル關係ヲ有スルヤニ付熟知シ居ルヘケレハ收穫時ニ際シ收穫物ノ破壊ヲ試ムコト絶無ナルヲ期セス例ヘハ全國ニ亘リ實リタル稻田ノ乾燥期ヲ見極メ一舉ニ之ヲ焼却スル如キ方法ヲ案出スルコト敵側ニトリテハ不可能事ニアラサルヘク又彼等トシテハ當然着ケ込ムヘキ我方ノ弱點トスヘシ

今秋ノ收穫ヲ失ハハ我ハ絶對的危機ニ瀕シ立所ニ戦争繼續不能ニ陥ルヘシ既ニ制空權ヲ奪ハレタル帝國ハ右ノ事態ニ對シ何等手ノ施スヘキモノナク敵ノナスカ儘ニ委セサルヲ得サルヘシ

五、⁽⁴⁾本使ハ交戦力壊滅シテ猶戦争ヲ繼續ルルヲ以テ不可能事トナスモノナルコト既ニ往電第一一四三號ニテモ申進シタル所ナリ然ルニ皇軍ハサナリ全國民モ亦至上命令ナキ限り敵ノ軍門ニ降ルヲ肯セサルヘク文字通り最後ノ一人トナル迄ヲ捨テサルヘシ去リ乍ラ敵ノ絶對優勢ナル爆撃砲火ノ下既ニ交戦力ヲ失ヒタル將兵及國民力全部戦死ヲ遂ケタリトモ爲ニ社稷ハ救ハルヘクモアラス七千萬

ノ民草枯レテ上御一人御安泰ナルヲ得ヘキヤ想フテ此所ニ到レハ個人ノ立場モ軍ノ名譽モ將又國民トシテノ自負心モ社稷ニハ代ヘ難シ即チ我ハ早キニ及ンテ媾和提唱ノ決意ヲ固ムル他ナシト言フニ歸着ス

六、媾和提唱ハ貴電第八九三號ノ特派使節ニ依リ莫斯科ニ於テ爲サルルヲ最モ至當トスト本使ハ考ヘ居タリ然ルニ特使差遣ハ不幸蘇側ノ拒否ニ會ヒ(往電第一四一七號)タルニ依リ何等他ノ辦法案出ノ要ニ迫レリ

而シテ一旦媾和ニ決スレハ其ノ結果日本國民ハ苛酷ノ條件甘受ノコトトナルハ避ケ難キ所ナルモ其ノ覺悟ヲ以テ出來得ル限り短期間内ニ彼我軍部代表者ニ依リ停戰協定ヲ了シ此ノ上ノ犠牲ヲ取止メシムヘシ

媾和提議ニ當リ我方ノ留保且力說ヲ要スルハ國體擁護ノ件ニシテ右ハ我方絶對ノ要求トシテ相手方ニ強ク印象ヲ與フルヲ要スヘキハ往電第一四一六號ニテ申進シタル所ナリ本問題ニ付テハ國體保持ノ問題ハ國內問題ナリトシテ媾和條件ヨリ除外スルコトモ或ハ一方法トスヘキカ但シ其ノ場合ニハ勢ヒ國內ニ於テ憲法會議ノ如キモノヲ召集シ形式的ニモ民衆ノ聲ヲ聽ク体裁トナスヲ要スヘク而

シテ本會議ニハ極左黨ノ如キ國體保持ニ公然反對ヲ唱フルモノ皆無ナルヲ期シ難ク又憲法會議召集夫レ自身我憲法ニ抵觸スルコトトナルヘキモ非常事態ニ對處セントスルモノナレハ違憲ノ非難ニ對シテハ何等適當ナル解決ヲ與フルヲ要スヘシ

他方此ノ形式ノ下ニ國體問題ヲ解決スルコトトセハ或ハ案外敵側ノ同意ヲ得ルコト容易トナルヤモ計リ難シ而シテ國民ノ總意ヲ以テ皇室推戴ヲ決議セハ我國體ハ世界的ニモ却テ重キヲ加フルモノトナルヘシ

七、本使ノ言ハントスル媾和提唱ハ國體擁護以外ノ敵側條件ヲ大抵ノ所迄容認セントスルヲ意味スルモノニシテ國體保持サヘ成レハ國家ノ名譽ト存立ハ最小限度保障セラルル譯ニテ貴電第九一三號ノ三ノ御趣旨ニ悖ラサルヘキヲ信ス(往電第一四一六號參照)

八、今ヤ帝國ハ正ニ文字通り興亡ノ岐路ニ立テリ此ノ儘交戰ヲ續行センカ國民ハ盡忠報國ノ誠ヲ盡シ得テ安シテ瞑目スヘキモ國其ノモノハ滅亡ニ瀕スヘシ最後迄大東亞戰ノ大義名分ニ忠實ナルハ可ナルモ社稷ヲ亡ホシテ猶ホ名分ヲ明カニセントスルハ無意味ニシテ國家ノ存立ハ總ユル

犠牲ヲ忍ヒテモ之ヲ護持セサルヘカラス

滿洲事變⁽⁷⁾以來日本ハ權道ヲ踏ミ來リ大東亞戰ニ至リテ遂ニ自己ノ力以上ノ大戰ニ突入セリ其ノ結果今ヤ本洲サヘ蹂躪セラレントスル危險ニ直面シ最早ヤ確タル成算ナキニ至レル以上早キニ及ンテ決意シ干戈ヲ收メテ國家國民ヲ救フコト爲政家ノ責務ナルヲ信ス勿論我ニ和議ヲ求ムル以上媾和條件ノ如何ナルモノナリヤハ獨逸ノ例ヨリ見テ略々察知セラルル所ニシテ國民ハ長期ニ亘リ敵國ノ重壓ニ喘ヘカサルヲ得ス然リ乍ラ國家ノ命脈ハ之ニ依リテ繼カルヘク斯クシテ數十年ノ後再ヒ以前ノ繁榮ヲ回復スルヲ得ヘケン政府ハ正ニ此ノ道ヲ撰フヘク斯クシテ一日モ早ヤク聖上御診念^(移)ヲ安シ奉ランコトヲ切願シテ已マス戰爭終決ノ曉ニハ國內各方面ニ徹底シタル改革ヲ施シ一般政治ヲ民象化^(移)シ官僚ノ跋扈獨善ヲ廢シテ眞ニ君民一如ノ實ヲ舉クルニ努ムルヲ要スヘク又滿洲事變以前ヨリ余リニモ外交ヲ輕侮シ國際關係ニ無頓着ナリシコトカ即チ今日ノ禍ヲ招キタル原因タリ

且又戰後ノ日本ハ常時國際關係ノ風波ニ揉マレ乍ラ活路ヲ見出スノ困難ニ遭遇スヘキニ想到シ將來外政ニ重點ヲ

置ク底ノ最善(脫カ)ノ政治組織ヲ採用スルヲ緊要トスト認ム

防共協定以來ノ我對外政策ハ完全ニ破綻セリ「ナチズム」ニ與ミシテ世界ヲ樞軸反樞軸ノ二勢力ニ分チタルコトカ抑々ノ起リニシテ此ノ過誤ハ將來ニ對シ明確ニ認識シ外交政策ノ根本的建直シヲナスヲ必要トスヘシ

六、宣戰ノ大詔ヲ拜シタル以上戰爭目的の完遂ニ全力ヲ傾倒スヘキハ全國國民當然ノ責務ニシテ本使モ亦爾ク心得ヘ微力ヲ致スニ努メタリ然レトモ事既ニ今日ノ情勢トナルニ到リテハ本使ハ卒直ニ今次戰爭ノ將來絶望トナリタル事實ヲ認識スルヲ要ストナスモノナリ敵本土ニ上陸シ來ラハ全力ヲ擧ケテ反撃シ米英ヲシテ攻メアグマシムヘシトスル論敬聽ニ値シ

又我々ノ戦力カ今尙敵ニ相當ノ打撃ヲ與ヘ得ヘキコトモ政府軍部ノ確信セラルル所ナルヲ信セントス(貴電第九一三號御回訓ニ)然レトモ右ハ我ニ於テ制空制海權ヲ喪失セサル前ノコトナラハ本使モ亦之ニ望ヲ繫キ得タルヘキモ如何セン今日ニ於テハ既ニ敵海空軍ノ連日ニ亘ル襲ヲ撃退シ得サル狀況ニ陥リ製産施設關係次々ト破壊セ

ラレ行クヲ現状トスルニ於テ更ニ又此ノ狀況ハ日ヲ經ルニ從ヒ一層迅速ニ發展シ行クヘキヲ思フトキ如何ニ我軍民勇戰敢闘ストスルモ所詮彼我勢力ノ不均衡ハ是正スヘクモアラス義勇隊組織ノ如キモ近代兵器ノ前ニハ多クヲ仕遂ケ得サルコト又論ナキ所ナリ斯クシテ敵本土上陸後寸地ヲ爭ヒ敢闘ヲ繰返ス内遂ニ力盡キ刃ヲ棄ツルノ已ムナキニ至リタル時機ニハ既ニ全國土ハ敵軍ノ蹂躪スル所トナリ國家ノ主權モ占領國ノ手ニ移ルヘキコト獨ノ先例ノ示ス如クナリ

本使ハ最早前途目的達成ノ望ナク僅ニ過去ノ情勢ヲ以テ抵抗ヲ續ケ居ル現状ヲ速ニ終止シ既ニ互惠ノ立場ニアラスシテ無益ニ死地ニ就カントスル幾十萬ノ人命ヲ繫キ以テ國家滅亡ノ一步前ニ於テ之ヲ食止メ七千萬同胞ヲ塗炭ノ苦ヨリ救ヒ民族ノ生存ヲ保持センコトヲノミ念願ス本使ハ政府ノ御所信ニ反スルヲ知りツツ敢テ此ノ言ヲ呈スルモノニシテ其ノ罪甚大ナルヲ自認ス而モ尙此ノ舉ニ出ル所以ノモノハ救國唯一ノ方策カ卑見ノ如クナラサルヲ得スト信スルカ故ニシテ假令之カ爲本使ハ敗戰主義者ヲ以テ非難セラルルモ之ヲ甘受スヘキニ依ル如何ナル責

任ニ問ハルモ謹テ御受ケスヘキコトヲ申添ユ
以上ヲ以テ本使ハ忌憚ナキ所信ヲ吐露スルヲ得タリ此ノ上ハ最早反復スルコトヲ爲サルヘク唯一片憂國ノ微衷本使ヲ驅テ此ノ言ヲ爲サシメタルヲ諒トセラレンコトヲ請フ願クハ本使ノ言カ寒心ノ餘リニ出テタル基礎ナキ謬見ニ終ランコトヲ祈願シテ熄マス



1045

昭和20年7月21日 東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

「大御心」を体した特使使命につきソ連側に

説明のうえ特使派遣への同意取付け方再訓令

本省 7月21日午後9時30分発

第九三一號(緊急、館長符號)

貴電第一四一七號及第一四一八號ニ關シ

近衛特派使節ノ使命ハ大御心ヲ体シ「ソ」聯政府ノ盡力ニ依リ戰爭ヲ終結セシムル様幹旋ヲ依頼シ此ニ關スル具体的意圖ヲ開陳スルト共ニ戰時及戰后ヲ通シ帝國外交ノ基本タルヘキ日「ソ」間協力關係樹立ニ關スル事項ヲ商議スルニ在リ

右「ソ」側ニ申入レ「ソ」聯政府カ特派派遣ニ同意スル様御努力相成度

尙往電第九三二號特ト御了承相成度

~~~~~

1046

昭和20年7月21日

東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

特派派遣に関する再訓令の具體的意圖について

本省 7月21日午後9時30分発

第九三三號(緊急、館長付號)

往電第九三一號ニ關シ

一、我方ニ於テハ無條件降伏(貴電第一四一六號了承濟ミ)ハ如何ナル場合ニ於テモ受諾シ得サルモノニシテ戰爭遷延ノ場合敵モ味方モ更ニ多クノ出血ヲ見ルコトハ明カナルモ敵ニシテ無條件降伏ヲ強要セムトスルニ於テハ全國一丸トナリ敵ニ當ラントスルモノナリ併シ乍ラ大御心ニ從ヒ右ノ如キ事態ニ立到ルコトヲ避ケンカ爲ニ「ソ」聯ノ斡旋ニ依リ此ノ際敵ノ所謂無條件降伏ニ非サル和平ヲ招來セントスルモノニシテ此ノ意圖カ結局米英側ニ徹底スル様極力努力スル要アリ從テ此ノ際無條件ニ「ソ」聯ニ

和平ノ斡旋ヲ依頼スルコトハ固ヨリ不可能ナルト同時ニ此ノ際直ニ具體的條件ヲ示スルコトハ之亦對内關係上竝ニ對外關係上不可能且不利ナルニ付其ノ間ノ機微ナル事情ノ下ニ近衛公ヲシテ大御心ニ基ク我方ノ具體的意圖ヲ「ソ」聯邦ニ傳達シ東亞ニ對スル「ソ」聯ノ要求ト睨ミ合ハセツツ話合ノ上米英側ニ當ラシメントスル次第ナリ  
ニ、本件カ帝國ノ安危ヲ決スル重大交渉ナルニ鑑ミ貴電第一四一七號先方ノ回答ノ如キニ就テモ充分蘇側ノ説明ヲ求メ其ノ眞意把握ニ萬全ノ措置ヲ講セラレ度シ  
三、本件特派派遣ハ政府ニ輔弼ノ責任アルハ勿論ノコトナルモ特ニ仁慈ヲ旨トスル大御心ニ依ル特別ノ使節トシテ差遣セラルル次第ナルニ付要アレハ此ノ點先方ニ説明セラレ度ク尙近衛公カ宮中ニ於ケル御信任竝ニ我國政界ニ於ケル地位カ卓越セルコトニ付テモ充分先方ニ印象セシムル様御留意相成度シ

四、冒頭往電第九三一號申入レハ絕對必要ニアラサレハ書面申入レハ避ケラレ度シ

五、尙貴電第一四二七號ノ御意見モ了承セル冒頭往電ニ付廟議決定セル次第ナルニ付此ノ上トモ御盡力仰度シ

~~~~~

昭和20年7月21日

在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ポツダム会談がソ連への特派派遣問題に与え

る影響について

モスクワ 7月21日後5時00分発

本 省 7月22日前12時35分着

第一四三三號(大至急、館長符號)

往電第一四一八號ニ關シ

(編注)

貴電第九一九號及往電第一四二二號ノ日本側和議提唱說ハ
今回ノ特派問題トハ直接關係ナシト推測セラルルモ十七日
ニハ既ニ三巨頭會談シ居ルニ付往電第一四一七號ノ蘇側十
八日夜ノ回答ハ三名話合ノ結果ナルヤモ計リ難ク然ラサル
場合ニ於テモ三國會談前ニ我方ヨリ特派御派遣ノ儀ニ付申
入レタルコト故會議中英米側ニモ傳ハルモノト考ヘ置クラ
要スヘシ

今回ノ會議ニ付テハ「ラヂオ」等ニ依ル情報甚シク貧弱ナ
ルモ頗ル友好的雰囲気内ニ會談續行セラレ三首腦者頻々私
的會合ヲ爲シ居ル模様ニ付蘇側ノ對日關係モ如何ナル不測
ノ發展ヲ見ストモ限ラス嚴ニ注意ヲ要スト存シ居レリ

編 注 本書第1075文書。

昭和20年7月25日

東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

米国における日本の無条件降伏論議をふまえ

特派派遣の意図をソ連側へ説明方訓令

本 省 7月25日後7時00分発

第九四四號(緊急、館長符號)

往電第九三二號ニ關シ

一、三頭會談ノ成行ハ本件ト緊密ナル關係アルコト申ス迄モ
ナキ儀ナル處「チャーチル」「アトレイ」ハ廿六日一應
歸英ノ筈ニシテ會談ハ暫時休會スルヤニ傳ヘラレ居レリ
就テハ貴大使ハ此ノ機會ヲ利用シ必要アラハ先方ノ選定
スル適當ナル地點ニ赴キ「モロトフ」ト面會シ帝國政府
ノ意圖ヲ親シク説明セラレ度シ「モ」ニ於テ會談ヲ取計
ヒ難シトスル場合ニモ貴大使ノ會見申入ハ我方ノ熱意ヲ
印象セシムル上ニ於テ效果アルヘシト存セラル

二、ソノ際貴大使ハ累次往電所載ノ通り帝國ニ於テハ先ツ蘇

聯ニ對シ斡旋ヲ依頼セル次第ヲ指摘セラレ特派派遣カ「スターリン」ヲシテ世界平和ノ提唱者タル地位ヲ獲得セシメントスルニアルト共ニ東亞ニ關スル「ソ」聯ノ要望ヲ十分ニ容認スル用意アルコトヲ明カニセラレ(往電第九三二號一末段參照)且蘇政府ニシテ我要望ニ冷淡ナル場合ニハ止ムナク他ノ經路及手段ヲモ考慮セサルヘカラサル次第ヲモ御承知ノ上蘇側ヲシテ速カニ積極的態度ニ出テシムル様誘導ニ努メラレ度シ

三、尙御承知ノ通り英米特ニ米國ニ於テハ目下對日無條件降伏要求ノ内容ニ付各種ノ論議行ハレ居ル處米側「スポークスマン」ノ發言ヲ檢討スルニ大体ニ於テ形式ニ於テハ飽ク迄無條件降伏ヲ固執シツツモ帝國力速カニ之ヲ受諾セハ實質ニ於テハ條件緩和ノ用意アル旨ヲ述ヘ居レリ例ヘハ十九日「ザカリアス」海軍大佐(戰時情報局員ナルモ米政府「スポークスマン」トシテ對日放送ヲ行フ)ハ日本ハ二個ノ選擇ヲ有スル處ソノ一ハ破滅ノ後「デイクテイテッド、ピース」ヲ甘受スルコトニシテ他ハ無條件降伏ヲ行ヒテ大西洋憲章ノ規定スル恩惠(ベネフィット)ニ浴スルコトナリトノ趣旨ヲ述ヘタルカ之等ハ單純ナル

謀略的宣傳トノミ觀ルハ當ラサルヘク或程度我方ヲ誘導セムトスルモノト認メラル特ニ米側カ大西洋憲章ニ言及セルハ此ノ際頗ル注目ニ値スヘク當方トシテモ無條件降伏ハ如何ナル場合ニモ受諾不可能ナルモ大西洋憲章ノ基礎ニ於ケル平和回復ニハ異存ナキ所ナル旨ヲ適當ナル方法ヲ以テ先方ニ通シ度キ意嚮ナリ但シ難點ハ無條件降伏ナル形式ヲ前提トスル敵ノ態度ニシテ米英ニシテ此點ニ拘泥スルニ於テハ本件ハ此ノ一點ニ依リテ悉ク挫折スル他ナカルヘシ他方蘇英米各政府ニ於テハ特派派遣ヲ以テ我方ノ和平謀略ニアラサルヤヲ警戒シ居ルコトモアルヘキニヨリ此點ニ付テハ再三申進メノ通り右カ單ナル「ピースフイーラア」ニアラス 聖上陛下ノ思召ヲ体スルモノナルコトト共ニ我方ニ於テハ極メテ穩當ナル條件ヲ以テ帝國ノ自存ト名譽トヲ確保シ以テ局ヲ結ハントスルニアルコトヲ理解セシムル必要アル次第ナリ特派訪莫ノ運ヒトナラハ當然之等ノ問題ニ付隔意ナキ話合行ハルヘキ筋合ナルモ三國會談トノ關係モアリ旁々米側最近ノ機微ナル情勢ニモ鑑ミ貴大使ニ於テハ上記ヲ御含ミノ上機ヲ失セス然ルヘク右ヲ「モ」(已ムヲ得サレハ差當リ「ロゾ

フスキー」ニ篤ト御説明ノ上先方ノ態度折返シ電報アリ度シ

1049

昭和20年7月25日
在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ロゾフスキーへ特使使命を説明のうえ受入れ
方再要請について

別電 昭和二十年七月二十五日発在ソ連邦佐藤大使

より東郷外務大臣宛第一四五〇号

特使派遣に関する日本側申入れ

モスクワ 7月25日後11時53分発

本省 7月26日後8時10分着

第一四四九號(館長符號、緊急)

往電第一四四一號ニ關シ

二十五日「ロゾフスキー」ニ會見別電第一四五〇號ノ申入

ヲ了シタリ尙右ニ引續キ左ノ如ク應答セリ

佐藤、以上申入ノ次第二依リ御承知ノ通り日本政府ハ戰爭

終結ニ關シ蘇聯政府ノ好意的斡旋ヲ求ムルト同時ニ日本

政府ノ具體的意圖ニ關シテハ近衛公爵ヲシテ直接説明セ

シメントスルモノニ付左様御了解置キアリタシ

「ロ」、唯今貴大使御申出ノ「テキスト」ヲ頂ケマシキヤ右
申出ノ内容ハ正ニ重要ナリ貴大使ヨリ書キ物ニテ頂ケハ
ヨリ正確ニ了解シ得ヘク聽取り書丈ケニテハ正確ヲ期シ
難ク又書キ物ヲ手ニシ得ハ政府ニ對シ報告上ニモ便宜ア
ルヘシ[?]

一、二質問シタキ點アリ(一)日本政府ハ英米トノ戰爭終結
ノ爲蘇政府ノ斡旋ヲ求ムルモノト了解ス(二)右ニ付近衛公
爵カ何等具體的提議ヲ齎ラスモノト了解ス然ル處右具體
的提議トハ戰爭終結ニ關スルモノナリヤ將又日蘇關係強
化増進ニ關スルモノナリヤ此ノ點明瞭ナラサルニ付貴大
使ノ御説明ヲ得テ政府ニ報告シタシ

佐藤、第一ノ點ニ付テ御答スレハ近衛公カ蘇聯政府ニ對シ
説明セントスル具體的意圖ハ本使ノ了解スル所ニ依レハ
貴代理ノ言ハレタル双方ノ點ニ關係アリト思考ス

即チ一ハ蘇聯政府ノ斡旋依頼ノ問題アリ、二ハ日蘇關係
ノ増強問題ニ關係スルモノト了解ス次ニ本使本日ノ申入
ヲ書物ヲ以テ差上クルコトハ本使ノ有スル訓令以外ノコ
トナレドモ唯今貴代理ノ言ノ如ク問題其ノモノカ重要ナ

ル上蘇聯政府ノ首腦部カ目下伯林ニ在ルニ鑑ミ本使限リノ取計トシテ貴代理御參考ノ爲後刻書キ物ニシテ差上クヘシ但申迄モナキコト乍ラ本問題ノ極メテ機微ナルニ顧ミ蘇聯政府ヨリ回答ヲ與ヘラルル迄ハ右書キ物ハ眞ニ極祕ノ取扱ヲナサル様願度シ尙一言附加シタキハ近衛公ノ使命ニ付テハ唯今本使ヨリ御話シタル通りナルカ同公ハ我宮中ノ御信任厚ク又本邦政界ニ卓越セル地位ヲ占メラルルニ鑑ミ本使ノ考ニテハ其ノ使命廣汎ニ亘リ蘇聯政府ニ幹旋ヲ依頼スルト同時ニ其ノ幹旋ヲ容易ナラシムル爲日蘇兩國間ノ問題ニ付テモ意見ヲ交換シ兩國將來ノ關係ニ迄立入り話セラルルコト思ハレ右様了解シ誤ナシト考フ

「ロ」、問題ノ機微ナル點良ク了解セリ又貴大使ノ申出力極祕ノモノナルコトモ良ク了解セリ

貴大使ヨリ書キ物ヲ受ケ次第直ニ政府ニ報告シ又政府ヨリ何等指示アラハ即刻御通知致スヘシ

佐藤、御好意ヲ謝ス本使個人トシテモ御返事ノ早カラシトヲ希望ス(尙辭去ニ際シ本使ハ更ニ左ノ通り附言セリ)近衛公ノ使命ニ關シ日本政府ノ目的トスル所ハ戰爭終結

ノ爲ニ蘇聯政府ノ盡力ヲ請ハントスルモノニシテ其ノ目的タルヤ善ト言フヘケレハ蘇聯政府ニ於テモ直接同公ヨリ話ヲ聽カルル機會ヲ持タル様貴代理ノ御幹旋ヲ希望ス

本日ノ會談ハ以上ヲ以テ盡スヘキ次第ノ處本使ヨリハ特使ノ使命ニ付反覆説明ヲ加ヘ相當「ロ」ニ對シ印象ヲ與ヘ得タル様感セラル殊ニ帝國政府カ蘇聯政府ノ幹旋ヲ求メラレタル點ハ彼ノ深キ注意ヲ喚起シタルモノノ如ク「ロ」ハ終始熱心且鄭重ナル態度ヲ以テ我方申入ヲ聽取シ且政府ノ回答ヲ約セリ

(別電)

モスクワ 7月25日後11時23分發

本 省 7月26日後4時40分着

第一四五〇號(館長符號、緊急)

往電第一四四九號ニ關シ

二十五日「ロゾフスキー」トノ會談ノ際本使ヨリ口頭ヲ以テ述ヘタル所左ノ通り(尤モ右ハ後刻書キ物ニテ「ロ」ニ送付スルコトナリタル次第ハ冒頭往電記載ノ通り)

二、去ル七月十三日貴人民委員代理トノ會見ニ於テ 天皇陛下ノ「メツセーヂ」ヲ御傳シ兼テ特ニ近衛公爵御差遣ノ御希望ナル旨ニ付テモ御話セリ右ニ對シ貴代理ヨリ十八日夜書面ヲ以テ 陛下ノ「メツセーヂ」ニ於テモ近衛公爵訪莫[○]ノ使節ニモ何等具体的ノモノナキカ故ニ蘇聯政府ニ於テ確答ヲ與ヘ得サル旨ノ御返事ニ接シタリ

三、本件ニ關シ本使ハ更ニ事態ヲ明確ナラシメンカ爲本日更メテ左ノ通り貴代理ニ申入レントス

陛下ノ御趣旨ヲ奉シ派遣セラルヘキ近衛特派使節ノ使命ハ戰爭終結ノ爲蘇聯邦政府ノ盡力御斡旋[?]ヲ同政府ニ依頼シ右ニ對スル具体的意圖ヲ同政府ニ開陳セントスルモノニシテ同時ニ戰時及戰後ニ亘リ帝國外交ノ基調タルヘキ日蘇關係ノ強化増進ニ關スル事項ニ付商議セントスルニアリ

三、本使ハ本國政府ノ命令ニ依リ以上ヲ蘇聯邦政府ニ申入ルルト共ニ 天皇陛下カ特ニ政府ニ命シテ本件使節ヲ派遣セラレントセラルルハ一ニ彼我交戰ニ依ル此ノ上ノ流血ノ慘ヲ差止メントスル御希望ニ出テタルモノニシテ右ニ關シ特派使節ハ蘇聯邦政府ニ對シ日本側ノ具体的意圖ヲ

開陳シ其ノ考量ヲ煩ハサントスルモノナルコトヲ繰返シ附言ス就テハ蘇聯邦政府ニ於テ本件特使ニ付充分ノ好意の考量ヲ拂ハレ至急右特使派遣ニ同意ヲ與ヘラルル様希望ス

尙前首相近衛公爵カ我宮中ニ於ケル御信任極メテ厚ク且日本ノ政治界ニ卓越セル地位ヲ占ムルコトハ蘇聯邦政府ノ夙ク承知セラルル所ニシテ茲ニ本使ヨリ説明ヲ附加スルニ及ハサル儀ナリト思考ス



1050

昭和20年7月26日

東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

特派派遣申入れに對するソ連側反應に關シ宮
中より報告方督促について

本省 7月26日午後6時00分発

第九四五號(館長符號、大至急)

貴電第一四四一號ニ關シ

廿五日ノ「ロ」トノ會談ノ電報ノ後半ハ本廿六日午後一時五十分接到シタルカ宮中ニ於カレテモ本件ノ推移ニ付御軫念アラセラレ今次我方申入ニ對スル「ソ」側ノ應酬振ニ付

電報未着ナリヤトノ御下問アリシ次第ナルニ付冒頭電報來示ノ如ク關係重要電報カ延着セルコト明ナル場合ニハ即刻當方ニ連絡セラレ再電ヲ求メラルル等適宜ノ措置ヲ講セラル様致度

~~~~~

1051

昭和20年7月27日  
在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

特派派遣申入れに対するソ連側回答の見通し  
とポツダム会談の影響について

モスクワ 7月27日後4時30分發  
本省 7月28日前10時10分着

第一四五八號(館長符號、緊急)

<sup>(1)</sup> 往電第一四四九號ニ關シ

今回ノ我方申入ニ對スル蘇側ノ回答カ如何ナルモノナルヘキヤ豫斷シ難キモ或ハ此ノ度モ亦日本政府ノ申入ハ單ニ蘇聯政府ノ斡旋ヲ要請シ居ル丈ケニテ如何ナル基礎ニ於テ右要請ヲナサルヤニ付其ノ概要サヘモ示スコトナク斯クテハ斯ノ如キ重大問題ニ關シ蘇側ノ態度ヲ輕々ニ決スルコト不可能ナリトテ再度ニ亘リ謝絶シ來ルヤモ計リ難ク萬一右

ノ如キコトトモナラハ何分我方ヨリハ此ノ上ノ流血ノ慘ヲ差止メントスル大御心ヨリ特派ヲ派遣セラレントスル次第ヲ強調シ居ルコトニ付蘇側ノ拒否ハ我方ヲ甚シク窮地ニ陥ラシメ引テハ此ノ上更ニ累ヲ皇室ニ及ホスニ至ラサルナキヤニ付痛ク憂慮セラル

本使ハ右申入ヲナスニ當リ近衛公ノ使命ニ關シテハ貴電第九三一號ニ御指示ノ通り帝國政府ノ「具體的意圖」ヲ開陳スルニアリト述ヘ何等具體的「提議」ヲナスヘシトスル印象ヲ與ヘサル様用心シタルモ「ロゾフスキー」ハ(二語不明)ヲ以テ「具體的提議」ヲ齎ラスモノト了解スト述ヘ何等具體的提案アルヘキヲ豫期シ居ルカ如キ口吻アリタル點特ニ注意ヲ要スト思考ス

蓋シ<sup>(2)</sup> 本大戰終了ノ如キ大問題ヲ提起スルニ當リ我方ニ確タル決心モナク唯廻リクドキ言廻シ方ニテ我方ノ意圖ヲ説明シ蘇側ヲ動カサントスル如キ不徹底ナル方法ハ到底考ヘラレサル所ニシテ此ノ點ニ付テハ蘇聯ハ明確ナル態度ニ出テ日本側ノ具體案提起ヲ強要スヘキコト殆ント疑ナシト認メラル

二十六日「ポツダム」ニテ發セラレタル米英支三國首腦者

ノ對日共同最後の宣言ハ我方ニ對シ威嚇ノ巨彈ヲ放チタル觀アリ此ノ三國攻勢ヲ前ニシテ果シテ蘇聯カ斡旋ヲ受諾スヘキヤ頗ル疑問視セラルルニ至レリ而シテ右三國宣言カ我方ノ戰爭終結ノ瀬踏ミニ對スル反撃ナルコトモ疑フヘカラス二十六日ノBBC放送ニ依レハ「マウントバッテン」ハ歸英ノ途次「ボツダム」ニ來リ極東戰爭ニ付米英蘇三巨頭ニ報告協議シタル由ニテ「スターリン」モ始メテ米英首腦者ト共ニ極東戰爭ニ付協議ニ與レリト附言セル點注意スヘク之亦我方申入ノ斡旋ニ對スル蘇聯ノ態度ニ影響ヲ及ホシ得ヘキ問題ナルヤニ危惧セラル御參考迄

1052

昭和20年7月27日  
在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

特派派遣に関する訓令電の延着等について

モスクワ 7月27日午後7時30分発  
本省 7月29日午前7時25分着

第一四六二號(館長符號、緊急)

貴電第九四五號ニ關シ

一、貴電第九三一號ハ當方ニテモ心待ちニシ居リタルモノニ

シテ貴電第九三三號ヨリ中一日遅レテ幸ヒ二十四日到着シタルニ付再電請求ヲナサスシテ濟ミタリ

二、三週間前迄東京發電カ當地着迄三、四日ヲ要シタルコト珍ラシカラス尙貴電第九四四號(五本モノ、緊急電)ハ二十六日接受シタルモ遂ニ解讀不能ナリシニ付即刻再電方請求セリ御取調請フ

1053

昭和20年7月27日  
在スウェーデン岡本公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

ソ連による対日参戦の可能性に関する情報

ストックホルム 7月27日午後5時40分発  
本省 7月28日午後4時35分着

第四九四號

諜報者報告(二十一日)

一、米國輿論ハ條件ヲ緩和セハ日本ハ降伏スヘシト見居ルカ如キモ米政府筋ニ於テハ日本ハ容易ニ屈伏セス飽迄戰爭遂行ノ要アリトシテ「ボツダム」會談ニ於テ極力蘇聯邦ノ參戰ヲ慫慂シ居リ未タ何等決定ニ達セサルモノノ如キモ蘇聯ノ態度ハ對日戰ニ參加セストノ樂觀ヲ許ササルモ

ノアルヤニ思ハル「ヤルタ」ニ於テ蘇聯ハ對獨戰終了後六個月以内ニ對日戰ニ参加スヘキコトヲ協定セリト言ハレ居リ來ル十一月上旬ハ六個月目ニ當ルニ依リ米國側ハ此ノ期日迄ニ参戰ヲ求メ若シ蘇聯ニシテ直ニ参戰シ得サル場合ニハ差當リ極東基地ノ供與ヲ要求スヘシト觀測セラル

ニ、「スターリン」ノ立場トシテハ疲勞シ切レル國民ヲ再ヒ對日戰ニ驅立テルニハ國內的ニ幾多ノ困難アリ又積極的ニ對日宣戰ヲ行フ理由無キモ蘇聯ハ間接的ニ對日敵對行爲ヲ爲シ(基地提供等)日本カ蘇聯ノ右敵性行爲ヲ排除スル爲蘇聯領基地ヲ攻撃シ來ル場合防衛戰ニ名ヲ藉リ且帝國主義的好戰國日本打倒ノ名目ヲ以テ國民ヲ對日戰ニ導キ得ヘシ現在蘇聯新聞論調ニハ反日態度ヲ見ヌ又「スターリン」ノ和平仲介談頻々トシテ傳ヘラルル如キモ右ハ蘇聯側ノ平和ヘノ努力ニ拘ラス蘇聯参戰ヲ餘儀無クセシメタルハ實ニ日本ナリト宣傳シ其ノ對日戰ヲ理由附ケントスル布石トモ見ルヲ得ヘシ

三、蒙古滿洲朝鮮ヲ保護領化スルコトハ蘇聯力戰後目標トスルトコロト見ラレ居リ宋子文ノ莫斯科訪問ノ際蘇聯ハ對

日参戰ニ先立ち先ツ支那ヨリ蒙古ノ自治權及滿洲ニ對スル蘇聯ノ保護權ニ關スル承認ヲ取付ケントシタルモノト見ラレ居レリ尙朝鮮ニ關シテハ未タ決定ヲ見ス之ヲ獨立國トスルコトニハ蘇支ノ意見一致ヲ見居ルモノノ如キモ結局参戰ノ代償トシテ蘇聯ノ勢力圈ヲラシムルコトヲ承認スルニアラスヤト解セラル



1054

昭和20年7月28日 東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

ポツダム宣言への対策は特使派遣申入れに對するソ連側回答受領後に決定との方針について

本省 7月28日前10時45分発

第九五二號(緊急、館長符號)

往電第九四四號ニ關シ

「英米重慶ノ「ポツダム」共同宣言ニ對スル蘇聯ノ立場如何ハ我方爾後ノ施策トモ關聯シ極メテ重要ナル問題ナル處從來右三國ノ對日會議經過カ(「ケベック」「カイロ」等)何レモ蘇側ニ通報セラレタリト稱セラルル經緯ニモ鑑ミ今次共同宣言ニ付テモ蘇側ニ於テ全然關知セサリシ

モノトモ考へ難キヤニ存ス

ニ、然レトモ我方ハ偶々特派遣ニ關シ蘇側ノ回答ヲ待チ居タル次第ニシテ本共同宣言ト我方申入レトノ關係ニ付疑ナキ能ハス共同宣言ハ右申入レトハ無關係ニナサレシモノナリヤ即蘇政府ハ右ヲ英米側ニ通報セリヤセサリシヤ又蘇側カ今後帝國ニ對シ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ之等ハ何レモ我方ノ關心事タルヲ失ハス

三、共同宣言ニ對スル對策ハ差當リ我方申入レニ對スル蘇側ノ回答ヲ待チテ檢討スル方針ニヨリ貴大使ハ右御含ミノ上至急可成「モロトフ」ニ面會シ冒頭往電ノ趣旨徹底ヲ期セラレ度ク尙其ノ際共同宣言ニ對スル「ソ」聯側態度ヲ探索スルニ努メラルル様致度

~~~~~

1935 昭和20年7月28日 在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

特派派遣に関する対ソ交渉方針の問題点について

モスクワ 7月28日午後3時25分発
本省 7月30日午前7時55分着

第二四七六號(緊急、館長符號)

貴電⁽¹⁾第九四四號ニ關シ

「右貴電(二十八日再電ヲ受ケ解讀ヲ了セリ)ハ往電第一四四九號第一四五〇號及第一四五八號ト行違トナリタル處「アトリー」新首相ハ同日「ポツダム」ニ歸還シ直ニ會議ニ參加シタリトノコトニテ貴電、ノ案ノ如キハ問題トナラス又假令我方ヨリ申出タリトテ蘇側ニ於テ本使ノ旅行ニ同意スル譯ナク唯我方ノ焦燥感ヲ露呈スル丈ニテ何等ノ益無カルヘシ

ニ、貴電ニハ先ツ蘇聯ニ斡旋ヲ依頼スト爲シ更ニ蘇政府ニシテ冷淡ナル場合ニハ他ノ經路及手段ヲ考慮スルノ已ムナキニ至ルヘシトアリテ或ハ蘇聯ヲ持揚ケ或ハ彼ヲ卸シテ我ニ都合良キ態度ヲ執ラシメントスル如キモノト感セラルルモ右ハ各般ノ事態ニ徴シ妥當ヲ缺クヤノ嫌アリ
三、貴電ニ米國側「スポークスマン」カ無條件降伏ヲ固執シツツモ我方カ速ニ受諾セハ實質ニ於テ條件緩和ノ意味ヲ仄カシ居レルハ當然ノコトヲ言ヒタル迄ニテ此ノ間ノ事情ヲ察シタレハコソ本使ヨリモ往電第一四二七號ノ意見具進ヲ爲シタル次第ナリ

「ザ」海軍大佐ノ放送カ幾何ノ權威アルヤヲ知ラサルモ

日本カ大西洋憲章ノ恩惠ニ浴シ得ヘシトノ彼ノ言ハ獨逸降服前英米カ獨ニ對シ同憲章ノ

均霑ヲ拒否シタル態度ト背致シ居リ又當時ノ拒否ノ理由

^(通)

カ現在ノ日本ニ對シテ緩和セラルヘキ何等ノ理由ヲ見出し得ス更ニ貴見ニ依レハ同憲章ノ基礎ニ於ケル平和恢復ニハ卸異存ナシトノコトナル處右ハ今日既ニ帝國ノ武裝解除ヲ受諾セラレタルモノトシテ解釋シ得ヘキヤ果シテ然ラハ何故ニ最初特使派遣ノ申入ヲ爲シタル際武裝解除ノ受諾ヲ併セテ通告セラレサリシヤノ疑問ヲ生ス朝鮮獨立ノ事前承認ニ付テモ同様ノ疑問起ルヘシ

四、廿六日ノ三國對日宣言ニ對シテハ日本政府ニ於テ之ヲ

「イグノア」スルニ決セル旨貴大臣ノ發表アリタル由BBCハ放送シ居ル處未タ其ノ旨ノ公電ニ接セス又一般情報ニモ記載ナキ處右默殺ノ有無ニ拘ハラス該宣言ハ英米支三國ノ公然ノ意思表示ニテ前記「ザ」大佐ノ所言ヲ乗越シタルモノナルノミナラス

⁽³⁾

現ニ重要ノ點ニ於テ相違シ居レリ(本宣言ニ於テハ日本ノ領域ヲ本州、四國、九州、北海道ニ限り言外ニ米ノ沖繩占有ヲ保留スルモノト解セラル)

五、貴電第八九三號ハ特使派遣ノコトノミナリシ處同第九三

一號ニハ蘇政府ノ斡旋ヲ求ムル旨明示セラレ更ニ同第九四四號ニ至リテハ特使派遣及「スターリン」ヲシテ世界平和提唱者ノ地位ヲ獲得セシメントスルニアル旨ヲ明カニスヘシトアリテ我方ノ意圖小出シトナリタル恨アリ又蘇側カ冷淡ナル態度ヲ示ス場合ヲモ考慮セラレアル如ク所謂他ノ經路若ハ手段カ何物タリ得ヘキヤ本使ニハ考ヘ及ハサルニ依リ困惑ヲ感シ居レリ

六、要スルニ本使ハ往電第一四五〇號申入ニ對スル蘇側ノ回答ヲ待チ居ルモノニシテ三十日(月曜)中ニモ返事ナクハ早速催促致度ク存シ居レリ

七、本電起草ヲ了シタル直後貴電第九五二號接到セリ三ノ「モロトフ」面會ハ帝國政府ニ於テ戰爭終結ノ具體的且確定的提案ニテモ爲サルナラハ格別サモナクハ本電一ニ記載ノ通ト御承知アリタシ

~~~~~

1056

昭和20年7月30日  
在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

ポツダム宣言との關係上ソ連側の特使受入れ

## は困難との見通しについて

モスクワ 7月30日後8時00分発

本 省 7月31日後9時55分着

### 第一四八〇號(館長符號、緊急)

貴電第九五二號ニ關シ

一、「ポツダム」共同宣言ハ事前「スターリン」ニ通告セラレサリシ筈ナク右ハ現在ノ米英蘇三國關係ヨリ推論シテ當然ノコトトナスヘク又右宣言カ我方特使派遣計畫ニ關係アルコトモ略推知シ得ル所ナリ即チ去ル十三日始メテ蘇側ニ申入レタル特使派遣問題ハ「ポツダム」ニ於ケル米英首腦者ニモ夫レトナク傳ハリタルモノトシテ考ヘサルヲ得ス之ニ對シ米英支三國ノ態度ヲ明確ニ表明センシタルモノカ今回ノ共同宣言ナリト推斷スヘキモノト思考ス二十五日本使ヨリ「ロゾフスキー」ニナシタル特使問題第二回申入(往電第一四四九號)ヲ米英首腦カ聞知シタル後二十六日ノ宣言ヲ發シタルヤ否ヤノ點ハ事實問題トシテ重要ニアラス又實際蔣介石ト打合セノ爲ノ時間等ヲ考ヘレハ二十五日ノ當方申入承知前ノコトナルヘシト想像セラルルモ何レニスルモ日本側ノ妥協平和締結工作

ノ氣配ヲ嗅付ケタル上ノコトナリトナササルヲ得ス此ノ間ノ事情ヲ知ルモノハ「スターリン」「モロトフ」ニ限り事ノ真相ヲ知ルコトノ困難ナル問題ニシテ我方トシテハ以上ノ如ク推論シ置ク外ナシト思考ス

二、右ニ付問題ノ重要點ハ共同宣言ニ於テ米英カ日本ノ即時

無條件降伏ヲ強要シ且宣言記載ノ條件緩和ノ意思ナキコトヲ明言シタル點ニアリ若シ「スターリン」ニ於テ右ノ點ニ關スル米英ノ意思到底動カスヘカラサルヲ觀破セハ我方申入ノ特使問題ハ承諾シ得サルコトナル譯ニテ如何ニ我方ヨリ戰爭ノ慘禍ヲ避ケントスル御仁慈ノ程ヲ説クモ將又「ス」ヲ世界ノ平和提唱者ニ祭上ケントスルモ別段ノ效果ナカルヘク米英ヲシテ言ハシムレハ戰爭ノ慘禍ヲ避クルハ即時無條件降伏ニ如クナシトナスヘク「ス」モ亦日本降伏ノ曉滿洲、支那、朝鮮等ニ關シ充分米英支ニ重壓ヲ加ヘ自己ノ主張貫徹ノ見込ヲ立テ居ルヘク又事實其ノ實力ヲ有スル譯ナレハ今好ンテ日本ト協定ヲナシ置ク必要皆無トナスヘシト想像セラルル此ノ點貴方御觀察ト當方面ノ實際トハ甚シク喰違ヒ居ルヤニ見受ケラル尙濠洲外相「エバート」ハ共同宣言カ獨ニ對シ執リタル



聯合國ノ態度ニ比シ日本ニ對シテ一段寛大ナル傾向アル  
點ニ於テ反對ナリト述ヘタル趣(三十日BBC)ハ戒心ヲ  
要スヘシ

以上往電第一四七六號ト併セ御閱讀ヲ請フ

~~~~~

1057

昭和20年7月30日 在ソ連邦佐藤大使より
東郷外務大臣宛(電報)

ロゾフスキーへ特使派遣申出に対する回答督
促について

モスクワ 7月30日後10時31分発
本省 7月31日後7時40分着

第一四八四號(館長符號、緊急)

往電第一四七六號ノ六ニ關シ

蘇側ノ回答或ハ遲延スヘキカト氣遣ハレタルニ依リ三十日
午後五時「ロゾフスキー」ニ面會シ我方ノ希望ニ付更メテ
申入ルルト共ニ左ノ通り應答セリ

佐藤、去ル二十五日戰爭終結ニ關スル幹旋方蘇聯政府ニ御
依頼シタル件ニ關シ御返事ヲ得ンカ爲參上セリ返事整ヒ
次第御通知アル筈ナリシモ本日ハ月曜日トモナリタルニ

付本使ノ方ヨリ伺ヒタリ

「ロ」、「スターリン」人民委員會議々長モ「モロトフ」外
務人民委員モ俱ニ伯林滯在中ニ付御返事迄ニ若干ノ時日
ヲ要スルハ已ムヲ得サル所ニシテ(一語不明)ハ遺憾乍ラ
未タ其ノ運ヒニ至ラス

佐藤、御事情ハ充分了解シ居レリ唯去ル二十六日英米支三
國對日共同宣言發表^(モロ)レラレ日本ニ對シ無條件降伏ヲ強ヒ
居ル處日本政府トシテハ無條件降伏ハ到底問題トナシ得
ス

右ハ前々回ノ會見(十三日)ニ於テ既ニ御話シタル所ナリ
乍併斯ノ如キ形式ヲ避ケ得ルナレハ日本ハ自國ノ名譽ト
存立カ保障セラルル限リ極メテ廣凡ナル妥協的態度ヲ以
テ戰爭終結ノ希望ヲ有ス仍テ蘇聯政府ノ幹旋ヲ依頼シタ
ル次第ナリ此ノ點人民委員會議々長「スターリン」總帥
ニ於テ篤ト御考慮セラレンコトヲ希望ス本日御回答ヲ得
ルニ至ラサルハ已ムヲ得ストシテ本使カ本日貴代理ノ許
ニ回答ヲ得ンカ爲參上シタルコトヲ「モ」委員ニ傳ヘラ
ルレハ幸ナリ

「ロ」、本官トシテハ是非本日中午ニモ(ブリ・マレイシエイ・

ウトズモルノスチ」貴大使ノ依頼ヲ「モ」ニ傳達方努力スヘシ

佐藤、左様御願ヒ出來レハ幸甚ナリ日本政府トシテハ天皇陛下ノ最信任セラルル近衛公爵ヲ特別ノ使節トシテ莫斯科ニ派遣スルコトニナリ居リ

右使節ハ前回申述ヘタル通日本政府カ極東平和ヲ如何ニシテ新ニ建設スヘキカニ付蘇聯政府ト廣キ範圍ニ亘リ御話シ其ノ上貴政府ノ幹旋ヲ願ハントス近衛公トノ話モ蘇聯政府側ヨリモ幹旋ニ關聯シテ種々ノ注文若ハ指示アルヘキカト思ハレ同公爵ハソレ等ノ問題ニ關シ廣汎ナル權限ヲ以テ蘇聯政府ト會談ノコトトナルヘシト本使ハ了解シ居レリ此ノ點モ併セテ「モ」ニ御傳ヲ請フ

「ロ」、早速御申出通取計フヘシ

佐藤、本使ノ恐ルルコトハ三國共同宣言カ日本政府ノ希望スル蘇聯政府ノ幹旋ヲ妨害スルニアラスヤトスル點ナリ然シ蘇聯政府ノ首腦カ殊ニ伯林ニ居ラルルコトニモアリ斯ノ如キ妨害ヲ除去スル爲適當ノ考量ヲ拂ハルルコトヲ本使ハ期待シ居レリ

「ロ」、御申出傳達方重ネテ御約束スヘシ

1058

昭和20年8月2日
東郷外務大臣より
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

和平条件の取纏め努力中につきソ連側に対し
重ねて特使受入れ要請方訓令

本省 8月2日発

第九七三號(緊急、館長符號)

貴電第一四八〇號ニ關シ

累次ノ貴電ニ依リ貴使意見ハ充分承知セル次第ニシテ右ハ現地大使ノ御見解トシテ本大臣ニ於テモ良ク了解シ得ル處ナルカ何分ニモ太平洋ノ戰局急迫シ敵ノ本土上陸前戰爭終末ヲ取運フカ爲ニハ餘日幾許モナキ一方國內ニ於テハ一氣ニ具體的和平條件ヲ決定スルノ困難ナルハ御推察ニ難カラサルヘシ差當リハ大御心ニ從ヒ戰爭終結ノ爲「ソ」聯ニ幹旋ヲ申出テ具體的條件ハ日「ソ」間ノ問題ト共ニ御上ノ信任厚キ近衛公ヲシテ「ソ」聯首腦部ト話合ヲ遂ゲシメントスルニ一致シ居ル政府統帥部ノ最高幹部ノ意向ニ依リ兎ニ角特使派遣ノコトニ決シ右事態確定ニ伴ヒ具體的條件ニ付各方面ノ意向ヲ取纏ムルコトニ努力中ナリ(其ノ場合「ポツダム」三國宣言ヲ我方條件考究ノ基礎トシ度キ所存ナリ)

從テ刻下ノ急務ハ「ソ」聯側ヲシテ特派遣ニ同意セシムルコトニアリテ御上ニ於カセラレテモ本問題ノ推移ニ深キ御軫念ヲ有セラレ總理、軍首脳部モ目下此一點ニ關心ヲ繫キ居ル次第ナリ就テハ右ノ事情篤ト御考量ノ上御意見ノ次第ハアルモ何トカ「ソ」聯側ヲシテ特派遣ニ對スル熱意ヲ起サシメ之ヲ受諾セシムル様此上トモ御努力願ヒ度ク此ノ際ノコトナレハ一日失フコトハ悔ヲ千載ニ殘スコトモナル次第ナルニ付「ソ」聯側ノ拒否の回答アリタルトキハ直ニ「モロトフ」ト會見往電第九四號ヲ適宜取捨セラレ篤ト御説得ノ上再應「ソ」聯側ノ考慮ヲ求メ速カナル回答ヲ取付ケラルル様一層ノ御努力ヲ得度シ

~~~~~

1059

昭和20年8月3日 在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

特派派遣につきソ連側説得は困難との見通し  
及び具体的和平条件の早期決定の必要性につ  
き意見具申

モスクワ 8月3日後11時発  
本省 8月5日前9時着

第一五一七號(緊急、館長符號)  
貴電第九七三號三日拜誦

一、「モロトフ」歸着次第早速會見方取計フヘキハ勿論ノ儀ナリトシテ貴電ノ如キ趣旨ニテ「ソ」側ニ近衛特使ノ來訪ヲ受諾セシメ得ヘキヤ本使ハ遺憾乍ラ自信ヲ有セス(二語不明)本使ノ見解ハ貴大臣ニ於テ現地大使ノ見解トシテ諒解シ得ヘシトセラルル所右ハ素ヨリ現地大使トシテ机上ノ理想論ヲナシ居ルモノニ非ス「ソ」聯政府ノ動向特ニ彼ノ對米關係ヲ篤ト攻究ノ上我方ノ態度トシテハ斯クナカルヘカラスト考ヘタル所ニ依リ卒直ニ卑見申進シタル次第ナリ我方ニ戰爭終結ノ具体案ナクシテ特派遣ヲ申入ルルモ「ソ」側ハ初メヨリ問題トセスシテ態ヨク謝絶スルカ又ハ派遣ヲ承諾スル場合條件トシテ具体案ノ大綱ノ提出ヲ求メ愈々<sup>推定</sup>斡旋ニ乗出スヤ否ヤノ肚ヲ決メントスヘク又幸ニシテ右ノ如キ前提條件ナクシテ派遣ヲ承諾シ來タル場合ニ於テモ莫斯科到着後「ソ」側ト協議ノ末漸ク我方態度ヲ決定セントスルカ如キコトニテハ到底埒明カス或ハ交渉ヲ中途ニシテ坐折引揚ノ已ムナキニ至ルナキヤヲ保セス

二、三日發表ノ「ボツダム」會議決定ニハ本邦ニ直接關係アル條項幸ヒニシテ皆無ニシテ少クトモ表面上「ソ」聯ノ極東戰爭不介入ノ態度ハ依然維持セラレタル觀アリ右ハ「スターリン」ノ方針不變ニ基キタルモノナルヘク依テ米英兩國首腦者ハ已ムナク對日問題ヲ直接關係國タル米英支三國ノ共同宣言ノ形トナシ三國ノ態度ヲ明確ナラシメ日本ノ最後の考慮ヲ促シタルモノト察セラル果シテ右様ノ推測ニシテ事實ニ近シトセハ「ソ」聯ノ態度ハ幾分我方ニトリ有利ナルカ如シト雖モサリトテ「ソ」聯カ三國共同宣言ヲ不問ニ附シテ迄我方特使ト話合ヲツクヘシトハ到底考ヘラレス結局我方ハ我レ自ラ三國宣言ニ對スル態度ヲ決メ右ニ基キ戰爭終結ノ具體的提案ヲ具シ「ソ」聯ノ斡旋ヲ求メサルヘカラス右ハ理ノ當然トスル所ニシテ又何人モ首肯セサルヲ得サル所ナリ本使ハ勿論「ロゾフスキー」ニ對シテハ特使ノ使命ニ付貴電御訓令ノ趣旨ヲ体シ往電第一四八四號ノ通述ヘ置キタルモ「ソ」側ノ意嚮ヲ忖度スレハ正ニ敍上ノ如クナラサルヲ得サルヲ得スト思考ス

三、貴電ニハ敵ノ本土上陸前戰爭終結ヲ取運フカ爲ニハ餘日

幾何モナシトアリ事態急迫ヲ痛感セシメラル右ハ制空制海權ヲ失ヒタル今日トナリテハ遺憾乍ラ當然ノ歸着トナサルヘカラス僅カ二ヶ月前臨時議會ニ於テ軍部大臣ヨリ敵本土ニ進攻シ來ラハ海上ニ於テ更ニ水際、陸上ニ於テ殲滅スヘシト報告アリタルヲ想起シ右ノ如キ戰法ハ最早用フルノ余地ナキヲ如實ニ示セリト（一語不明）上陸作戰ニハ充分ノ經驗ヲ積ミ來レル敵ヲ相手トシ我ハ貧弱ナル資材ヲ以テ防禦セントスルモノナレハ結局ハ時間ノ問題ニテ更ニ幾十萬ノ犠牲ヲ出シタル後屈服ノ外ナキニ至ルハ避ケ難キ所ナリ而シテ事茲ニ至ラハ民間ノ怨恨ハ政府軍部ニ集中シ遂ニハ累ヲ皇室ニモ及ホスニ至ルヘシ斯ノ如キハ絕對ニ避クルヲ要スル所ニシテ政府及軍部ハ遲キニ失セス敢然責任ヲ取り具體的戰爭終結案ヲ決定シ特使ヲシテ之ヲ齎ラサシメラレンコトヲ切望シテ已マス然ラサレハ切角ノ特使モ手ヲ空ウシテ歸還ノ已ムナキニ至リ却テ派遣セサリシニ如カサル如キ結果ヲ招來スヘキヲ惧ル

四、今ニシテ思ヘハ去ル六月三十日廣田「マリク」會談ハ當ニ具體的結果ヲ齎ササリシノミナラス今次ノ特使問題ニ

對シ寧ロ障礙タラサルヤヲ恐レシム右會談ニ於テ蘇側ハ日本側ノ提案ヲ見テ眞面目ヲ欠クト爲シタランベク今次ノ使節モ右會談直後ノコトナレハ凡ソ同様ノ線ニ沿ヒ大同小異ノモノトシテ豫斷スルハ蓋シ免レ難キ所ナリ

其、往電第一四二七號ニ對スル貴方御取計振ハ承知セサルモ時局急迫ノ今日最早遲疑ヲ許サス依テ誠ニ畏キ儀乍ラ御内奏ノ御序ヲ以テ御披露ヲ仰キ度ク又最高指導會議首腦者方面ニモ閱覽ノ機會ヲ與ヘラレ度ク斯クシテ帝國最後ノ決意ヲ促スニ利セシメラレンコトヲ切望ス

1060

昭和20年8月6日 東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

モロトフ帰国につき至急会見の上回答督促方訓令

本省 8月6日後5時00分発

第九九一號(緊急、館長符號)

「スターリン」「モロトフ」本日「モスコ」ニ歸還セル趣ナルカ諸種ノ都合アルニ付至急「モ」ト會見ノ上回答督促セラレ度シ

1061

昭和20年8月7日 東郷外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

形勢逼迫につきソ連側回答至急確認方訓令

本省 8月7日後3時40分発

第九九三號(緊急、館長符號)

貴電第一五一九號ニ關シ

形勢益々逼迫シ「ソ」聯側ノ明白ナル態度速カニ承知致度キニ付急速回答御取付相成様此上トモ御盡力ヲ得度シ

1062

昭和20年8月7日 在ソ連邦佐藤大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

モロトフより会見了承方通報について

モスクワ 8月7日後7時50分発

本省 8月8日後0時00分着

第一五三〇號(館長符號、緊急)

往電第一五一九號ニ關シ

「モロトフ」歸莫ト共ニ早速會見方申込ミ「ロゾフスキー」ニモ右幹旋方重テ依頼セル處七日「モ」ヨリ明八日午後五時會見シ得ヘキ旨豫告シ來タレリ